Canon
キヤノン株式会社
キヤノン販売株式会社
〒108-8011　東京都港区港南2-16-6

製品取り扱い方法に関するご相談窓口

お客様相談センター（全国共通電話番号）

050-555-90002

受付時間：平日9:00～20:00
土・日・祝日10:00～17:00
（1月1日～1月3日は休ませていただきます）

※ 上記番号をご利用いただけない方は、043-211-9556をご利用ください。
※ IP電話をご利用の場合、プロバイダーのサービスによってつながらない場合があります。
※ 受付時間は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

キヤノンサービスセンター

別紙でご確認ください。

キヤノンデジタルカメラホームページのご案内

キヤノンデジタルカメラのホームページを開設しています。最新の情報が掲載されていますので、インターネットをご利用の方は、ぜひお立ち寄りください。

キヤノン株式会社	http://canon.jp/bebit/
キヤノン販売株式会社 デジタルカメラ製品情報	http://canon.jp/dc/
キヤノン販売株式会社 サポート	http://canon.jp/support/
CANON iMAGE GATEWAY	http://www.imagegateway.net/

CDI-J186-010　XXXXXXX　　PRINTED IN JAPAN

Canon キヤノンデジタルカメラ PowerShot S80 カメラユーザーガイド

Canon

キヤノンデジタルカメラ

CDI-J186

PowerShot S80

応用編



カメラユーザーガイド

はじめにお読みください

本書では、カメラの機能や使いかたを詳細に説明しています。

DiG!C II　PictBridge　DIRECT PRINT　BUBBLE JET DIRECT　Exif Print　DPOF　CERTIFIED HI-SPEED USB　CANON iMAGE GATEWAY

主な特長

撮影

- シャッターを押すだけで簡単に撮影できるオート撮影、多彩な機能を活用できるシャッタースピード優先AE、絞り優先AEなど、思いどおりの撮影が楽しめます。
- 光学ズームで3.6倍、デジタルズームと合わせて最大約14倍まで拡大して撮影できます。
- 高精細でなめらかな動画を音声付きで撮影できます。
- SIセンサーを搭載しているため、カメラの縦横位置を自動的に判別します。
- 画像の色味を変化させて撮影できます（マイカラーモード）。
- 別売のワイドコンバーター、テレコンバーターを装着して撮影できます。

再生

- 動画を音声付きで再生できます。
- スライドショー機能で画像を自動的に再生できます。

編集

- 撮影した画像に音声メモを記録できます。
- 記録した動画を編集できます。

印刷（プリント）

- カメラダイレクト対応プリンター（別売）に接続し、パソコンを使わずにイージーダイレクトボタンを押すだけで、高画質なプリントを得られます。
- 撮影した画像は、従来の写真と同様に、プリント取り扱い店でデジタルプリントできます。また、インターネットを通じてオンラインプリントもできます。
- このカメラは、標準規格「PictBridge（ピクトブリッジ）」に対応していますので、キヤノン製以外のプリンター（PictBridge対応）にも接続でき、カメラからの簡単な操作でプリントできます。

撮影した画像の活用

- パソコンに画像を取り込んで編集できます。
- カメラをパソコンに接続し、イージーダイレクトボタンを押すだけで、簡単に画像を取り込めます。

- 撮影した画像や音声は、カメラの起動画面や起動音、シャッター音として設定できます。
- 撮影した画像をインターネットを通じてアップロードし、オリジナルアルバムを作成できます。また、そのアルバムをご友人やご家族にも公開できます。

アクセサリーはキヤノン純正品のご使用をおすすめします。

本製品は、キヤノン純正の専用アクセサリーと組み合わせて使用した場合に最適な性能を発揮するように設計されておりますので、キヤノン純正アクセサリーのご使用をおすすめいたします。なお、純正品以外のアクセサリーの不具合(例えばバッテリーパックの液漏れ、破裂など)に起因することが明らかな、故障や発火などの事故による損害については、弊社では一切責任を負いかねます。また、この場合のキヤノン製品の修理につきましては、保証の対象外となり、有償とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

Li-ion リチウムイオン電池のリサイクルにご協力ください。

ガイドの使いかた

本　書　カメラに付属

システムマップ
- 付属品・別売品の紹介
- 周辺機器との接続

カメラユーザーガイド（基本編）
- カメラの準備〜撮影〜再生/消去の操作方法
- メニューの表示/設定方法
- パソコンとの接続方法

カメラユーザーガイド（応用編）
- 取り扱い上のご注意
- 撮影や再生のいろいろな機能の説明

ダイレクトプリント ユーザーガイド
- プリンターとの接続方法とプリント方法

ソフトウェア クイックガイド
- 付属の CD-ROM に収められている各ソフトウェアの主な機能
- パソコンに必要なシステム構成
- ソフトウェアのインストール方法
- カメラで撮影した画像をパソコンに取り込む方法

＊「Windows® XP、Mac OS Xをお使いの方へ」もお読みください。

ZoomBrowser EX ソフトウェアガイド（Windows）/ ImageBrowser ソフトウェアガイド（Macintosh）
- ZoomBrowser EX (Windows)、ImageBrowser (Macintosh) の詳細な使いかた

修理サービスご相談窓口
- 修理に関するお問い合わせ先

表記について

見出しの下にあるマークは、この操作が行えるモードを表しています。
下の例では、撮影モードが次のときに操作できます。

・AUTO（オート）・M（マニュアル）・（マイカラー）・（動画）

モードダイヤル
AUTO M

：カメラを正しく動作させるための注意や制限を記載しています。

：カメラを使用するにあたって知っておくと便利になること、参考になることを記載しています。

このカメラでは、SD＊メモリーカードとマルチメディアカードをお使いになれます。このガイドでは、これらをメモリーカードと表記します。

＊ SD＝Secure Digital（著作権保護システム）の略

目次

☆ではこのカメラの機能や操作をまとめて説明しています。

ご使用の前に

第 1 章　準備

第 2 章　よく使う撮影

第 3 章　モードダイヤルを使う

第 4 章　いろいろな撮影

第 5 章　再生／消去

必ずお読みください

ためし撮り

必ず事前にためし撮りをし、画像が正常に記録されていることを確認してください。
万一、このカメラやメモリーカードなどの不具合により、画像の記録やパソコンへの取り込みがされなかった場合、記録内容の補償についてはご容赦ください。

著作権について

あなたがこのカメラで記録した画像は、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興業、展示物などのうちには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

保証について

このカメラの保証書は国内に限り有効です。万一、海外旅行先で、故障・不具合が生じた場合は、持ち帰ったあと、国内の「お客様相談センター」にご相談ください。

本体温度について

このカメラは、電源を入れたあと長時間お使いになっていると、本体温度が高くなることがありますが、故障ではありません。

液晶モニターについて

液晶モニターは、非常に精密度の高い技術で作られており99.99% 以上の有効画素がありますが、0.01%以下の画素欠けや、黒や赤の点が現れたままになることがあります。これは故障ではありません。また、記録されている画像には影響ありません。

安全上のご注意

- ご使用前にこの「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
- ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。内容をよく理解してから本文をお読みください。
- 本文中の「本機器」とは、カメラ、バッテリー、バッテリーチャージャー、別売のコンパクトパワーアダプター、カーバッテリーチャージャーおよびハイパワーフラッシュを指します。

⚠ **警告** この警告事項に反した取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性があることを示します。 ⚠ **注意** この注意事項に反した取り扱いをすると、人が傷害または物的損害を負う可能性があることを示します。	△記号は、取り扱いを誤ると、事故につながる可能性があることを示します。記号の中の図は、注意事項を意味します。 ⃠記号は、禁止の行為を示します。記号の中の図は禁止事項を意味します。(左図:分解禁止) ●記号は、必ず守っていただきたいことがらを示します。記号の中の図は指示内容を意味します。

メモリーカードについて

メモリーカードをお子様の手の届かないところに保管してください。誤って飲み込むと危険です。万一、飲み込んだ場合には、ただちに医師にご相談ください。

⚠ 警　告

- **カメラで太陽や強い光源を直接見ないようにしてください。**視力障害の原因となります。
- **ストロボを人の目に近づけて発光しないでください。**目の近くでストロボを発光すると、視力障害を起こす可能性があります。特に、乳幼児を撮影するときは 1m 以上離れてください。
- **本機器はお子様の手の届かないところに保管してください。**お子様が誤って本機器やバッテリーを破損すると危険です。また、誤ってストラップを首に巻き付けると、窒息することがあります。

- **本機器を分解、改造しないでください。**高電圧がかかり、感電する原因となることがあります。内部の点検、調整、修理はお買い上げになった販売店またはキヤノンサービスセンターにご依頼ください。

- **落下などにより、ストロボ部分が破損した際は、内部には触れないでください。**さらに、内部が露出した際は、絶対に手を触れないでください。高電圧がかかり、感電する原因となります。速やかに、お買い上げになった販売店またはキヤノンサービスセンターにご連絡ください。

- **煙が出ている、焦げ臭いなどの異常状態のまま使用しないでください。**火災、感電の原因となります。すぐに機器本体の電源を切り、その後必ずバッテリーを外し、電源コードの差し込みプラグをコンセントから抜き、煙が出なくなるのを確認して、お買い上げになった販売店またはキヤノンサービスセンターにご連絡ください。

- **本機器を落としたり外装を破損した場合は、まず、カメラの電源を切り、バッテリーを外し、電源コードの差し込みプラグをコンセントから抜いてください。**そのまま使用すると火災、感電の原因となります。お買い上げになった販売店またはキヤノンサービスセンターにご連絡ください。

- **本機器内部に水などを入れたり、濡らしたりしないでください。**本機器には防水処理が施されていません。水滴がかかったり、潮風にさらされたときには、吸水性のあるやわらかい布で拭いてください。万一、内部に水や異物などが入った場合は、まず、カメラの電源を切り、バッテリーを外し、電源コードの差し込みプラグをコンセントから抜いてください。そのまま使用すると火災、感電の原因となります。お買い上げになった販売店またはキヤノンサービスセンターにご連絡ください。

- **お手入れのときは、アルコール、ベンジン、シンナーなどの引火性溶剤は使用しないでください。**火災の原因となります。

- **電源プラグを定期的に抜き、その周辺およびコンセントに溜まったほこりや汚れを乾いた布で拭き取ってください。**ほこり、湿気、油煙の多いところで電源プラグを長時間差したままにすると、その周辺に溜まったほこりが湿気を吸って絶縁不良となり、火災の原因となります。

- **電源コードに重いものを載せたり、傷つけたり、破損したり、加工しないでください。**漏電して、火災、感電の原因となります。
- **濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。**感電の原因となります。また、電源プラグを抜くときは、必ずプラグを持って抜いてください。電源コードを引っ張ると、芯線の露出、断線などでコードが傷つき、火災、感電の原因となります。
- **本機器専用以外の電源は使用しないでください。**発熱、変形して、火災、感電の原因となります。
- **バッテリーを火に近づけたり、火の中に投げ込まないでください。**また、水や海水に濡らしたりしないでください。バッテリーの破裂、液漏れにより、火災、けがの原因となります。
- **バッテリーを分解、改造したり、加熱しないでください。**破裂により、けがの原因となります。万一、バッテリーの電解液が漏れ、衣服、皮膚、目、口に付いたときは、ただちに洗い流してください。
- **バッテリーを落とすなどして強い衝撃を与えないでください。**外装が破損した場合、バッテリーの液漏れにより、けがの原因となります。
- **キーホルダーなどの金属類でバッテリーの「⊕」と「⊖」の端子を接触(ショート)させないでください。**発熱し、やけど、けがの原因となります。
- **バッテリーを廃却する場合は、接点部にテープを貼るなどして絶縁してください。**廃却の際、他の金属と混じると、発火、破裂の原因となります。
- **指定されたバッテリーを使用してください。**それ以外のものを使用すると、バッテリーの破裂、液漏れにより、火災、けがや周囲を汚す原因となることがあります。
- **バッテリーパック NB-2LH を充電する場合は、バッテリーチャージャーを使用してください。**それ以外のものを使用すると、発熱、変形して火災、感電の原因となります。
- **バッテリーチャージャー、コンパクトパワーアダプターは、充電終了後および使用しないときは、カメラと電源コンセントの両方から外してください。**長時間接続しておくと、発熱、変形して火災の原因となります。

- **バッテリーチャージャー、コンパクトパワーアダプターの出力端子は、このカメラ専用です。**他の製品にはお使いにならないでください。火災の原因となることがあります。
- **バッテリーチャージャーの出力端子は常にきれいにし、その上に金属類を置かないでください。**火災の原因となることがあります。
- **別売のワイドコンバーター、テレコンバーター、コンバージョンレンズアダプターを取り付けるときは、確実にねじ込んでください。**緩んで脱落して割れると、ガラスの破片でけがをすることがあります。

磁気について

カメラのスピーカー(p. 14)に磁気の影響を受けやすいもの(クレジットカードなど)を近付けないでください。それらのデータが壊れて、使用できなくなることがあります。

⚠ 注　意

- **直射日光のあたる場所、および車のトランクやダッシュボードなどの高温になるところで使用・保管しないでください。**バッテリーの液漏れ、発熱、破裂により、火災、やけど、けがの原因となることがあります。また、機器外装が熱により変形することがあります。また、バッテリーチャージャーで充電する際は、風通しのよいところでお使いください。
- **湿気やほこりの多い場所に保管しないでください。**火災、感電、故障の原因となることがあります。
- **カメラをストラップで下げているときは、他のものに引っ掛けたり、強い衝撃や振動を与えないように注意してください。**けがや本体の故障の原因となることがあります。
- **ストロボの発光部分を手や布などで覆ったまま発光しないでください。**煙や音が出て、故障の原因となることがあります。また、連続発光後、発光部分に触らないでください。やけどの原因となることがあります。
- **ストロボ発光部分にゴミやほこりなど異物がついたまま発光しないでください。**発熱によりストロボ発光部分の損傷の原因となることがあります。

- **バッテリーチャージャーやコンパクトパワーアダプターは、必ず指定された電源コンセントを使用し、定格を超えて使用しないでください。**地域によって、電源プラグ部分が異なります。本書の「付録」をご覧ください。
- **バッテリーチャージャー、コンパクトパワーアダプターの電源コードや電源プラグが傷んでいたり、コンセントの差し込みが不十分なまま使用しないでください。**
- **電源プラグや充電端子部に金属製のピンやゴミを付着させないでください。**

故障を防ぐためのご注意

■電磁波による誤作動、破壊をふせぐために

カメラをモーターや強力な磁場を発生させる装置の近くに、絶対に置かないでください。電磁波により、カメラが誤作動したり、記録した画像や音声のデータが破壊されることがあります。

■結露をふせぐために

カメラを寒い場所から急に暑い場所に移すと、カメラの外部や内部に結露(水滴)が発生することがあります。
カメラを寒い場所から暑い場所に移すときは、結露の発生を防ぐために、カメラをビニール袋に入れて密封しておき、周囲の気温になじませてから、袋から取り出してください。

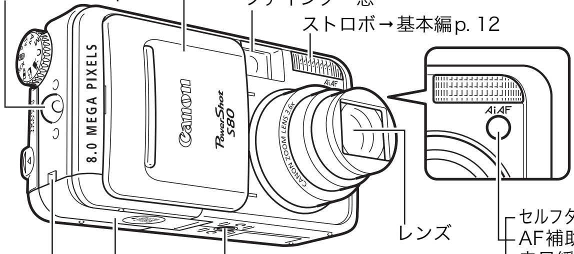
■結露が発生したときは

故障の原因になりますので、カメラをお使いにならないでください。
メモリーカード、バッテリー、コンパクトパワーアダプターをカメラから取り外し、水滴が自然に消えるまで常温で放置してから、カメラをお使いください。

■カメラを使用しないときは

バッテリーをカメラやバッテリーチャージャーから取り出して、安全な場所に保存しておいてください。
バッテリーを入れたままにしておくと、バッテリーが消耗します。また、液漏れが原因で、故障することがあります。
ただし、バッテリーを取り出してから約3週間経過すると、設定した日付/時刻やカメラの設定が解除される場合があります。

各部の名称



カメラにパソコン、またはプリンターを接続するときに使用するケーブルは、以下のとおりです。

パソコン(基本編 p. 17)

- インターフェースケーブル IFC-400PCU(カメラに付属)

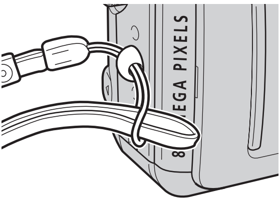
カメラダイレクト対応プリンター(別売)

- コンパクトフォトプリンター(SELPHY CPシリーズ):インターフェースケーブルIFC-400PCU(カメラに付属)
- PIXUSシリーズ/SELPHY DSシリーズプリンター
  - PictBridge対応プリンター:インターフェースケーブルIFC-400PCU(カメラに付属)
  - Bubble Jetダイレクト対応プリンター:プリンターの説明書でご確認ください。
- キヤノン製以外のPictBridge対応プリンター:インターフェースケーブルIFC-400PCU(カメラに付属)

このカメラで使えるカメラダイレクト対応プリンターについては、システムマップまたは、ダイレクトプリントユーザーガイドでご確認ください。

リストストラップを取り付ける

図のようにストラップを
取り付けます。

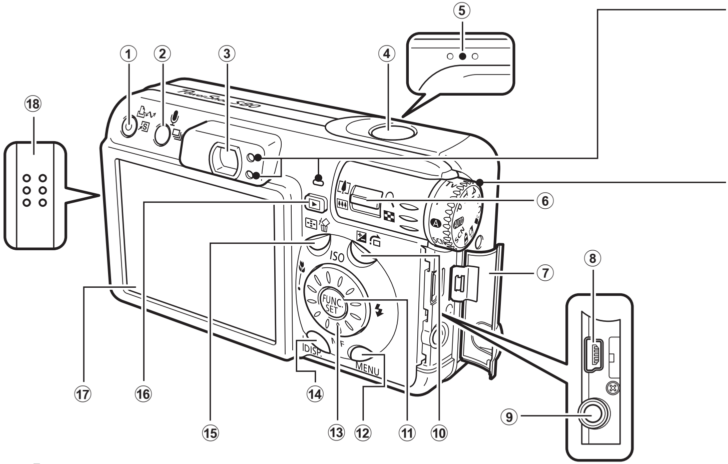


カメラをリストストラップで下げているときは、振り回すような持ち方を避け、他のものに引っ掛からないように注意してください。

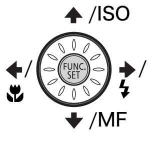
AF補助光について

- 暗い場所などでシャッターボタンを半押ししたとき、ピントを合わせやすくするために、AF補助光が光ることがあります。
- AF補助光を切ることもできます(p. 30)。
  例えば、暗い場所で動物を撮るときなど、AF補助光で動物を驚かせて逃がすことなく撮影できます。
  ただし、以下のことに注意してください。
  - AF 補助光を切ると、暗い場所などでピントが合いにくくなることがある
  - AF 補助光を切っても、［赤目緩和機能］が［入］のときは、赤目緩和ランプが光ることがある

操作部



① （イージーダイレクト）/ （ショートカット）ボタン→基本編 p. 23, p. 63
② （連写）/ （セルフタイマー）/ （マイク）ボタン→ p. 43, 39, 100
③ ファインダー接眼部→ p. 17
④ シャッターボタン→基本編 p. 7
⑤ マイク→ p. 100
⑥ ズームレバー
撮影時：（広角）/（望遠）
→基本編 p. 11, p. 42
再生時：（縮小）/ （拡大）→ p. 91
⑦ 端子カバー
⑧ DIGITAL（デジタル）端子
→ 基本編 p. 20
⑨ A/V OUT（映像/音声出力）端子→ p. 117
⑩ （露出補正）/ （ジャンプ）ボタン→ p. 73, 93
⑪ FUNC./SETボタン
→ 基本編 p. 15, p. 28
⑫ MENU（メニュー）ボタン
→ 基本編p. 15, p. 28
⑬ 十字ボタン/コントローラーホイール
→ p. 16
（上）/ISOボタン→ p. 78
（左）/ （マクロ）
→ 基本編 p. 13
（下）/
MFボタン
→ p. 68
（右）/
（ストロボ）
→ 基本編 p. 12

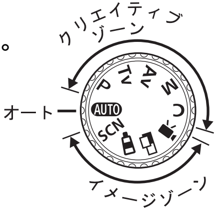


⑭ DISP.ボタン→ p. 17
⑮ （AF枠選択）/ （1画像消去）ボタン→ p. 64, 基本編 p. 14
⑯ （再生）ボタン→ 基本編 p. 14
⑰ 液晶モニター → p. 17
⑱ スピーカー

以下の動作中にランプが点灯、点滅します。
- **電源/モードランプ**
  橙点灯: 撮影モード　緑点灯:再生/プリンター接続モード
  黄点灯:パソコン接続モード
- **ランプ(上)**
  緑点灯:撮影準備完了　緑点滅:メモリーカードへ記録中/メモリーカードからの読み出し中/メモリーカードからの消去中/データ転送中(パソコン接続時)　橙点灯:撮影準備完了(ストロボ発光)　橙点滅:撮影準備完了(手ぶれ警告)
- **ランプ(下)**
  黄点灯:マクロ撮影/マニュアルフォーカス撮影　黄点滅:ピントが合いにくいとき(黄点滅でもシャッターボタンは押せますが、マニュアルフォーカスでピントを合わせて撮影してください(p. 68))。

モードダイヤル

撮影モードを選択するときに使います。

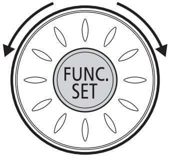


- **AUTO:オート**→基本編 p. 7
  カメラまかせの撮影ができます。
- **イメージゾーン**
  被写体に合う条件をカメラにまかせて設定し、撮影できます。
  SCN:スペシャルシーン
  →基本編 p. 10
  :マイカラー→ p. 57
  :スティッチアシスト
  → p. 49
  :動画→ p. 45
- **クリエイティブゾーン**→ p. 52
  露出や絞りを変えるなど、思いどおりの撮影ができます。
  P　:プログラムAE
  Tv　:シャッタースピード優先AE
  Av　:絞り優先AE
  M　:マニュアル露出
  C　:カスタム

①の(イージーダイレクト)ボタンを押すと、以下の操作が簡単にできます。
- プリント:ダイレクトプリントユーザーガイド(別冊)
- パソコンへの画像の取り込み:基本編、ソフトウェアクイックガイド(別冊)

プリンター、パソコン接続時は、ランプが点灯、点滅します。
- 青点灯:プリンター準備完了/画像転送準備完了
- 青点滅:プリント中/画像転送中

コントローラーホイールの使いかた



コントローラーホイールは、右回しで十字ボタンの➡、左回しで⬅を押すのと同じ働きをします(機能によっては⬆/⬇ボタンの働きする場合もあります)。

コントローラーホイールを右回しまたは左回しして、主に以下のことができます。

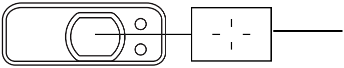
- スペシャルシーンでのモード選択(基本編 p. 10)
- 画像の消去(基本編 p. 14)
- FUNC. メニューでの項目選択(基本編 p. 15)
- メニューでの項目選択(基本編 p. 15)
- 世界時計のエリア選択(p. 27)
- 動画モードの選択(p. 46)
- 動画撮影時の露出シフト(p. 48)
- スティッチアシストの方向選択(p. 51)
- Tv でのシャッタースピードの選択(p. 52, 54)
- Av での絞り数値の選択(p. 52, 55)
- M でのシャッタースピードと絞り数値の選択(p. 52, 56)
- AF 枠の選択(p. 65)
- マニュアルフォーカスでのピント合わせ(p. 68)
- プログラムシフト(p. 71)
- 露出補正(p. 73)
- 再生モード時の画像選択(p. 91, 92, 93, 94)
- 動画再生・編集時の各種操作(p. 97, 98, 99)
- 音声メモの操作(p. 100, 101)
- 印刷指定(DPOF)の操作(p. 111, 113, 115)
- マイカメラでのコンテンツの登録操作(p. 120)

ファインダーの使いかた

液晶モニターを非表示にし(p. 17)、ファインダーを使って撮影すると消費電力を抑えることができます。

- ファインダーの視野率*は、約80%です。

  *実際に撮影される範囲に対して、ファインダーで確認できる範囲の比率です。



ファインダーで見える範囲と撮影範囲の違いについて

ファインダーを使って撮影するときは、ファインダーの特性上、ファインダーで見える範囲と実際に撮影される範囲にズレ(パララックス)が生じます。特に被写体の距離が近い場合には、パララックスが大きくなり、ファインダーで見える範囲でも撮影されない場合があります。マクロモードでは、液晶モニターを使って撮影してください。

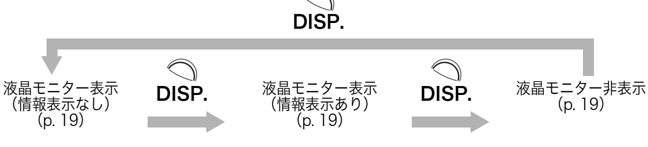
AF枠を選択しているとき

液晶モニターを使って撮影することをおすすめします。AF 枠を任意の位置に設定して撮影するときは、液晶モニターをつけてください。(AF枠の選択方法→ p. 64)

液晶モニターの使いかた

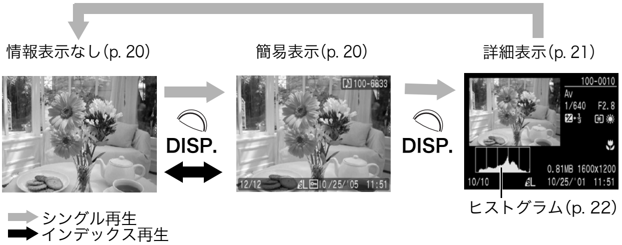
DISP.ボタンを押すと、表示の切り換えができます。

撮影モードのとき　　　　:**DISP.**ボタンを押す



再生モードのとき

DISP. ：DISP.ボタンを押す



液晶モニターの明るさについて

液晶モニターの明るさの変更方法

次の2つの方法があります。

- [設定]メニューで変更する(p. 32)
- 「LCDブースター」機能で変更する

  DISP.ボタンを1秒以上押すと、設定メニューで選択されている明るさに関わらず、最大の明るさに変更できます*。

  - 元の明るさに戻すとき：再度、**DISP.**ボタンを1秒以上押す
  - 次回電源を入れたとき：設定メニューで選択されている明るさで表示されます。

  ＊ すでに、[設定]メニューで最大の明るさに設定されている場合は、変更できません。

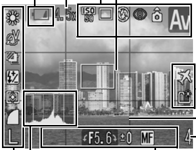
ナイトビュー機能について

暗い場所での撮影時は、被写体の明るさに合わせて、カメラが自動的に液晶モニターに表示される画像の明るさを調整するため*、暗い場所でも画角合わせがしやすくなります。

＊液晶モニターに表示される被写体の動きがややぎこちなくなったり、ノイズが表示されることがありますが、記録される画像に影響はありません。なお、モニター上に表示される明るさと、実際に撮影される画像の明るさは異なります(この機能は解除できません)。

表示内容

撮影情報（撮影モードのとき）



＊1
バッテリー残量低下（p. 132）

ズーム倍率＊1＊2（p. 42）

ISO 50 ISO 100 ISO 200 ISO 400
ISO感度（p. 78）

ドライブモード（p. 43, 39）

AF枠
緑色：撮影準備完了
黄色：ピントが合いにくいとき

ストロボ（基本編 p. 12）

縦横自動回転（p. 86）

エリア設定（p. 27）

＊1
フォルダ作成（p. 89）

C
カスタム登録（p. 85）

●録画（赤）＊5
動画記録時（p. 45）

ヒストグラム（p. 22）

グリッドライン＊1（p. 30）

静止画：記録可能画像数＊3
動画： 記録可能時間＊3
記録経過時間（撮影中）

AUTO
＊1 P Tv Av M
撮影モード
（基本編 p. 9, p. 52）

ホワイトバランス（WB）（p. 74）

色効果（p. 76）

マイカラー（p. 57）

ブラケット（p. 79, 80）

測光方式（p. 72）

ストロボ調光補正（p. 81）
ストロボ発光量（p. 81）

S
（静止画）圧縮率（p. 36）

L M1 M2 M3 S
（静止画）記録画素数（p. 36）

（動画）記録画素数（p. 36）
（動画）フレームレート（p. 36）

＊1
AEロック/FEロック（p. 70, 71）

シャッタースピード＊1（p. 54）

絞り数値＊1（p. 55）

−2～+2 ＊1
露出補正（p. 73）

＊1
マクロ（基本編 p. 13）

MF ＊1
マニュアルフォーカス（p. 68）

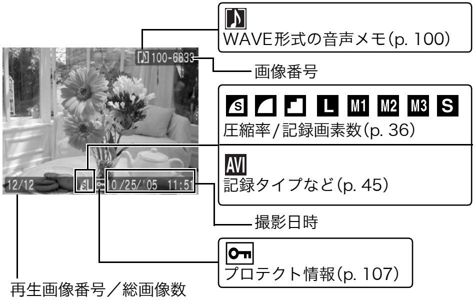
（赤）＊1
手ぶれ警告（p. 20）＊4

AFL ＊1
AFロック（p. 67）

＊1　情報表示なしのときも表示されます。
＊2　光学ズームとデジタルズームを組み合わせた倍率です。「3.6x」は光学ズームの最も望遠側(テレ端)の倍率で、白色で表示されます。[デジタルズーム]を[入]に設定していないときは表示されません。デジタルズーム時は青色で表示されます。
＊3　静止画記録可能画像数、または動画記録可能時間(待機時)は、記録可能容量がいっぱいになったときに、0を表示します。また、記録可能容量がいっぱいになったときは、「カードがいっぱいです」のメッセージが表示されます。
＊4　通常は表示されません。シャッターを半押ししたときに手ぶれしやすくなると表示されます。
＊5　動画撮影時のみ表示されます。

- 情報表示なしでも、撮影の設定を変更した場合などは、情報が約6秒間表示されます(そのときのカメラの設定内容によって、表示されないこともあります)。
- 光量不足のときは、撮影準備完了時にランプ(上)が橙色で点滅し、液晶モニターに (手ぶれ警告)が赤く点滅します。以下のいずれかの方法で撮影してください。
  - ストロボの設定をオートまたは常時発光にする
  - 三脚などでカメラを固定する
  - ISO感度を上げる

再生情報・簡易表示(再生モードのとき)



再生情報・詳細表示（再生モードのとき）



- ISO 50 / ISO 100 / ISO 200 / ISO 400 ISO感度（p. 78）
- マクロ（基本編 p. 13）
- P Tv Av M 撮影モード（基本編p. 9, 52）
- シャッタースピード（p. 54）
- 絞り（p. 55）
- 1024 640 320 160 記録画素数（動画）（p. 36）
- 30 15 フレームレート（p. 36）
- −2～+2 露出補正（p. 73）
- ホワイトバランス（WB）（p. 74）
- −2～+2 ストロボ調光補正（p. 81）
- ストロボ発光量（p. 81）
- 測光方式（p. 72）
- 色効果（p. 76）
- マイカラー（p. 57）
- MF マニュアルフォーカス（p. 68）

画像によっては、以下の情報を表示することがあります。

♪?	WAVE ファイル以外の音声ファイル、または、認識できないファイルがついています。
⚠	DCF（p. 146）の規格と異なる構造を持つ JPEG タイプです。
RAW	RAW タイプです。
?	認識できないタイプです。

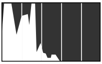
- 撮影した画像が液晶モニターに表示されているとき、画像の明るさを判断するためのグラフ（ヒストグラム（p. 22））やその他の情報が表示され、画像の明るさを確認できます。必要であれば露出を補正（p. 73）するなどして、撮り直してください。なお、ヒストグラムが表示されないときは、**DISP.**ボタンを押してください。
- このカメラで撮影した画像を他のカメラで再生する場合、または他のカメラで撮影した画像をこのカメラで再生する場合、情報を正しく表示できないことがあります。

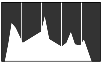
高輝度警告について

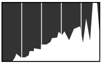
以下のとき、撮影画像に露出オーバー部分があると、その個所が点滅表示されます。
- ◆ 撮影直後に、液晶モニター（情報表示あり）で画像を確認したとき
- ◆ 再生モードで詳細表示にしたとき

ヒストグラムを表示する

ヒストグラムは、画像の明るさを判断するためのグラフで、**P**、**Tv**、**Av**、**M**モードではこれを表示させ、確認しながら撮影できます。グラフが左に寄るほど暗い画像になり、右に寄るほど明るい画像になります。暗いほうに偏っているときは、露出をプラス側に補正する（p. 73）、シャッタースピードを遅くする、または絞り数値を小さくします。明るいときは、露出をマイナス側に補正する、シャッタースピードを速くする、または絞り数値を大きくします。
再生モードでは、撮影した画像の明るさを確認できます。


暗い画像


普通の明るさの画像


明るい画像

1 [(撮影)]メニューから[ヒストグラム]を選び、←/→で[入]を選ぶ

- ●メニュー選択と設定のしかた（基本編 p. 15）

入：ヒストグラムが表示されます。
切：ヒストグラムは表示されません。
- ●液晶モニター表示を情報表示ありにしてから設定してください。（p. 17）



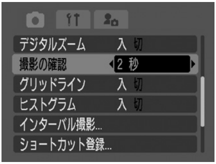
2 MENUボタンを押す

撮影した画像の確認時間を変更する

1 [(撮影)]メニューから[撮影の確認]を選び、←/→を押して確認時間を選ぶ

●メニュー選択と設定のしかた（基本編 p. 15）
●コントローラーホイールを回しても選べます。

切:画像は表示されません。
2秒〜10秒: シャッターボタンを放しても設定した時間、画像が表示されます。
ホールド:次にシャッターボタンを半押しするまで表示します。



2 MENUボタンを押す

メニューの表示中でもシャッターボタンを押すと撮影できます。

節電機能について

カメラには節電機能が付いています。節電機能の設定にしたがってカメラの電源が自動的に切れたり、液晶モニターが消えます。

●オートパワーオフ

入: ● **撮影モード**:約3分間何も操作をしないと電源が切れます。オートパワーオフを[切]にしている場合でも、液晶モニターを表示して約1分間*何も操作しないと、表示が消えます。このとき何かボタンを押すか、カメラを縦横に回転すると、液晶モニターが表示されます。
* 時間を変更できます。
● **再生モード**:約5分間何も操作をしないと電源が切れます。
● **プリンター接続モード**:約5分間カメラの操作を何もしないと電源が切れます。

切: 節電機能は働きません。

●ディスプレイオフ(撮影モードのみ)

設定した時間、何も操作をしないと液晶モニターが消えます。
10秒/20秒/30秒/1分*/2分/3分から選択できます。
* 初期設定

オートパワーオフが働いたとき

もう一度電源を入れます。
再生 / プリンター接続モード:もう一度▶(再生)ボタンを押し、電源を入れます。

ディスプレイオフが働いたとき

任意のボタンを押すと液晶モニターが表示されます。

- ◆ 節電機能が働いて電源が切れても、微量の電力が消費されますのでご注意ください。
- ◆ スライドショーで自動再生中およびパソコン接続時は、節電機能は働きません(基本編 p. 17 p. 102)。

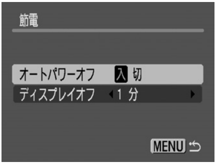
1 [(設定)]メニューから[節電]を選び、FUNC./SETボタンを押す

メニューの選択と設定のしかた(基本編 p. 15)



2 ↑/↓で[オートパワーオフ]を選び、←/→で[入]または [切]を選ぶ

コントローラーホイールを回しても選べます。



3 ↑/↓でディスプレイオフを選び、←/→で設定時間を選ぶ

コントローラーホイールを回しても選べます。

4 MENUボタンを押す

メモリーカードを初期化する

新しいメモリーカードをお使いになるときや、メモリーカード内の画像だけでなく他のデータもすべて削除したいときは、メモリーカードを初期化します。

初期化すると、メモリーカードに記録された画像（プロテクト画像も含む）だけでなく、すべてのデータが消去されますので、ご注意ください。

1 [(設定)]メニューから[カードの初期化]を選び、FUNC./SETボタンを押す

メニュー選択と設定のしかた
(基本編 p. 15)

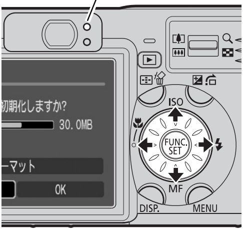


2 十字ボタンの←/→で[OK]を選び、FUNC./SETボタンを押す

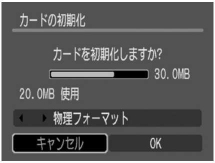
ランプ（上）が緑点滅し、メモリーカードの初期化がはじまります。ランプが消えるまでお待ちください。

- 通常フォーマットが始まります。
- 物理フォーマットをする場合は、↑/↓で[物理フォーマット]を選び、←/→ボタンを押してチェックをつけます。
  コントローラーホイールを回しても選べます。
- 初期化を取り消すときは[キャンセル]を選び、**FUNC./SET**ボタンを押します。
- 物理フォーマットの場合、初期化中に**FUNC./SET**ボタンを押すと、中止することができます。中止した場合でも、そのメモリーカードは問題なくお使いいただけますが、データはすべて消去されます。

ランプ(上)



- 初期化するとき、お使いのメモリーカードのラベルに記載された容量よりも少ない数値が表示されますが、メモリーカード、またはカメラの故障ではありません。



3 MENUボタンを押す

- ◆ 物理フォーマットについて
  メモリーカードへの記録/ 読み出し速度が低下したと思われる場合などは、[物理フォーマット]を選択することをおすすめします。なお、メモリーカードによっては2〜3分かかる場合があります。
- ◆ カメラが正しく動作しないときは、メモリーカードが壊れている可能性があります。初期化すると正しく動作する場合もあります。
- ◆ キヤノン製以外のメモリーカードで正しく動作しないときは、初期化すると正しくお使いになれることがあります。
- ◆ 他のカメラやパソコン、周辺機器で初期化したメモリーカードを使用すると、正しく動作しない場合があります。その際は、このカメラで初期化してください。正しく初期化されないときは、電源を切ってから、メモリーカードを入れ直し、再度初期化してください。

世界時計を設定する

海外へ旅行するときなど、あらかじめ訪問先(旅行先)のエリアを登録しておくと、エリアを切り換えるだけで、登録したエリアの日時で記録できます。日付/時刻を設定しなおす必要がなく便利です。

はじめに、自宅エリアの設定が必要です。

1 [(設定)メニュー]から[エリア設定]を選び、FUNC./SETボタンを押す

メニューの選択と設定のしかた(基本編 p. 15)



2 ↑/↓ で (自宅)を選び、FUNC./SETボタンを押す



3 ←/→ で地図から自宅エリアを選び、FUNC./SETボタンを押す



- コントローラーホイールを回しても選べます。
- 選択した地域の時間で撮影時間が記録されます。
- サマータイムを設定する場合は、↑/↓ で (サマータイム)アイコンを表示します。時間は 1 時間プラスされます。

4 ↑/↓ で (訪問先)を選び、FUNC./SETボタンを押したあと、手順3と同様に訪問先のエリアを設定する

訪問先の日付に切り換える

1 [設定]メニューから[エリア設定]を選び、FUNC./SETボタンを押す

メニュー選択と設定のしかた(基本編 p. 15)

2 ←/→ で (訪問先)を選び、MENUボタンを押す

- 訪問先のエリアを変更する場合は、**FUNC./SET**ボタンで変更します。

自宅のエリア選択をしないと、訪問先は設定できません。

訪問先が選択されているときに、日付 / 時刻の変更を行うと、自宅の日時も自動的に変更されます。

メニュー一覧

撮影/再生時の便利な機能を設定します。

- メニューの選択と設定のしかた(基本編 p. 15)

- 撮影モードによって、選択できないメニュー項目があります(p. 160)。
- マイカメラメニューの設定内容 と には、好きな画面や音を登録できます。詳しくは「マイカメラコンテンツを新規登録する(p. 119)」、またはソフトウェアクイックガイドをご覧ください。
- カメラの設定を初期設定に戻せます(p. 35)。

FUNC.メニュー

ホワイトバランス(AWB)→ p. 74



マイカラー( )→ p. 57



色効果( )→ p. 76



ブラケット( )→ p. 79, 80



ストロボ調光補正(±0)→ p. 81



ストロボ発光量→ p. 81



測光方式( )→ p. 72



圧縮率( )→ p. 36



記録画素数(L)→ p. 36



記録画素数:動画( )→ p. 36



フレームレート:動画( )→ p. 36



(　　)は初期設定値

撮影メニュー

メニュー項目	内容	参照先
ストロボ発光	ストロボ発光のタイミングを設定します。 先幕* / 後幕	p. 83
スロー シンクロ	遅いシャッタースピードでストロボ発光するかしないかを設定します。 入 / 切*	p. 38
ストロボ自動調光	ストロボの自動調光をするかしないかを設定します。 入* / 切	p. 81
赤目緩和機能	ストロボ発光のとき、赤目緩和ランプを発光するかしないかを設定します。 入* / 切	p. 37

メニュー項目	内容	参照先
セルフ タイマー	セルフタイマー撮影のとき、シャッターボタンを押してから撮影されるまでの時間を設定します。 (10 秒)* / (2 秒)/ (カスタム)	p. 39
スポット 測光枠	測光方式で [スポット測光枠] を選んだとき、測光を中央枠内に固定するか、指定された AF 枠内にするかを選択します。 中央固定* / AF 枠連動	p. 72
セーフティ シフト	Av モードや Tv モードで、シャッターボタンを半押ししたときに露出が適正範囲になければ、適正露出になるように設定値を自動で変更する機能を設定します。 入 / 切*	p. 56
MF 拡大表示	マニュアルフォーカスのとき拡大表示するかしないかを設定します。 入* / 切	p. 68
AF 補助光	AF のときに、必要に応じて AF 補助光を発光するかしないかを設定します。 入* / 切	p. 13
デジタル ズーム	光学ズームと合わせて、拡大するかどうかを設定します。動画時も設定可能ですが、初期設定は[入]になります。 入 / 切*	p. 42
撮影の確認	撮影してシャッターボタンを放したあと、撮影した画像を液晶モニターに表示する時間を設定します。 切 / 2 秒*～ 10 秒 / ホールド	基本編 p. 8
オリジナル 保存	マイカラーで静止画を撮影するときに、オリジナル画像(元画像)も記録するかどうかを設定します。 入 / 切*	p. 59
グリッド ライン	被写体の水平や垂直を確認するグリッドライン(9 分割)表示ができ、構図を決めやすくなります。なお、グリッドラインは画像には記録されません。 入 / 切*	p. 19

メニュー項目	内容	参照先
ヒストグラム	画像の明るさを確認できるヒストグラム表示をするかしないかを設定します。 入* / 切	p. 22
インターバル撮影	一定の間隔をあけて自動的に撮影します。 1 分*～ 60 分 2 画像*～ 100 画像	p. 83
ショートカット登録	(ショートカット)ボタンに登録する機能を選択します。	p. 63
カスタム登録	撮影メニュー、ファンクションメニューで設定した内容をモードダイヤルの **C** に登録します。	p. 85

＊初期設定

再生メニュー

メニュー項目	内容	参照先
プロテクト	画像を消去できないようプロテクト(保護)を設定します。	p. 107
回転	時計方向に 90 度、270 度に回転して画像を表します。	p. 95
全消去	メモリーカードに記録されている画像をすべて消去します。(プロテクトされている画像を除く)	p. 108
スライドショー	記録した画像を自動再生します。	p. 102
印刷指定	画像をカメラダイレクト対応プリンターまたはプリント取り扱い店でプリントするとき、プリントする画像の選択や枚数を指定します。	p. 111
送信指定	パソコンに取り込む画像を、あらかじめカメラで指定します。	p. 115
再生効果	効果をつけながら再生します。 Off/ * /	p. 96

設定メニュー

メニュー項目	内容	参照先
消音	起動音、シャッター音、操作音、セルフタイマー音を一度に消すときは、[入] に設定します。 ● [消音]を[入]にすると、マイカメラメニューの音の各設定が 1 2 3 (入)になっていても音は鳴りません。 ● ただし、[消音]を[入]に設定していても、メモリーカードへの記録中にメモリーカードスロットカバーを開けたときは、警告音が鳴ります。 入 / 切*	–
音量	カメラの操作音の音量を調節します。	–
①起動音量	カメラ起動時の音量を調節します。	基本編 p. 3
②操作音量	シャッターボタン以外のボタンを操作したときの音量を調節します。	–
③セルフタイマー音	撮影 2 秒前から撮影するまでのセルフタイマー音の音量を調節します。	p. 39
④シャッター音量	シャッターボタンを全押ししたときの音量を調節します。動画撮影時には、シャッター音は鳴りません。	基本編 p. 7
⑤再生音量	動画再生時や音声メモの音量を調節します。	p. 97, 100
①～⑤の設定内容	切 1 2* 3 4 5	–
液晶の明るさ	←/→で液晶モニターの明るさを調整します。FUNC./SET を押すと設定メニューに戻ります。液晶モニター表示時は、画像の明るさを確認しながら調整できます。 －7～0*～＋7	–

メニュー項目	内容	参照先
節電	一定時間カメラの操作をしないときに自動的に電源を切るかどうか、液晶モニターを消すかどうかを設定します。 オートパワーオフ 入* / 切 ディスプレイオフ 10 秒 /20 秒 /30 秒 /1 分* /2 分 /3 分	p. 23
エリア設定	自宅または旅行先で使用するほうの時間を設定します。 時間設定 自宅* / 訪問先 エリア選択 全世界 32 エリア サマータイム 入 / 切*	p. 27
日付 / 時刻	日付、時刻、日付スタイルを設定します。	基本編 p. 5
カードの初期化	メモリーカードを初期化します。	p. 25
画像番号	画像番号の付けかたを設定します。 オートリセット / 通し番号*	p. 87
フォルダ作成	フォルダを作るタイミングを設定します。 新規作成 / 自動作成(切*、毎日、月〜日(毎週)、毎月)/ 作成時間	p. 89
縦横自動回転(撮影モードで設定)	縦位置で撮影した画像を、自動的に横に回転して表示するかしないかを設定します。 入* / 切	p. 86
縦横自動回転(再生モードで設定)	カメラの向きに合わせて、画像を回転させ、天地を正しく液晶モニターに表示するかしないかを設定します。 入* / 切	p. 86
距離表示	MF インジケーターの距離表示の単位を設定します。 m/cm * または ft/in	–

メニュー項目	内容	参照先
言語	液晶モニターのメニューやメッセージを、どの言語で表示するかを設定します。 • English • Русский • Deutsch • Português • Français • Ελληνικά • Nederlands • Polski • Dansk • Čeština • Suomi • Magyar • Italiano • Türkçe • Norsk • 繁體中文 • Svenska • Español • 한국어 • 简体中文 • ภาษาอังกฤษ • 日本語* 画像の再生時に、FUNC./SET ボタンを押しながらMENUボタンを押しても、表示する言語を変更できます(プリンター接続時を除く)。	基本編 p. 6
ビデオ出力方式	ビデオ出力方式を設定します。 NTSC * / PAL	p. 117, 143
初期設定	カメラの設定を初期設定に戻します。	p. 35

＊初期設定

マイカメラメニュー

メニュー項目	内容	参照先
セット	起動画面、起動音、シャッター音、操作音、セルフタイマー音をすべて同じコンテンツに設定します。	p. 118
起動画面	電源を入れたときの起動画面を設定します。	p. 118
起動音	電源を入れたときの起動音を設定します。	p. 118
操作音	シャッターボタン以外のボタンと十字ボタンを操作したときの音を設定します。	p. 118
セルフタイマー音	セルフタイマー撮影で 2 秒前をお知らせする音を設定します。	p. 118
シャッター音	シャッターボタンを全押ししたときの音を選びます。動画撮影時には、シャッター音は鳴りません。	p. 118

メニュー項目	内容	参照先
マイカメラメニューの設定内容	(切)/1*/2/3	–

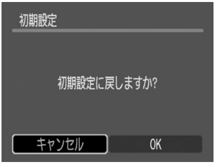
＊初期設定

設定を初期状態に戻す

カメラの設定を初期設定に戻します。

1 [(設定)]メニューから[初期設定]を選び、FUNC./SETボタンを押す

液晶モニターに、「初期設定に戻しますか？」のメッセージが表示されます。



2 ←/→で[OK]を選び、FUNC./SETボタンを押す

初期化がはじまります。

- 初期化が終わると通常画面に戻ります。
- 初期設定に戻すのをやめるときは、[キャンセル]を選びます。
- コントローラーホイールを回しても選べます。

- **以下の設定は初期状態に戻りません。**
  - [(設定)]メニューの[日付/時刻][言語][エリア設定]
  - [ビデオ出力形式]の設定内容(p. 34)
  - ワンポイントカラーとスイッチカラーで取り込んだ色
  - C モードの設定内容
  - マニュアルホワイトバランスで記憶した白データ(p. 75)
  - 新しく登録したマイカメラコンテンツ
- **パソコンまたはプリンター接続時は初期状態に戻せません。**

撮影モードでモードダイヤルをCにすると、Cに登録してある設定のみ、初期設定に戻ります。

記録画素数と圧縮率を変更する

モードダイヤル

AUTO SCN P Tv Av M

目的に応じて、記録画素数、圧縮率（静止画）、フレームレート（動画, p. 45）を変更できます。

静止画のとき

記録画素数			撮影の目安
画面表示	画素数		
L（ラージ）	3264 × 2448	大	● A3 サイズ以上を印刷
M1（ミドル 1）	2592 × 1944	↑	● A3 サイズまでを印刷
M2（ミドル 2）	2048 × 1536		● A4 サイズまでを印刷
M3（ミドル 3）	1600 × 1200	↓	● L 判 / はがきサイズを印刷
S（スモール）	640 × 480	小	● 電子メールで画像を送信 ● より多くの画像を撮影する

圧縮率			撮影の目安
	スーパーファイン	きれい	より良い画質で撮影する
	ファイン	↕	通常の撮影をする
	ノーマル	普通	より多くの画像を撮影する

動画のとき

記録画素数	フレームレート	画質	なめらかさ	撮影時間	撮影の目安
1024 × 768	15 フレーム / 秒	きれい	普通	短い	パソコンのモニターで大きく見るとき
640 × 480	30 フレーム / 秒	きれい	なめらか	↑	より良い画質で撮影する
640 × 480	15 フレーム / 秒	きれい	普通		通常の撮影で画質優先
320 × 240	30 フレーム / 秒	普通	なめらか	↓	通常の撮影でなめらかさ優先
320 × 240	15 フレーム / 秒	普通	普通	長い	より長く撮影する
160 × 120	15 フレーム / 秒	普通	普通	最長 3 分	メールに添付する

1 FUNC./SETボタンを押す

2 十字ボタンの▲/▼で◢*(圧縮率)を選び、◀/▶で設定したい圧縮率を選ぶ



- 設定したあとシャッターボタンを押して、すぐに撮影できます。撮影後はもう一度この画面が表示されます。
- 動画(、)のときはフレームレートを選びます。
- 1画像の容量(目安)について(p. 150)
- メモリーカードの種類別、記録可能画像数について(p. 149)
- コントローラーホイールを回しても選べます。

*現在の設定が表示されます。

3 十字ボタンの▲/▼でL*(3264 × 2448)を選び、◀/▶で設定したい記録画素数を選ぶ



記録可能画像数
動画の場合は撮影できる秒数を表示

- 動画(、)のときは、640*(640 × 480)を選びます。
- コントローラーホイールを回しても選べます。

*現在の設定が表示されます。

4 FUNC./SETボタンを押した後、撮影する

赤目緩和機能を設定する

モードダイヤル
AUTO SCN* P Tv Av M

* (花火)、 (デジタルマクロ)は設定できません。

暗いところでストロボを発光するとき、赤目緩和ランプを発光します。ストロボの光が目に反射して目が赤く光るのを防ぎます。

1 [(撮影)]メニューから[赤目緩和機能]を選ぶ

メニューの選択と設定のしかた(基本編 p. 15)



2 十字ボタンの←/→で[入]を選び、MENUボタンを押す

- 情報表示ありのときは、液晶モニターに が表示されます。
- コントローラーホイールを回しても選べます。

赤目緩和機能について
暗い所でストロボを発光すると、ストロボの光が反射して目が赤く写ることがあります。このようなときは、赤目緩和で撮影してください。その場合、写される人が赤目緩和ランプを見ていないと効果がありません。ランプを見るよう声をかけてください。また、「レンズを広角側にする」、「室内を明るくする」、「写したい人に近付く」とより効果があります。

スローシンクロを設定する

モードダイヤル
P Av

遅いシャッタースピードで、ストロボを発光して撮影します。夕暮れや夜景をバックに人物を撮影するとき、また夜景や室内での撮影などで、背景だけが暗くなるのを軽減できます。

1 [📷(撮影)]メニューから[スローシンクロ]を選ぶ



メニューの選択と設定のしかた(基本編 p. 15)

2 十字ボタンの←/→で[入]を選び、MENUボタンを押す

コントローラーホイールを回しても選べます。

> ❗ **ISO感度を上げてストロボ撮影する場合、被写体との距離が近いほど、白飛びしやすくなります。**

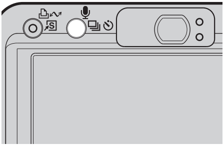
- ストロボ発光時に有効なシャッタースピードは、最高で1/250秒です。1/250秒よりも高速のシャッタースピードを設定した場合は、自動的に1/250秒に再設定され、撮影されます。
- [スローシンクロ]を[入]にして撮影すると手ぶれしやすくなります。三脚をお使いになることをおすすめします。
- マイカラー、**P**、**Tv**、**Av**、**M**の場合、設定したストロボモードは、カメラの電源を切っても解除されません。

セルフタイマーで撮る

モードダイヤル

AUTO SCN P Tv Av M

1 セルフタイマーボタンを押す



現在の設定が表示されます。

- ボタンを押すたびに設定が切り換わります。

□ → 連続撮影* → 10秒セルフタイマー → □

- (10秒)、(2秒)、(カスタム)は[📷(撮影)]メニューの[セルフタイマー]で切り換えます(p. 30)。

- はシャッターボタンを全押ししてから10秒後に、は2秒後に撮影されます。は設定した時間後に、設定した枚数が撮影されます。

  ＊モードによって表示されないときがあります。

2 、またはが表示されていることを確認し、撮影する



- は、シャッターボタンを全押しするとセルフタイマー音が鳴り、セルフタイマーランプが点滅します。撮影約2秒前になると点滅が速くなります。
- は、シャッターボタンを全押しするとセルフタイマーランプが最初から速く点滅し、約2秒後に撮影されます。
- は、シャッターボタンを全押しすると、設定した時間によって、以下のようになります。

  0秒： すぐに撮影されます。

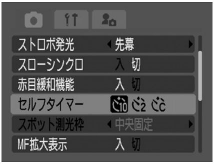
  1秒： 電子音が鳴り、セルフタイマーランプが最初から速く点滅し、約1秒後に撮影されます。

  2〜30秒： 電子音が鳴り、セルフタイマーランプが点滅します。撮影約2秒前になるとセルフタイマー音が鳴り、点滅が速くなります。
- セルフタイマー音は、[（マイカメラ）]メニューの[セルフタイマー音]で変更できます(p. 34)。
- セルフタイマーランプは赤目緩和の場合、2秒前から点灯します。

撮影の開始時間や撮影枚数を変更する（カスタム）

セルフタイマーの時間と撮影枚数を設定できます。

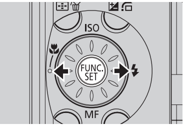
1 [（撮影）]メニューから[セルフタイマー]を選ぶ



- メニューの選択と設定のしかた(基本編 p. 15)
- （マイカラー）、（スティッチアシスト）、（動画）のときは、設定できません。

2 十字ボタンの←/→で を選び、FUNC./SETボタンを押す

コントローラーホイールを回しても選べます。





3 開始時間と撮影枚数を選ぶ

- ↑/↓で[時間]または[枚数]を選びます。
- ←/→で開始時間（0～10、15、20、30秒）や撮影枚数（1～10枚）を変更します。
- コントローラーホイールを回しても選べます。



4 FUNC./SETボタンを押す

撮影枚数を2枚以上に設定していても、メモリーカードがいっぱいになったときは、自動的に撮影が終了します。

撮影枚数を2枚以上に設定したときは、1画像目の撮影で露出やホワイトバランスがロックされ、連続撮影（p. 43）と同じスピードで撮影されます。また、撮影と撮影の間に「ピピピ」という電子音が鳴り、セルフタイマーランプが点滅します。ただし、ストロボ充電や内部メモリーがいっぱいのときは、撮影間隔が長くなります。

デジタルズームで撮る

モードダイヤル
AUTO SCN 動画* P Tv Av M

＊動画はスタンダードのみ設定できます。

光学ズームと組み合わせて、次の倍率（目安）に拡大できます。
4.5倍、5.7倍、7.3倍、9.2倍、11倍、14倍（デジタルマクロを除く）

- ◆ **デジタルズームは、拡大するほど画像が粗くなります。**
- ◆ ズームレバーを [広角] 側に押すと、倍率が下がります。

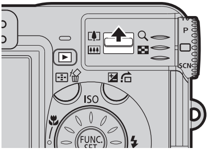
1 [（撮影）]メニューから[デジタルズーム]を選び、←/→で[入]を選んでMENUボタンを押す

- ●メニューの選択と設定のしかた（基本編 p. 15）
- ●コントローラーホイールを回しても選べます。



2 ズームレバーを[望遠]側へ押して、撮影する

光学ズームで最も望遠側まで拡大すると、いったん停止します（静止画撮影時）。もう一度ズームレバーを[望遠]側に押すと、デジタルズームが働き、さらに拡大できます。



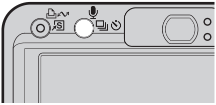
連続して撮る

モードダイヤル

SCN P Tv Av M

シャッターボタンを全押ししている間、連続して撮影します。シャッターボタンを放すと撮影が終了します。
また、一定の撮影間隔でメモリーカードの容量いっぱいになるまで撮影（スムーズ連写）できます（p. 149）。＊1＊2

1 ボタンを押して、を表示する



2 シャッターボタンを半押ししてピントを合わせる

3 シャッターボタンを全押しし続けて撮影する

- シャッターボタンを放すと撮影が終了します。
- 連続撮影速度は約1.8画像/秒＊2＊3です。

＊1　推奨メモリーカード（物理フォーマット（p. 25）を行った超高速の SDC-512MSH（別売））を使用し、記録画素数が L、圧縮率が S 以外の組み合わせでの撮影時。ただし、連続撮影が中断したときに、メモリーカードの容量が余る場合があります。
＊2　当社測定条件によるもので、被写体、撮影条件などにより変わります。
＊3　ラージ/ファイン時

連続撮影を解除するには

ボタンを2回押して □ を表示させます。

連続撮影速度が低下したと思われる場合などには、連続撮影の性能を十分に発揮するため、撮影した画像をパソコンに保存してから、カメラでメモリーカードを初期化（物理フォーマット）することをおすすめします。

2 よく使う撮影

- 内部メモリーがいっぱいになると、撮影間隔が長くなります。
- ストロボが発光する場合には、ストロボの充電時間が必要なため、撮影間隔が長くなります。

動画を撮る

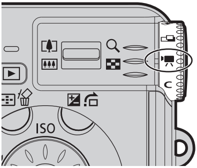
次の4つの動画モードがあります。

	スタンダード	記録画素数やフレームレート*[1]を自分で選び、メモリーカードの容量がいっぱいになるまで撮影できます*[2]。 また、撮影中にデジタルズームが使えます(p. 42)。 ● 記録画素数:[(640 × 480)]、[(320 × 240)] ● フレームレート:[(30 フレーム / 秒)]、[(15 フレーム / 秒)] ● 1 回の最大撮影容量:1GB
	ラージ	パソコンのモニターで大きく見るときに使います。 ● 記録画素数:[(1024 × 768)] ● フレームレート:[(15 フレーム / 秒)] ● 1 回の最大撮影容量:1GB
	ライト	記録画素数が小さいため容量が少なく、メールに添付したり、メモリーカードの容量が少ないときなどに使うと便利です。 ● 記録画素数:[(160 × 120)] ● フレームレート:[(15 フレーム / 秒)] ● 1 回の最長撮影時間*[3]:3 分
	マイカラー	画像の色味を変化させて撮影できます(p. 57)。 スタンダードと同様に、記録画素数やフレームレート*[1]を自分で選び、メモリーカードの容量がいっぱいになるまで撮影できます*[2]。 ● 記録画素数:[(640 × 480)]、[(320 × 240)] ● フレームレート:[(30 フレーム / 秒)]、[(15 フレーム / 秒)] ● 1 回の最大撮影容量:1GB

*1 フレームレートは、1秒間に撮影/再生するフレーム数を表します。フレームレートが高いほど滑らかな動きになります。
*2 超高速のメモリーカード使用時(推奨SDカード:SDC-512MSH)。
*3 撮影時間はお使いのメモリーカードによって異なります。詳細はp. 149をご覧ください。

1 モードダイヤルを にする

記録可能時間（秒数）が表示されます。



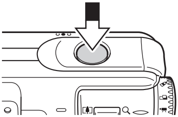
2 コントローラーホイールを回して動画撮影モードを選ぶ



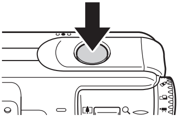
- メニューの選択と設定のしかた（基本編 p. 15）
- このあと、すぐに撮影できます。また、撮影後は再びこの画面が表示され、設定を変更できます。
- 、 の場合は、記録画素数（p. 36）やフレームレート（p. 36）を変更できます。

3 シャッターボタンを半押しする

露出、フォーカス、ホワイトバランスを自動設定します。

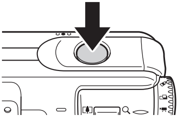


4 シャッターボタンを全押しする



- 撮影が開始され、同時に音声も記録されます。
- 撮影中は、液晶モニターに撮影時間と［●録画］が表示されます。
- の場合はデジタルズーム操作ができます。

5 撮影を終了するときは、再度シャッターボタンを全押しする



- 最長撮影時間は、被写体、撮影状況などにより変わることがあります。撮影可能な時間が経過するか、メモリーカードの容量がいっぱいになる、または1GBになる直前に、液晶モニター

右下の記録可能時間が赤表示になり、約 10 秒後、自動的に撮影が終了します（(ライト)を除く）。

- 以下のようなメモリーカードをお使いのときは、撮影中に正しい撮影時間が表示されなかったり、撮影が途中で中断することがあります。
  - 書き込み速度が遅い
  - 他のカメラやパソコンで初期化した
  - 撮影/消去を繰り返した
- 撮影時間が正しく表示されないときも、メモリーカードには実際に撮影した時間の動画が記録されています。メモリーカードをこのカメラで初期化すると、正しい時間が表示されます（書き込み速度の遅いメモリーカードを除く）。
- 動画を撮影するときは、このカメラで初期化したメモリーカードをお使いください（p. 25）。付属のメモリーカードはそのままお使いになれます。
- 撮影中はマイクに触れないようにしてください。
- 撮影中にシャッターボタン以外のボタンを押すと、ボタンを押す音も記録されるのでご注意ください。
- 撮影後にランプ（上）が緑点滅し、データを記録します。このときは撮影できません。
- パソコンで動画を再生するとき、パソコンの性能や使用状況によっては画像がフレーム（コマ）落ちしたり、音声が途切れることがあります。

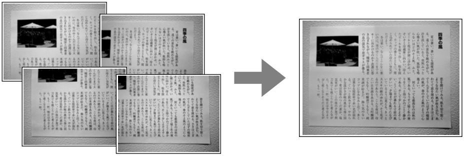
◆ このモードで変更できる設定（p. 160）
◆ 記録画素数/フレームレートについて（p. 36）
◆ 動画撮影前に、以下の操作ができます。
- AFロック：**MF**ボタンを押すと、その状態でAFロックします。液晶モニターに MF が表示されます。もう一度**MF**ボタンを押すと解除できます。
- マニュアルフォーカス（p. 68）
- AEロック、露出シフト：ISO ボタンを押すと、その状態でAEロックします。液晶モニターに露出シフトバーが表示され、コントローラーホイールを回して露出を変更できます。
もう一度ISO ボタンを押すと解除できます。また、**MENU**ボタンを押したり、ホワイトバランス、色効果、撮影モードを変更すると解除されます。
◆ 音声はモノラルで録音されます。
◆ 動画撮影時はシャッター音が鳴りません。
◆ カメラの使用状況やご使用のメモリーカードの性能により、記録時間や記録容量が変わることがあります。記録時間や記録容量に余裕がある場合でも、カメラの内部メモリーが少なくなると、液晶モニター右下に「!」が赤表示され、まもなく撮影が自動的に終了します。「!」が頻繁に表示されるときは、以下の方法をお試しください。
- 撮影する前にメモリーカードを初期化する（p. 25）
- 記録画素数を（ 320 320 × 240）にするか、フレームレートを（ 15 15フレーム/秒）にする
- 超高速のSDカード（SDC-512MSHなど）を使用する
◆ 動画（タイプ：AVI、圧縮方法：Motion JPEG）をパソコンで再生するには、QuickTime 3.0以上が必要です（付属のDigital Camera Solution Diskには、Windows版のQuickTimeが収められています。なお、Mac OS X以降には標準装備されています）。

パノラマ画像を撮る（スティッチアシスト）

撮影した画像をパソコンで合成（スティッチ）し、パノラマ画像を作るときに使います。



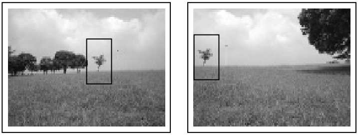




パソコンでの画像合成には、付属のソフトウェア「PhotoStitch」をお使いください。

被写体のとらえかた

PhotoStitchは隣り合う画像の共通部分を見つけて合成処理を行います。共通部分にはできるだけ特徴のある被写体（目印となる被写体）を入れて撮影してください。



- ◆ 隣り合う画像の共通部分は、画像の幅の30〜50%になるように撮影します。また、上下のズレは画像の高さの10%以内で撮影します。
- ◆ 共通部分には、動いている被写体などが入らないように注意してください。
- ◆ 遠くの被写体と近くの被写体が混在する画像をスティッチしないでください。物体がゆがんだり、二重に写ったりすることがあります。
- ◆ 撮影時の明るさはできるだけ揃えてください。画像の明るさが違いすぎると、不自然な画像になってしまうことがあります。
- ◆ 遠くの風景を撮るときは、カメラを中心に回転して撮影します。
- ◆ 至近距離では、カメラをスライド（カメラを被写体に対して平行移動）させます。

撮影する

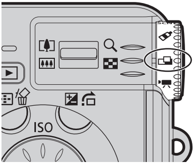
スティッチアシストには、次の5つの撮影方向があります。

- 左から右方向へ水平に撮影
- 右から左方向へ水平に撮影
- 下から上へ垂直に撮影
- 上から下へ垂直に撮影
- 左上を基点に時計回りに撮影

- **画像をテレビに表示しながらの撮影はできません。**
- **2画像目以降の撮影では、最初の撮影の設定が適用されます。**

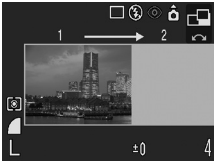
- ◆ このモードで変更できる設定（p. 160）
- ◆ デジタルズームは使用できません。
- ◆ マニュアルホワイトバランス（p. 75）の場合、では基準となる白データの取り込みができません。あらかじめ他の撮影モードで白データを取り込んでおいてください。

1 モードダイヤルを にする



2 コントローラーホイールを回して選ぶ

撮影方向が設定されます。



3 最初の画像を撮影する

1画像目の撮影で露出やホワイトバランスがロックされます。

4 最初の画像に重ね合わせ、次の画像を撮影する

- 画像が重なる部分は、多少ずれても合成時に修正されます。
- 十字ボタンの ▲/▼ または ◀/▶ を押すと 1 つ前の撮影画像に戻り、撮影のやり直しができます。



- 水平/垂直方向の撮影では、最大26画像まで撮影できます。

5 同様の操作で3画像目以降を撮影する

6 最後の画像の撮影後、FUNC./SETボタンを押す

クリエイティブゾーンで撮る

モードダイヤル

P Tv Av M

シャッタースピードや絞り数値を選択するなど、カメラの設定を自由に変えて撮影できます。設定を変更した後の撮影のしかたは、「AUTO 撮影する（オート）（基本編 p. 7）」と同じです。

このモードで変更できる設定（p. 160）

使いかた

1 撮影モードになっていることを確認する

- 電源/モードランプが橙点灯になります。

2 モードダイヤルを回し、使いたい機能を選んで撮影する

- 選択している機能により、以下のように操作します。

P	シャッタースピードと絞り数値を自動で設定
Tv	コントローラーホイールを回してシャッタースピードを選ぶ
Av	コントローラーホイールを回して絞り数値を選ぶ
M	コントローラーホイールを回してシャッタースピードを、±ボタンを一回押し、コントローラーホイールを回して絞り数値を選ぶ



- 液晶モニターに、シャッタースピードや絞り数値が表示されます。シャッターボタンを半押ししたとき、白字で表示されている場合は適正露出です。
- 適正露出が得られない場合、シャッタースピードと絞り数値、標準露出からのずれは赤字で表示されます。
- ストロボ発光時、シャッタースピードと絞り数値は常に白字で表示されます。

● **P**、**Tv**、**Av**では、同じ露出でシャッタースピードと絞り数値の組み合わせを変えることができます（プログラムシフト p. 71）。

◆ 絞り数値とシャッタースピードの関係について（p. 54, 55, 56）
◆ シャッタースピードを遅くしたり絞り数値を大きくすると、手ぶれしやすくなります。液晶モニターに赤色で（手ぶれ警告）が点滅したら、以下の方法をお試しください。
- ボタンを押して、ストロボを発光させる
- 三脚を使う
- ISO感度を上げる

P プログラムAEで撮る

被写体の明るさに応じて、シャッタースピードと絞り数値をカメラが自動的に設定します。
適正露出が得られないときは以下の方法をお試しください。

● ストロボを使用する
● ISO感度を変更する
● 測光方式を変更する

P と AUTO の違い

Pでは以下の機能を使用できますが、AUTOではできません。

・露出補正　・ホワイトバランスの変更　・ISO 感度の変更
・ブラケット撮影　・ストロボ調光補正　・インターバル撮影
・ストロボ（常時発光、スローシンクロ、後幕発光）
・色効果の変更　・連続撮影
・測光方式の変更　・マニュアルフォーカス　・AF ロック
・AF 枠の変更（マニュアル選択）　・AE ロック
・FE ロック　・プログラムシフト　・ヒストグラム表示

Tv シャッタースピードを決めて撮る

シャッタースピードを選ぶと、被写体の明るさに応じて、カメラが適正露出になる絞り数値を自動的に設定します。シャッタースピードを速くすると動きの速い被写体の瞬間をとらえることができ、シャッタースピードを遅くすると流動感を表現したり、暗いところでもストロボを発光せずに撮影できます。

- 露出アンダー（露出不足）または露出オーバー（露出過多）になり適正露出が得られないときは、シャッターボタンを半押ししたときに液晶モニターの絞り数値表示が赤字になります。コントローラーホイールを回してシャッタースピードを調節し、液晶モニターの絞り数値表示を白字にしてください。
  撮影メニューの［セーフティシフト］を［入］にすると、自動的に適正露出になるシャッタースピードに調整されます（p. 56）。
  ± ボタンを押すと、露出補正モードになります（p. 73）。± ボタンを押すたびにモードが入れ替わります。ただし、マニュアルフォーカス時は異なります（p. 68）。
- シャッタースピードが遅くなると、CCDの特性により撮影した画像にノイズが増えます。このカメラはシャッタースピードが1.3秒より遅くなると、ノイズを除去する処理を行い高画質で撮影します。ただし次の撮影までにしばらく時間がかかります。
- ズームによって、絞り数値とシャッタースピードは以下のように変わります。

	絞り数値	シャッタースピード（秒）
ワイド端 *1	F 2.8 ～ F 3.5	～ 1/1250
	F 4.0 ～ F 8.0	～ 1/2000
テレ端 *2	F 5.3 ～ F 7.1	～ 1/1250
	F 8.0	～ 1/2000

＊1 最も広角側
＊2 最も望遠側

- ストロボ発光時に有効なシャッタースピードは、最高で1/250秒です。1/250秒よりも高速のシャッタースピードを設定した場合は、撮影時に自動的に1/250秒に再設定されます。

シャッタースピードの表示

以下のシャッタースピードに設定できます。1/160は1/160秒を表します。また、0"3は0.3秒を、2"は2秒を表しています。

15"	13"	10"	8"	6"	5"	4"	3"2	2"5
2"	1"6	1"3	1"	0"8	0"6	0"5	0"4	0"3
1/4	1/5	1/6	1/8	1/10	1/13	1/15		
1/20	1/25	1/30	1/40	1/50	1/60	1/80		
1/100	1/125	1/160	1/200	1/250	1/320			
1/400	1/500	1/640	1/800	1/1000	1/1250			
1/1600	1/2000							

Av 絞りを決めて撮る

絞りとは、レンズを通して入ってくる光の量を調整するものです。絞り数値を選ぶと、被写体の明るさに応じてカメラが適正露出になるシャッタースピードを自動的に設定します。
絞り数値を小さくする(絞りを開く)と、背景をぼかした美しいポートレートが撮影できます。
絞り数値を大きくする(絞りを閉じる)と、奥行きのある風景の手前から遠くまでが鮮明に写ります。絞り数値を大きくするほど、鮮明に写る範囲が広くなります。

- 露出アンダー(露出不足)または露出オーバー(露出過多)になり適正露出が得られないときは、シャッターボタンを半押ししたときに液晶モニターのシャッタースピード表示が赤字になります。コントローラーホイールを回して絞り数値を調節し、液晶モニターのシャッタースピード表示を白字にしてください。
  撮影メニューの[セーフティシフト]を[入]にすると、自動的に適正露出になる絞り数値に調整されます(p. 56)。
  ± ボタンを押すと、露出補正モードになります(p. 73)。± ボタンを押すたびにモードが入れ替わります。ただし、マニュアルフォーカス時は異なります(p. 68)。
- ズーム位置によっては選べない絞り数値があります。
- ストロボ同調最高シャッタースピードは、1/250秒になります。したがって、あらかじめ絞り数値を設定していても、ストロボ同調シャッタースピードに応じて絞り数値が自動的に変更されることがあります。

絞り数値の表示

表示された数値が大きくなるほど、レンズの絞り径は小さくなり、カメラに入る光量が低くなります。

F2.8	F3.2	F3.5	F4.0	F4.5	F5.0	F5.3	F5.6
F6.3	F7.1	F8.0					

セーフティシフト

Tv、**Av**のとき、撮影メニューの[セーフティシフト]を[入]にすれば、適正露出を得られない場合でも、自動的にシャッタースピードまたは絞り数値をシフトして、適正露出で撮影できます。

- ストロボ発光時は機能しません。

M 自由にシャッタースピード / 絞りを決めて撮る

シャッタースピードや絞り数値を自分で決定し、狙いどおりの撮影ができます。長時間露光など、自分の好きな設定で撮影したいときに使います。

コントローラーホイールでシャッタースピードの変更が、± ボタンを押すと絞り数値の変更ができます。

± ボタンを押すたびにモードが入れ替わります。ただし、マニュアルフォーカス時は異なります(p. 68)。

- 液晶モニターには、設定した絞り数値とシャッタースピードに応じた明るさで画像が表示されます。速いシャッタースピードを設定した場合や被写体が暗い場合、ストロボを⚡◎(常時発光(赤目緩和))または⚡(常時発光)にすると常に明るく表示されます。
- ヒストグラム(p. 22)を表示させる(p. 31)と、画像の明るさを調整、確認しながら撮影できます。
- シャッターボタンを半押しすると、液晶モニターに標準露出*からのずれが表示されます。このずれが±２段を越えると、液晶モニターに赤字で「－２」または「＋２」と表示されます。

＊設定されている測光方式をもとに測光を行って、標準露出を算出します。

マイカラーで撮る

モードダイヤル

(icons)

マイカラーは、赤、緑、青の色のバランスを変えたり、色白や日焼けした肌にしたり、画面内の指定した色を別の色にするなど、画像の色味を簡易的に変化させて撮影できる機能です。静止画はもちろん、動画でも利用でき、画像効果や映像効果を演出した撮影が楽しめます。
ただし、撮影状況によっては、画像が粗くなったり、思い通りの色にならないことがあります。そのため、大切なシーンを撮影するときには、必ず事前にためし撮りすることをおすすめします。なお、静止画の場合には、[オリジナル保存]機能(p. 59)を[入]にすれば、マイカラーの画像だけでなく、オリジナル画像(元画像)も記録できます。

P	ポジフィルムカラー	「あざやかブルー」・「あざやかグリーン」・「あざやかレッド」の効果を合わせたもので、青、緑、赤色をより鮮やかに撮影できます。ポジフィルムのようにナチュラルで色鮮やかな画像が撮影できます。
L	色白肌＊	人物の肌を色白に撮影できます。
D	褐色肌＊	人物の肌を褐色に撮影できます。
B	あざやかブルー	青色を強調して撮影できます。空や海などの青い被写体をより鮮やかに撮影できます。
G	あざやかグリーン	緑色を強調して撮影できます。山や新緑、草花、芝生などの緑の被写体をより鮮やかに撮影できます。
R	あざやかレッド	赤色を強調して撮影できます。赤い花や赤い車などの赤い被写体をより鮮やかに撮影できます。
A	ワンポイントカラー	画面内の指定した色のみを残し、それ以外を白黒にして撮影できます。
S	スイッチカラー	画面内の指定した色を別の色に変更して撮影できます。別の色の取り込みは 1 色のみで、複数の色からは選択できません。

	カスタムカラー	赤 / 緑 / 青 / 肌色*のバランスを自由に設定して撮影できます。「青色をもう少し鮮やかに」や「顔色をもう少し明るく」といった微調整ができます。

＊被写体に人物以外の肌色が含まれている場合は、その被写体の色も変更されることがあります。
また、肌の色によっては、効果が表れない場合があります。

マイカラーを使って動画を撮影したいときは、最初にコントローラーホイールで に設定してから(p. 45)、手順1以降を行ってください。

1 FUNC./SETボタンを押し、▲/▼で （ポジフィルムカラー）*を選び、◀/▶で設定したいマイカラーモードを選ぶ

＊現在の設定が表示されます。

- 、 、 、 、 、 のとき
  FUNC./SETボタンを押して撮影画面に戻り、撮影します。
- 、 、 のとき
  それぞれの撮影手順をご覧ください。
  ：ワンポイントカラーで撮る(p. 60)
  ：スイッチカラーで撮る(p. 61)
  ：カスタムカラーで撮る(p. 62)
- コントローラーホイールを回しても選べます。

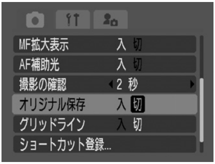
このモードで変更できる設定(p. 160)

オリジナル画像の保存方法を変更する

マイカラーで静止画を撮影するときは、マイカラーの画像だけでなく、オリジナル画像(元画像)も記録するかどうかを設定できます。

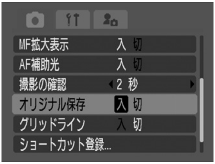
1 [📷(撮影)]メニューから[オリジナル保存]を選ぶ

メニューの選択と設定のしかた(基本編 p. 15)



2 ←/→で[入]または[切]を選び、MENUボタンを押す

- 撮影画面に戻ります。
- オリジナル画像も記録するときは[入]、記録しないときは[切]を選びます。
- [入]の場合、画像番号は連番になります。オリジナル画像が前の番号、マイカラーで撮影した画像が後の番号です。
- コントローラーホイールを回しても選べます。



[オリジナル保存]を[入]した場合

- 撮影時に液晶モニターに表示される画像は、マイカラーで設定している画像だけです。
- 撮影直後に液晶モニターに表示される画像は、マイカラーで撮影した画像になります(p. 57)。このとき画像を消去すると、オリジナル画像も同時に消去されますので、十分に確認してから消去してください。
- 1回の撮影で2画像記録されるため、液晶モニターに表示される記録可能画像数は半分になります。

ワンポイントカラーで撮る

画面内の指定した色以外を白黒で撮影します。

1 FUNC.メニューから (ワンポイントカラー)を選び、MENUボタンを押す

- マイカラーで撮る(p. 57)
- 前回設定した指定色以外は白黒で表示されます。
- 色取り込みモードになり、オリジナルの画像とワンポイントカラーの画像が交互に表示されます(初期値は緑に設定されています)。

2 液晶モニターの中央の枠内に、残したい色が入るようにカメラを向け、←を押す

- 指定できるのは1色です。
- ↑/↓で残したい色の取り込み範囲を変更できます(±5段階)。
  －5:残したい色だけを取り込みます。
  ＋5:残したい色に近い色も一緒に取り込みます。
- このあと、すぐに撮影できます。また、撮影後は再びこの画面が表示され、設定を変更できます。

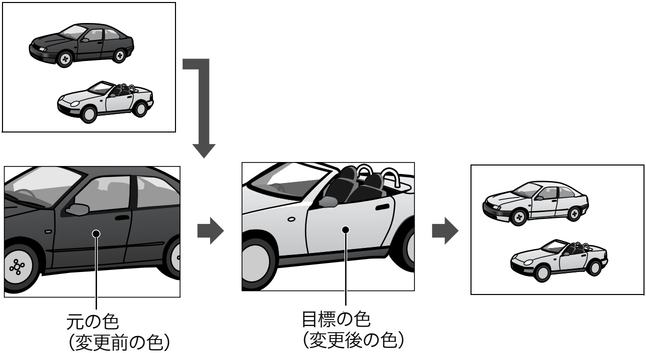
3 FUNC./SETボタンを押す

- 設定を終了します。
- MENUボタンを押すと、マイカラーを選ぶ画面に戻ります。

- ストロボを発光して撮影したり、色取り込み後にホワイトバランス、測光方式を変更して撮影すると、思いどおりの画像にならないことがあります。
- ワンポイントカラーで指定した色は、電源を切っても記憶されます。
- (ワンポイントカラー)は露出補正などができません。

スイッチカラーで撮る

画面内の指定した色を別の色に変えて撮影します。



1 FUNC.メニューから （スイッチカラー）を選び、MENUボタンを押す

- マイカラーで撮る（p. 57）
- 色取り込みモードになり、オリジナルの画像とスイッチカラーの画像（前回設定した指定色が反映）が交互に表示されます（初期値では、変えたい色は緑、変更後の色は白に設定されています）。

2 液晶モニターの中央の枠内に、元の色が入るようにカメラを向け、←を押す

- 指定できるのは1色です。
- ↑/↓ で変えたい色の取り込み範囲を変更できます（±5段階）。
  －5：変えたい色だけを取り込みます。
  ＋5：変えたい色に近い色も一緒に取り込みます。

3 液晶モニターの中央の枠内に、目標の色が入るようにカメラを向け、→を押す

- 指定できるのは1色です。

- このあと、すぐに撮影できます。また、撮影後は再びこの画面が表示され、設定を変更できます。

4 FUNC./SETボタンを押す

- 設定を終了します。
- MENUボタンを押すと、マイカラーを選ぶ画面に戻ります。

◆ ストロボを発光して撮影したり、色取り込み後にホワイトバランス、測光方式を変更して撮影すると、思いどおりの画像にならないことがあります。
◆ スイッチカラーで指定した色は、電源を切っても記憶されます。
◆ （スイッチカラー）は露出補正できません。

カスタムカラーで撮る

赤、緑、青、肌色の、それぞれの色のバランスを調整して撮影します。

1 FUNC.メニューから（カスタムカラー）を選び、MENUボタンを押す

マイカラーで撮る（p. 57）

2 ↑/↓で[赤]、[緑]、[青]、[肌色]のいずれかを選び、←/→で色合いを調整する

- 調整結果が表示されます。
- コントローラーホイールを回しても調整できます。



3 FUNC./SETボタンを押す

- 設定を終了します。
- MENUボタンを押すと、マイカラーを選ぶ画面に戻ります。

ショートカットボタンを登録する

よく使う機能を（ショートカット）ボタンに1つだけ登録できます。
登録できる機能は以下のとおりです。ただし、撮影モードによっては登録できないものもあります。

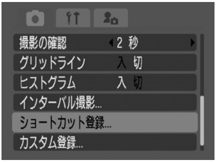
- ・記録画素数（初期設定）（p. 36）
- ・ホワイトバランス＊1（p. 74）
- ・色効果＊2（p. 76）
- ・AE ロック（p. 70）
- ・新規作成（フォルダ）（p. 89）
- ・フレームレート（p. 36）
- ・マイカラー（p. 57）
- ・測光方式（p. 72）
- ・AF ロック（p. 67）

＊1　マニュアルは事前に白データの取り込みをしてからお使いください。
＊2　カスタムは事前に設定してからお使いください。

機能を登録する

1 [（撮影）]メニューから[ショートカット登録]を選び、FUNC./SETボタンを押す

- ●メニューの選択と設定のしかた（基本編 p. 15）



2 ←/→で登録したい機能を選び、FUNC./SETボタンを押す

- ●アイコンの右下に×が表示されている場合、機能の登録はできますが、現在の撮影モードのままでショートカットボタンを押しても無効となります。
- ●コントローラーホイールを回しても選べます。





モードダイヤルを AUTO にしているとき

ショートカットボタンを使う

1 ボタンを押す

登録した機能が呼び出されます。液晶モニターに機能のアイコンが表示されます。

- ボタンを押すたびに、登録されている機能の設定値が切り換わります。
- 現在の撮影モードで無効となる機能が設定されている場合は、何も表示されません。使用できる撮影モードに変更してもう一度 ボタンを押します。



AF枠を選択する

AF枠はピントを合わせるための枠です。以下のようにAF枠を選択できます。

- AiAF（オート選択）、1点を選ぶ→以下参照
- 任意のAF枠を選択する（p. 65）

モードダイヤル
AUTO SCN* P Tv Av M

＊ （キッズ&ペット）、 （花火）では設定できません。

AF枠をAiAF（オート選択）または、1点から選べます。オート選択にすると、撮影状況に応じて9つのAF枠の中からカメラが自動的にAF枠を選択してピントを合わせます。デジタルズームをお使いのときは、AF枠は1点に固定されます。

1 ボタンを押す

液晶モニター上にAF枠が緑色で表示されます。

2 コントローラーホイールを回して、オート選択か1点を選ぶ



画面例：オート選択時



画面例：1点選択時

3 [ボタン] ボタンを押す

[ボタン] ボタンを押さずにシャッターボタンを押して、設定したAF枠で撮影することもできます。

任意のAF枠を選択する

モードダイヤル

P Tv Av M

任意の位置にAF枠を手動で移動できます（アクティブフレームコントロール）。ねらった被写体に確実にピントを合わせたり、構図を楽しむのに便利です。

1 [ボタン] ボタンを押し、コントローラーホイールを回して1点を選ぶ

液晶モニター上にAF枠が緑色で表示されます。

2 ↑/↓または←/→でAF枠を移動し、[ボタン] ボタンを押す

- AF枠を移動したあと[ボタン] ボタンの代わりにシャッターボタンを押すと、すぐに撮影できます。
- [ボタン] ボタンを押しつづけると、AF枠がもとの位置（中央）に戻ります。

- AF枠を任意の位置に設定して撮影するときは、液晶モニターをつけてください。
- デジタルズームをお使いのときや、液晶モニターを消してファインダーを使って撮影するときは、AF枠を任意の位置に設定しても、AF枠は1点に固定されます。
- AF枠の色について(p. 19)
- 測光方式が[スポット測光]のときは、AF枠をスポット測光枠と連動させることができます(p. 72)。
- ワンポイントアドバイス(p. 154)

ピントが合いにくい被写体を撮る

以下のような被写体は、ピントが合わないことがあります。

- コントラストが極端に低い被写体
- 近いものと遠いものが混在する被写体
- 画像中央部が極端に明るい被写体
- 高速で移動する被写体
- ガラス越しの被写体：できるだけガラスに近寄り、反射による写り込みのない状態で撮影してください。

これらの被写体を撮影する場合は、その被写体とほぼ同じ距離にある別の被写体でフォーカスロック撮影するか、マニュアルフォーカスやAFロックで（手動でピントを合わせて）撮影してください。

フォーカスロックで撮る

モードダイヤル

AUTO SCN* P Tv Av M

*（花火）は除く。

1 ピントを合わせたい被写体と同じ撮影距離にある異なる被写体を、液晶モニターに表示されているAF枠に収める

2 シャッターボタンを半押しし、ピントを合わせる

- 「ピピッ」と電子音が鳴り、AF枠が緑色になります（▭ (スティッチアシスト)、動画(動画)ではAF枠は表示されません）。
- このときAEもロックされます。撮影したい被写体と、その被写体と同じ距離にあるフォーカスロックに用いた被写体との輝度の差が大きいと、適正露出が得られない場合があります。この場合はAFロック(p. 67)で撮影するか、AEロック(p. 70)で撮影してください。

3 そのままカメラの向きを変えて構図を決め、シャッターボタンを全押しして撮影する

AFロックで撮る

モードダイヤル
SCN* 🎥 ▭ 動画 P Tv Av M

＊ 花火(花火)は設定できません。

1 ピントを合わせたい被写体と同じ撮影距離にある異なる被写体を、AF枠の中に収める

2 シャッターボタンを半押ししてピントを合わせ、そのままMFボタンを押す

- 「ピピッ」と電子音が鳴り、AF枠が緑色になったら**MF**ボタンを押してください。
- 液晶モニターに MF が表示されます。
- シャッターボタン、**MF**ボタンを放しても、フォーカスは固定されています。
- もう一度**MF**ボタンを押すと、AFロックは解除されます。
（コントローラーホイール、± ボタン以外を操作しても AF ロックは解除されます。）

3 カメラの向きを変えて構図を決め、シャッターボタンを全押しして撮影する

- ◆ AFロックは、シャッターボタンを放して構図を決められるので便利です。また撮影後もAFロックされたままなので、同じピントですぐ次の撮影ができます。
- ◆ (スティッチアシスト)、(動画)はAF枠が表示されないので、ねらった被写体にピントが合うようにカメラを向けてください。
- ◆ のときも、AFロックの設定/解除ができます(p. 45)。
- ◆ ショートカットキーに を登録すると、MFボタンを押さなくてもAFロックできます(を除く)。

マニュアルフォーカスで撮る

モードダイヤル

SCN* P Tv Av M

＊ (花火)は設定できません。

手動でピントを合わせて撮影します。

1 MFボタンを押す



MFインジケーター

- ● フォーカスがロックされ、液晶モニターに MF とMFインジケーターが表示されます。
- ● [(撮影)]メニューの[MF拡大表示]を[入]にしてAF枠をマニュアル選択(p. 64)しているときは、AF枠を中心に画像が拡大表示*されます。

＊ (スティッチアシスト)、(動画)、デジタルズームを使用しているとき、テレビに画像を表示しているときは拡大表示されません。
＊拡大表示しない設定にもできます。(p. 30)

2 コントローラーホイールを回して、フォーカスを合わせる

- ● 被写体がはっきり見えるまで、ピントを合わせてください。
ピントが合ったあと、そのままの位置で ボタンを押すと、その

ときのピント位置の近くから最もピントの合う位置を探して、自動的に合わせることができます。
- MFインジケーターはピント位置の目安です。表示される数値を目安に撮影してください。
- もう一度**MF**ボタンを押すと、マニュアルフォーカスは解除されます。
- ±ボタンを押すと露出モードになり、±ボタンを押すたびにモードが入れ替わります(p. 73)。
ただし、モードによっては次のように切り換わります。

SCN マニュアルフォーカス → シーンモード切換 → 露出補正 → マニュアルフォーカス

Tv マニュアルフォーカス → シャッタースピード → 露出補正 → マニュアルフォーカス

Av マニュアルフォーカス → 絞り数値 → 露出補正 → マニュアルフォーカス

M マニュアルフォーカス → シャッタースピード → 絞り数値 → マニュアルフォーカス

3 シャッターボタンを全押しして撮影する

マニュアルフォーカスを設定しているときはAF枠を変更できません。マニュアルフォーカスを解除してから変更してください。

MFインジケーターの表示単位を変更できます。(p. 33)

露出を固定して撮る（AEロック）

モードダイヤル

P Tv Av

露出とピントを別々に決めて撮影できます。被写体と背景のコントラストが極端に強いときや、逆光下での撮影などに有効です。

ストロボは必ず に設定し、ストロボを発光させないでください。ストロボが発光すると、AEロックが働きません。ストロボを使って撮影したいときは、FEロックしてください。（p. 71）

1 露出を固定したい被写体にAF枠（1点のとき）またはスポット測光枠を合わせ、シャッターボタンを半押しする

- AF枠を移動する（p. 64）
- 測光方式を切り換える（p. 72）
- のときのAEロックの設定/解除（p. 45）

2 シャッターボタンを半押ししたままISOボタンを押す

- 露出が記憶（AEロック）され、液晶モニターに ✱ が表示されます。



AEロック

3 構図を決め直して撮影する

AF枠内の被写体にピントが合います。

AEロック後、シャッターボタンまたはコントローラーホイール以外を操作したり、節電機能が働くと、AEロックは解除されます。

自動的に設定されたシャッタースピードと絞り数値の組み合わせを、同じ露出のままで自由に変えて撮影できます(プログラムシフト)。以下のように操作します。

1. モードダイヤルを**P**、**Tv**、**Av**のいずれかにする。
2. 露出を固定したい被写体にカメラを向けてピントを合わせる。
3. シャッターボタンを半押ししながらISOボタンを押して露出を固定する(液晶モニターに✱が表示されます)。シャッターボタンを放してからコントローラーホイールを回して、希望するシャッタースピードまたは絞り数値になるまで変える。
4. 構図を決め直して撮影する。
   撮影が終了し、設定は解除されます。

FEロックして撮る

モードダイヤル

P Tv Av

ねらった被写体が構図のどこにあっても、適正な露出でストロボ撮影できます。

1 ⚡を押してストロボを⚡に設定する

2 露出を固定したい(ねらった)被写体にAF枠またはスポット測光枠を合わせ、シャッターボタンを半押しする

3 シャッターボタンを半押ししたままISOボタンを押す

- ストロボがプリ発光し、被写体に必要な露光量を記憶し、液晶モニターに✱が表示されます。
- ISOボタンを押すたびにプリ発光し、そのとき必要な露光量をFEロックします。

4 構図を決め直して撮影する

FEロック後、シャッターボタン、コントローラーホイール以外を操作すると、FEロックは解除されます。

- 液晶モニターに⊕が表示されているときは、FEロックできません。
- [ストロボ自動調光]が[切]のときは、FEロックできません。

測光方式を切り換える

モードダイヤル

P Tv Av M

測光とは被写体の明るさを測定することです。最適な方式に切り換えることにより、ねらった被写体を最適な露出で撮影できます。通常は[評価測光]に設定されています。

◎	評価		画面内を多分割して測光します。被写体の位置、明るさ、背景、順光／逆光など複雑な光の要素をカメラが判断し、被写体を適正な露出で撮影します。
[ ]	中央部重点平均		画面中央部の被写体に重点を置きながら、画面全体を平均的に測光します。
[•]	スポット		「スポット測光枠」内を測光します。
		中央固定	スポット測光枠を液晶モニター中央部に固定します。
		AF 枠連動	スポット測光枠を AF 枠に連動させます。

1 FUNC.メニューから[◎(測光方式)]を選び、←/→で測光方式を選ぶ

[評価測光][中央部重点平均測光]はそのまま撮影する

- [スポット測光]を設定する→手順2
- コントローラーホイールを回しても選べます。

2 [(撮影)]メニューから[スポット測光枠]を選ぶ



- メニューの選択と設定のしかた(基本編 p. 15)
- AF枠は1点に設定してください。(p. 64)

3 ←/→で[中央固定]または[AF枠連動]を選び、MENUボタンを押す



[ ]スポット測光枠
AF枠

- [中央固定]のときは液晶モニター中央にスポット測光枠が表示([ ])されます。AF 枠は別の位置に動かすことができます。(p. 64)
- [AF 枠連動] のときは、選択している AF 枠にスポット測光枠が表示されます。
- コントローラーホイールを回しても選べます。

露出を補正する

モードダイヤル

SCN P Tv Av

逆光や背景が明るい場所での撮影で、被写体が暗くなってしまったり、夜景の撮影でライトが明るすぎるようなときに露出を補正します。

1 ボタンを押し*、コントローラーホイールを回して、露出を調整する



- 補正量は、−2〜+2の範囲で1/3段ずつ変更できます。
- 設定したあとシャッターボタンを押して、すぐに撮影できます。撮影後はもう一度この画面が表示され、設定を変更できます。

- 露出補正を解除するときは、コントローラーホイールを回して補正量を0に戻します。

- 🎥（動画）のときは露出シフトの設定/解除ができます（p. 45）。
- ワンポイントアドバイス（p. 155）

色合いを調整する（ホワイトバランス）

モードダイヤル

🎥 P Tv Av M

ホワイトバランスを設定すると、撮影時の光源に合った適正な色になります。
設定内容と光源の組み合わせは以下のとおりです。

AWB	オート	自動設定
☀	太陽光	晴天の屋外
☁	くもり	曇天や日陰、薄暮など
💡	電球	電球、電球色タイプ（3 波長型）の蛍光灯
	蛍光灯	昼白色蛍光灯、白色蛍光灯、昼白色タイプ（3 波長型）の蛍光灯
	蛍光灯 H	昼光色蛍光灯、昼光色タイプ（3 波長型）の蛍光灯
⚡	ストロボ	ストロボ使用時（🎥（動画）では設定できません）
	水中	ウォータープルーフケース WP-DC1（別売）を使った水中での撮影に最適です。水中に最適なホワイトバランスに設定され、青みをおさえた自然な色合いで撮影できます。
	マニュアル	白い紙や布など白を基調としたものをカメラに記憶させ、最適な白データを取り込んでから撮影できます。

1 FUNC.メニューから AWB *（オート）を選び、←/→で設定したいホワイトバランスを選ぶ



＊現在の設定が表示されます。

- （マニュアル）を設定する（p. 75）
- 設定したあとシャッターボタンを押して、すぐに撮影できます。撮影後はもう一度この画面が表示され、設定を変更できます。
- コントローラーホイールを回しても選べます。

> 色効果が（セピア）、（白黒）のときは設定できません（p. 76）。

マニュアルホワイトバランスを設定する

以下のような場合、AWB（オート）ではホワイトバランスが調整できないことがあります。（マニュアル）で白データを取り込んでから撮影してください。

- 至近距離（マクロ）で撮影するとき
- 単一な色の被写体（空、海、森など）を撮影するとき
- 水銀灯などの特殊な光源で撮影するとき

1 FUNC.メニューから AWB *（オート）を選び、←/→で（マニュアル）を選ぶ



＊現在の設定が表示されます。

- コントローラーホイールを回しても選べます。

2 カメラを白い紙や布に向け、MENUボタンを押す



白データ取り込み枠

白データが取り込まれます。

- 中央の枠いっぱいに白い紙や布が表示されるよう構図を決めてから、MENUボタンを押してください。

● 設定したあとシャッターボタンを押して、すぐに撮影できます。撮影後はもう一度この画面が表示され、設定を変更できます。

◆ マニュアルホワイトバランスは、以下のような条件で設定することをおすすめします。
- **撮影モードをP にし、露出補正、ストロボ調光補正をともに±0にする**
  適正露出でない場合（真っ黒や真っ白）は白データを正しく取り込めないことがあります。
- **ズームを最も望遠側（テレ端）の位置にする**
  デジタルズームは[切]にしてください。
- **ストロボを撮影条件に合わせて、（常時発光）または（発光禁止）にしておく**
  撮影時のストロボ設定と同じ条件でホワイトバランスを設定してください。条件が合っていない場合、最適なホワイトバランスを設定できないことがあります。（ストロボを（赤目緩和オート）/（オート）に設定していると、マニュアルホワイトバランスで白データを取り込むときにストロボが発光することがあります。このときは、撮影時もストロボを発光させてください。）
- **ISO感度を撮影時と同じ条件に設定する**

◆ （スティッチアシスト）では設定できませんが、他のモードで取り込んだ白データは使用できます。
- 設定したマニュアルホワイトバランスは、カメラの設定を初期設定に戻しても解除されません（p. 35）。

色効果を切り替える

モードダイヤル

***1 P Tv Av M**

色効果を切り替えると、画像の印象を変えられます。

	効果切	通常設定

色効果V	くっきりカラー	コントラストと色の濃さを強調し、くっきりした色合いにする
色効果N	すっきりカラー	コントラストと色の濃さを抑え、すっきりとした色合いにする
色効果LS	ソフト	輪郭の強調を抑える
色効果S	セピア	セピア色にする
色効果BW	白黒	白黒にする
色効果C	カスタムカラー＊2	コントラスト、シャープネス、色の濃さを自由に設定する

＊1 （マイカラー（動画））は設定できません。
＊2 **P**、**Tv**、**Av**、**M**のみ

1 FUNC. メニューから ＊（効果切）を選び、←/→で設定したい色効果を選ぶ



＊現在の設定が表示されます。

- 設定したあとシャッターボタンを押して、すぐに撮影できます。撮影後はもう一度この画面が表示され、設定を変更できます。
- コントローラーホイールを回しても選べます。

を選んだとき



- MENUボタンを押すとコントラスト、シャープネス、色の濃さを設定する画面が表示されます。↑/↓で設定したい項目を選び、←/→で設定を変更してMENUボタンを押します。コントローラーホイールを回しても選べます。
- 設定したあとシャッターボタンを押せば、すぐに撮影できます。また撮影後は、再びこの画面が表示され、設定を変更できます。

コントラスト

- 明るさの度合を調節できます。
- −（弱め）、0（標準）、＋（強め）から選びます。

シャープネス

- 輪郭のくっきり度合を調節できます。
- −(弱め)、0(標準)、+(強め)から選びます。

色の濃さ

- 色の濃淡を調節できます。
- −(薄い)、0(標準)、+(濃い)から選びます。

(セピア)、(白黒)を選んだときは、ホワイトバランスは設定できません。

ISO ISO感度を変更する

モードダイヤル

P Tv Av M

ISO感度を上げると、光量が少ない場所でも画像を明るめにして撮影できます。暗いところで手ぶれを抑えたいとき、ストロボをオフにして撮影したいとき、シャッタースピードを速くしたいときに便利です。
感度は、AUTO、50、100、200、400から選べます。

1 ISOボタンを押す



- ISO ボタンを押すたびに、AUTO→50→100→200→400と切り換わります。
- 設定したあとシャッターボタンを押して、すぐに撮影できます。撮影後はもう一度この画面が表示され、設定を変更できます。

- ISO感度を上げすぎると、画像にノイズが増えます。きれいに撮りたいときは、なるべく低い感度を選んでください。
- [AUTO]を選択すると、最適な画質になる感度に設定されます。また、被写体を照らすストロボ発光量が十分でない場合は自動的に感度が上がります。

ワンポイントアドバイス（p. 155）

露出を自動的に変えて撮る（AEB撮影）

モードダイヤル

P Tv Av

撮影時の露出を中心に、設定したマイナス補正とプラス補正で自動的に3画像撮影できます。
補正量は、撮影時の露出を中心に－2～＋2の範囲で1/3段ずつ設定できます。また露出補正（p. 73）をしている場合は、その設定値を中心に補正量を設定できます。標準露出、マイナス補正、プラス補正の順で撮影します。

3枚の撮影は、連続撮影と同じ間隔で撮影されます。
連続して撮る（p. 43）

1 FUNC.メニューの＊(BKT-OFF)を選ぶ

＊現在の設定が表示されます。



2 ←/→で (AEB)を選んでMENUボタンを押し、←/→で補正量を調整する

- コントローラーホイールを回しても選べます。
- →を押すと補正量が大きくなり、←を押すと小さくなります。



- 設定したあとシャッターボタンを押して、すぐに撮影できます。撮影後はもう一度この画面が表示され、設定を変更できます。

● AEB撮影を解除するときは、(BKT-OFF)を選びます。

● ストロボ発光時はAEB撮影ができません。ストロボを発光して撮影した場合は、通常の1画像撮影になります。
● 連写の設定（p. 43）にかかわらず、3枚連続撮影されます。

フォーカスを自動的に変えて撮る（フォーカスブラケット撮影）

モードダイヤル

P Tv Av M

マニュアルフォーカスで設定したピント位置を中心に、設定した前寄りと後ろ寄りのピント位置で自動的に3画像撮影できます。前寄り、後ろ寄りのピント位置を、大・中・小の3段階で設定できます。設定したピント位置、後ろ寄りピント、前寄りピントの順で撮影します。

3枚の撮影は、連続撮影と同じ間隔で撮影されます。
連続して撮る（p. 43）

---

1 FUNC.メニューから＊(BKT-OFF)を選び、←/→で(Focus-BKT)を選んでMENUボタンを押す



＊現在の設定が表示されます。
● コントローラーホイールを回しても選べます。

2 ←/→でピント位置の変更量を設定する



● →を押すと間隔が広くなり、←を押すと狭くなって、中心に近い位置でピントを合わせます。コントローラーホイールを回しても設定できます。
● 設定したあとシャッターボタンを押して、すぐに撮影できます。撮影後はもう一度この画面が表示され、設定を変更できます。

3 FUNC./SETボタンを押し、マニュアルフォーカス(p. 68)で撮影する

- ストロボ発光時はフォーカスブラケット撮影ができません。通常の1画像撮影になります。
- 連写の設定(p. 43)にかかわらず、3枚連続撮影されます。

ストロボの自動調光設定を切り換える

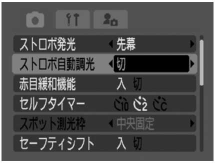
モードダイヤル

Tv Av

ストロボは自動調光で発光されます(**M** を除く)が、自動調光しないように設定することもできます。

1 [(撮影)]メニューから[ストロボ自動調光]を選ぶ

メニューの選択と設定のしかた(基本編 p. 15)



2 ←/→で[入]または[切]を選び、MENUボタンを押す

コントローラーホイールを回しても選べます。

ストロボ調光量／発光量を補正する

モードダイヤル

P Tv＊1 Av＊1 M ＊2

＊1　[ストロボ自動調光]が[切]のときは、ストロボ発光量を設定できます。
＊2　ストロボ発光量のみ設定できます。

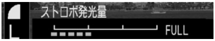
ストロボ調光補正	● [ストロボ自動調光]が[入]のとき、標準調光を中心に－2～＋2の範囲で1/3段ずつ変更できます。 ● カメラの露出補正と併用することにより、背景の露出も補正したストロボ撮影ができます。
ストロボ発光量	● モードダイヤルが**M**、または[ストロボ自動調光]が[切]のとき、ストロボの発光量をフル発光まで3段階で制御して撮影できます。

1 FUNC.メニューから（ストロボ調光補正またはストロボ発光量）を選ぶ

設定可能なものが表示されます。



ストロボ自動調光が[入]のとき



ストロボ自動調光が[切]のとき

2 ←/→ で補正量/発光量を調整する

- コントローラーホイールを回しても調整できます。
- 設定したあとシャッターボタンを押して、すぐに撮影できます。撮影後はもう一度この画面が表示され、設定を変更できます。

- ◆ 撮影メニューの[ストロボ自動調光]が[入]のときは、自動調光で発光します。自動調光では、ストロボ調光量が設定できます。**M**または[ストロボ自動調光]が[切]のときはマニュアル発光します。マニュアル発光では、ストロボ発光量を調整できます。
- ◆ [ストロボ自動調光]が[入]のとき、ストロボの発光はプリ発光（ストロボ撮影に必要な露出情報を得るための予備的な発光）とメイン発光（ストロボ撮影を行うための発光）の2回行われます。プリ発光で得た被写体の露出情報をもとにして、メイン発光に必要な発光量が決められ、最適な発光量でストロボ撮影が行われます。なお、FEロック撮影時（p. 71）は、プリ発光しません。

ストロボ発光のタイミングを切り換える

モードダイヤル

P Tv Av M

先幕	シャッタースピードにかかわらず、シャッターが開いた直後にストロボが発光します。通常はこちらで撮影します。
後幕	シャッターが閉じる直前にストロボが発光します。ストロボ発光のタイミングが先幕発光より遅くなり、車のライトが後方に流れるような画像を撮影できます。



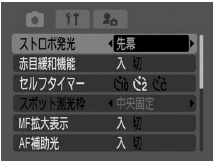
先幕設定で撮影した画像



後幕設定で撮影した画像

1 [(撮影)] メニューから [ストロボ発光] を選ぶ

メニューの選択と設定のしかた（基本編 p. 15）



2 ←/→ で [先幕] または [後幕] を選ぶ

コントローラーホイールを回しても選べます。

間隔をあけて自動的に撮影する（インターバル撮影）

モードダイヤル

P Tv Av M

一定の間隔で自動的に撮影できます。これにより、開花する植物の観測などの定点観測ができます。設定できる撮影間隔は約1分～約60分、撮影画像数は2～100画像です。

> ❗ 長時間の撮影になりますので、AC アダプターキット ACK-DC20（別売）の使用をおすすめします（p. 136）。

1 [📷（撮影）]メニューから[インターバル撮影]を選んでFUNC./SETボタンを押す

メニューの選択と設定のしかた（基本編 p. 15）



2 ←/→ で撮影間隔を選ぶ

- ←/→ を押し続けると撮影間隔が 5 分単位で変わります。
- コントローラーホイールを回しても選べます。



3 ↓ を押し、←/→ で撮影枚数を選ぶ

- ←/→ を押し続けると撮影枚数が5枚単位で変わります。
- コントローラーホイールを回しても選べます。
- 最大撮影枚数*はメモリーカードの残り容量によって決まります。
  ＊実際に撮影した画像によっては、少なくなる場合もあります。

4 FUNC./SETボタンを押す

メニュー画面が消え、液晶モニターの右下に Int. が表示されます。

5 シャッターボタンを押す

- 1枚目が撮影されインターバル撮影が始まります。
- 設定した枚数の撮影が終わると、節電機能の設定にかかわらず電源が自動的に切れます。
- インターバル撮影の途中で以下の操作を行うと、インターバル撮影が中止されます。
  - 次の撮影を行うまでの間にモードダイヤルを変更する
  - 次の撮影を行うまでの間にシャッターボタンを半押しする
  - メモリーカードスロット / バッテリーカバーを開く

- 再生モードにする
- 電源を切る

- インターバル撮影が始まってからのボタン操作は受け付けません。
- 次の撮影までの間、レンズは繰り出されたままとなりますのでご注意ください。
- 撮影直後、液晶モニターに撮影画像は表示されません。
- [日付/時刻]が設定されていないときインターバル撮影はできません。
- 連続撮影、AEB、フォーカスブラケットは設定できません。
- セルフタイマー撮影は最初の1枚のみできます。

Cカスタム登録する

モードダイヤル

P Tv Av M C

よく使う撮影モードや撮影時のさまざまな設定を、あらかじめ**C**（カスタム）に登録しておくことができます。必要なときにモードダイヤルを**C**に合わせるだけで、事前に登録した設定内容で撮影できます。他の撮影モードに切り換えたり、電源を切ると解除されてしまう設定（連続撮影、セルフタイマーなど）も保持されます。

1 モードダイヤルをP、Tv、Av、M、Cのいずれかにする

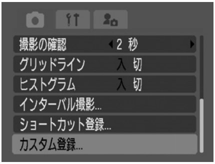
C に登録した設定の一部（撮影モード以外）を変更するときは、**C** を選びます。

2 登録したい内容を設定する

C に登録できる機能

- 撮影モード（**P**、**Tv**、**Av**、**M**）
- **P**、**Tv**、**Av**、**M** で設定可能な項目（p. 160）
- 撮影メニューの設定内容
- ズーム位置
- マニュアルフォーカス位置

3 [(撮影)] メニューから[カスタム登録]を選んでFUNC./SETボタンを押す



- メニューの選択と設定のしかた(基本編 p. 15)

4 [OK]を選びFUNC./SETボタンを押す

- ◆ 設定内容は、他の撮影モードには反映されません。
- ◆ 登録内容をリセットできます(p. 35)。

縦横自動回転の設定をする

モードダイヤル

AUTO SCN P Tv Av M

このカメラにはSI(Super Intelligent)センサーが装備されているため、縦位置で撮影した画像は、再生時に正しい縦位置に回転して表示されます。この機能の入 / 切を設定できます。

1 撮影モードまたは、再生モードを選び、[(設定)]メニューから[縦横自動回転]を選ぶ



- メニューの選択と設定のしかた(基本編 p. 15)
- 撮影モードで[入]に設定したときは、撮影した画像に縦横方向が記憶されます。
- 再生モードで[入]に設定したときは、カメラの向きに応じて、画像の天地を正しく液晶モニターに表示します(ただし、撮影モードで[縦横自動回転]を[入]にして撮影した画像のみ)。

2 ←/→で[入]を選び、MENUボタンを押す

- コントローラーホイールを回しても選べます。
- 撮影または再生画面に戻ります。
- [入] に設定すると、撮影モードで液晶モニターが「情報表示あり」のとき、画面右上にカメラの向きを示すアイコン(:通常、 :右が下、 :左が下)が表示されます。

●カメラを真上や真下に向けて撮影すると、正しく機能しない場合があります。アイコン( )を確認し、正しく天地を判断しない場合は[切]にしてお使いください。
●縦横自動回転の設定が[入]のときに縦位置で撮影した画像をパソコンに取り込む場合、取り込みに使用するソフトウェアによっては回転結果が反映されないことがあります。

- ◆ このカメラは、縦位置で構えて撮影する場合、SIセンサーにより上側を「天」、下側を「地」と判断し、縦位置に最適なフォーカス、露出、ホワイトバランス制御を行います。この機能は縦横自動回転の入 / 切に関係なく有効です。
- ◆ 撮影時[入]、再生時[入]のとき、縦位置で撮影した画像は、カメラの向きにかかわらず縦位置で表示されます。

画像番号をリセットする

撮影した画像には、自動的に画像番号が付きます。その画像番号の設定方法を選択します。

通し番号	最後に撮影した画像の続き番号が次の画像につけられます。そのため、フォルダを変更したり、メモリーカードを交換*したりしても、画像番号が重複しないので、パソコンで画像をまとめて管理する場合に便利です。
オート リセット	画像番号、フォルダ番号ともに初期値(100 − 0001)に戻ります*。そのため、フォルダ単位で管理する場合に便利です。

*新規のメモリーカードに交換時。記録済みのメモリーカードを入れたときは、最後に撮影した画像のフォルダ番号と画像番号を合わせた7桁の番号を比べ、大きい方の番号を引き継ぎます。

1 [(設定)]メニューから[画像番号]を選ぶ

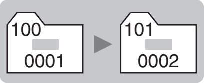
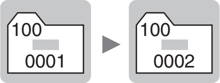
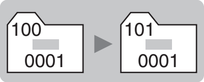
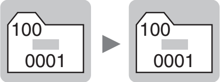
メニューの選択と設定のしかた(基本編 p. 15)



2 ←/→で[通し番号]または[オートリセット]を選び、MENUボタンを押す

コントローラーホイールを回しても選べます。

- 番号リセット機能を[通し番号]にして撮影すると、画像番号が重複しないため、パソコンでまとめて管理するような場合に便利です。
- **画像番号およびフォルダ番号について**
  撮影した画像には、0001～9999までの画像番号が割り振られ、各フォルダには、100～999までの番号が割り振られます。
  ひとつのフォルダには、2000画像ずつ保存されます。

	フォルダを新規に作成した場合	他のメモリーカードに交換した場合
通し番号	メモリーカード 1 	メモリーカード 1　メモリーカード 2 
オートリセット	メモリーカード 1 	メモリーカード 1　メモリーカード 2 

- 次の設定で撮影した画像は、必ずひとつのフォルダに保存されるため、2000画像に満たなくても、十分な空きがない場合には、新しいフォルダに保存される場合があります。
  ・連続撮影　・セルフタイマー((カスタム)の場合)
  ・動画　・スティッチアシスト
  ・マイカラー([オリジナル保存]が[入]の場合)

- ◆ 同じフォルダ番号や、フォルダ内に同じ画像番号が複数あるときは、再生できません。
- ◆ フォルダの構造や画像のタイプについては、ソフトウェアクイックガイドでご確認ください。

画像の保存先(フォルダ)を作成する

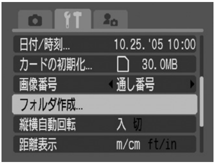
画像を保存するメモリーカード内に、手動または自動的にフォルダを作成できます。撮影日ごとや月ごとにフォルダを作成できるので、撮影した画像の管理がしやすくなります。

新規作成		次に撮影したとき(1 回セットするたび)にフォルダが作成され、画像が保存されます。
自動作成	切*	2000 画像ごとに新しいフォルダが作成されます。1 つのフォルダに 2000 画像ずつ保存されます。
	毎日	撮影した日ごとにフォルダが作成され、その日に撮影された画像が保存されます。撮影しなかった日は、フォルダが作成されません。
	月曜〜日曜(毎週)	指定した曜日が来るまで、1 週間同じフォルダに撮影された画像が保存されます。指定した曜日以降に撮影された画像は、新しいフォルダに保存されます(ただし 2000 画像以内)。撮影しなかった週は、フォルダが作成されません。
	毎月	毎月、一番初めに撮影した日にフォルダが作成され、その月に撮影された画像が保存されます(ただし 2000 画像以内)。撮影しなかった月は、フォルダが作成されません。

*初期設定

- 作成時間:[毎日]、[月曜〜日曜(毎週)]、[毎月]を選択したときに、その日の何時にフォルダを作成するかを設定します(指定した時間以降で、最初に撮影したときにファルダが作成されます)。

1 [(設定)メニュー]から[フォルダ作成]を選び、FUNC./SETボタンを押す



2 次回作成時にフォルダを作成するときは、←/→で[新規作成]にチェックマークを付ける



指定した日時に新規フォルダを作成するときは、↑/↓で[自動作成]を選び、←/→で[切]、[毎日]、[月曜～日曜]、[毎月]を選ぶ

コントローラーホイールを回しても選べます。



3 ↑/↓で[作成時間]を選び、←/→で時間の設定を行う

コントローラーホイールを回しても設定できます。



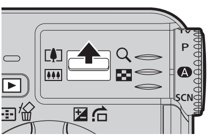
- フォルダが自動作成される前に、液晶モニターに が表示されます。

🔍拡大して見る

1 ▶ボタンを押す

2 ズームレバーを🔍側に押す

▦ 側に押すと、拡大表示が解除されます。

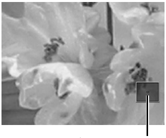


約5倍に拡大



表示位置の目安

約10倍に拡大



表示位置の目安

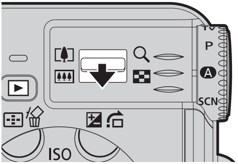
- ズームレバーで倍率を変更できます。
- 十字ボタンの ▲/▼ または ◀/▶ で表示位置を変更できます。
- MENUボタンを押すと、拡大表示が解除されます。
- 動画、インデックス再生時は拡大表示できません。
- 撮影直後に表示される画像も、拡大して見ることができます。
- コントローラーホイールを回すと、拡大したまま前または次の画像を選べます。

▦ 9画像ずつまとめて見る（インデックス再生）

1 ▶ボタンを押す

2 ズームレバーを▦ 側に押す

9画像ずつまとめて表示されます（インデックス再生）。





3 十字ボタンの ▲/▼ または ◀/▶ で選択画像を切り換える

- **DISP.** ボタンを押すと、選択されている画像の情報が表示されます(p. 17)。
- コントローラーホイールを回しても画像の切り換えができます。



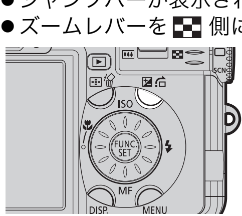
4 ズームレバーを 🔍 側に押す

インデックス再生を終了し、シングル再生に戻ります。

9画像ずつ表示を切り換える

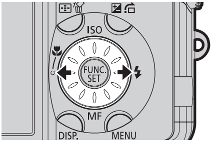
1 インデックス再生時(p. 91)に、⌂ ボタンを押す

- ジャンプバーが表示されます。
- ズームレバーを ⊞ 側に押しても切り換えできます。





2 十字ボタンの←/→で前または次の9画像に切り換える



- コントローラーホイールを回しても切り換えできます。
- FUNC./SETボタンを押しながら←/→を押すと、最初または最後の9画像が表示されます。

3 ボタンを押す

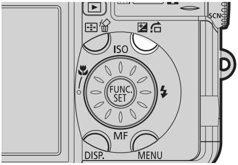
- ジャンプバーが消え、インデックス再生に戻ります。
- ズームレバーを 側に押しても切り換えできます。

目的の画像にジャンプする

メモリーカードにたくさんの画像を記録しているときは、次の5つの検索キーでジャンプしながら目的の画像を探し出すと便利です。

- 10枚ジャンプ　：画像を10枚ずつ飛ばして表示
- 100枚ジャンプ　：画像を100枚ずつ飛ばして表示
- 日付ジャンプ　：各撮影日の先頭画像を表示
- 動画ジャンプ　：動画を表示(再生もできます)
- フォルダジャンプ：各フォルダにある先頭画像を表示(p. 89)

1 シングル再生時に、ボタンを押す



- 検索ジャンプモードになります。

2 ▲/▼で 、 、 、 、 のいずれかを選び、◀/▶を押す



現在表示中の画像位置

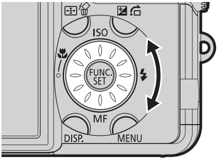
- コントローラーホイールを回しても検索できます。
- 検索キーを変更する場合は、▲/▼を押します。
- 検索キーによって、画面例は若干異なります。

シングル再生に戻るには
MENUボタンを押します。

3画像ずつ順送りしながら見る(スクロール再生)

1 シングル再生時にコントローラーホイールを回す

- 3画像ずつまとめて表示されます(中央の画像が少し大きく表示されます)。
- 右回転させると下から順に1画像ずつ入れ替わり、左回転させると上から順に1画像ずつ入れ替わります。
- 一定時間何も操作しないと、シングル再生に戻ります。





順番の目安(下の方が新しく撮影された画像)

シングル再生に戻るには
MENUボタンを押します。

回転して表示する

時計方向に90度、270度に回転して表示します。

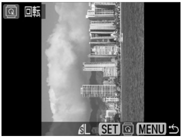
元画像



90度



270度



1 [▶(再生)]メニューから[回転]を選び、FUNC./SETボタンを押す

メニューの選択と設定のしかた(基本編 p. 15)



2 ←/→で回転する画像を選び、FUNC./SETボタンを押す



- FUNC./SETボタンを押すたびに、90度→270度→元画像が表示されます。
- コントローラーホイールを回しても画像を選べます。
- インデックス再生にしても設定できます。

●動画は回転表示できません。
●カメラで回転した画像をパソコンに取り込む場合、取り込みに使用するソフトウェアによっては回転結果が反映されないことがあります。

- ◆画像を回転したあとで、拡大することもできます(p. 91)。
- ◆縦横自動回転の設定(p. 86)が撮影モードで[入]のとき、縦位置で撮影した画像をカメラの液晶モニターに表示すると、画像は自動的に縦位置に回転して表示されます。

効果をつけて再生する

フェードインなどの効果をつけながら再生できます。

1 (再生)メニュー]から[再生効果]を選ぶ

メニューの選択と設定のしかた(基本編 p. 15)



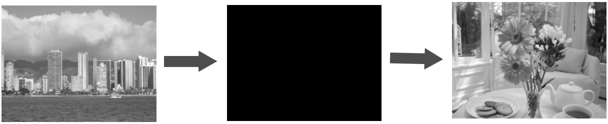
2 ←/→でOff、 、 のいずれかを選ぶ

コントローラーホイールを回しても選べます。

Off　:効果をつけないで再生します。

　:フェードイン(画面が暗くなり、新しい画面が徐々に明るくなります)しながら画像を切り換えます。

　:←ボタンを押すと左側から前の画像が、→ボタンを押すと右側から次の画像が表示されます。





動画を見る/編集する

撮影した動画を再生したり、前や後の不要な部分を削除できます。

- プロテクトされている動画は編集できません(p. 107)。
- 編集した動画を新規保存するときやファイルサイズによっては、時間がかかることがあります。途中でバッテリーがなくなると、編集した動画が保存できないことがあります。動画を編集するときは、フル充電バッテリーまたはACアダプター キットACK-DC20(別売)をお使いになることをおすすめします。

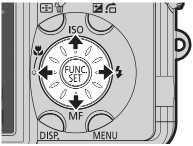
読み込み速度の遅いメモリーカードを使用していて、高い記録画素数と高いフレームレートで撮影された動画を再生しているときは、再生が一瞬中断することがあります。

1 再生モードで動画を選び、FUNC./SETボタンを押す



動画にはこのマークが表示されます

2 十字ボタンの←/→で次のいずれかの操作を選び、FUNC./SETボタンを押す

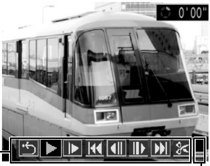


コントローラーホイールを回しても選べます。

動画再生パネル

(終了):手順1の画面に戻る

(プリント):動画のプリントができます。詳細はダイレクトプリントユーザーガイドをご覧ください。
(プリンター接続時にアイコンが表示されます)



動画再生パネル
再生音量レベル

(再生):動画と音声の再生開始

(スロー再生):スロー再生中に←/→で再生速度を変更できます。←で遅くなり、→で速くなります。(コントローラーホイールを回しても変更できます)

(先頭フレーム):最初のフレームを表示
(フレーム戻し):FUNC./SETボタンを押し続けると早戻し
(フレーム送り):FUNC./SETボタンを押し続けると早送り
(最終フレーム):最後のフレームを表示
(編集):動画の編集→手順3

再生中、スロー再生の操作

	再生	スロー再生
▲/▼ :再生中の音量を調節	○	×
FUNC./SET:再生の一時停止 もう一度押すと再生開始	○	○

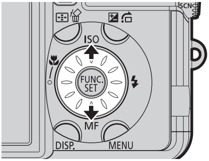
- ○印の操作が行えます。
- スロー再生中は音声が出ません。
- [(設定)]メニューでも再生音量を調節できます(p. 32)。

再生が終了すると

最後のフレームが表示されたままで停止します。
FUNC./SET: 動画再生パネルを表示
もう一度押すと最初のフレームから再生開始

- パソコンで動画を再生するとき、パソコンの性能によっては画像がフレーム(コマ)落ちしたり、音声が途切れることがあります。
- テレビで動画を再生するときの音量は、テレビで調節してください。
- 動画を編集しないときは、ここで操作終了です。

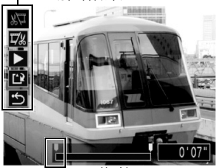
3 (編集)を選んだときは、十字ボタンの ▲/▼ で動画編集パネルの (前部を削除)または (後部を削除)を選ぶ



(前部を削除):動画の前部を削除
十字ボタンの ◀/▶ または、コントローラーホイールを回して位置を選びます。
(後部を削除):動画の後部を削除
十字ボタンの ◀/▶ または、コントローラーホイールを回して位置を選びます。
(再生):仮編集した動画を再生
(保存):動画を保存

（終了）：動画編集を中止し、手順2の画面に戻る

編集前の長さが 1 秒以上の動画を 1 秒単位で編集できます。



4 ←/→で削除する位置の画像を表示させ、↑/↓で（再生）を選び、FUNC./SETボタンを押す

仮編集した動画が再生されます。

- FUNC./SETボタンを押すと再生を停止します。
- 編集を続ける場合は手順3、4を繰り返します。

5 ↑/↓で（保存）を選び、FUNC./SETボタンを押す

- （終了）を選び、←/→で[OK]を選ぶと、編集内容を保存せずに手順 2 の画面に戻ります（コントローラーホイールを回しても選べます）。

6 ↑/↓または←/→で[上書き保存]または[新規保存]を選び、FUNC./SETボタンを押す

- コントローラーホイールを回しても選べます。

上書き保存： 編集前の画像と同じファイル名で保存されます。編集前のデータは残りません。

新規保存： 編集した画像に新しいファイル名をつけて保存されます。編集前のデータは残ります。

キャンセル： 保存せずに手順3の画面に戻ります。

メモリーカードの空き容量が足りないときは、上書き保存しかできません。このとき、動画編集バーのカウンターに▲が表示されます。

- ビデオ出力方式をPAL方式に設定して、640×480、320×240画素（30フレーム/秒）で撮影した動画をテレビやビデオなどに出力する場合、撮影したフレームレートより低いフレームレートで再生されます。なお、スロー再生時は、すべてのフレームを再生できます。オリジナルのフレームレートで画像を確認したい場合は、カメラの液晶モニターまたはパソコンで再生することをおすすめします。
- 他のカメラで撮影した動画などは、再生や編集ができない場合があります（「メッセージ一覧」（p. 129））。

音声メモを付ける

再生中（シングル再生、インデックス再生、拡大再生、撮影直後の画像表示中）の画像に最長60秒の音声メモを付けることができます。音声データはWAVE形式で保存されます。

1 画像再生中にボタンを押す

音声メモパネルが表示されます。

2 ←/→で●（録音）を選び、FUNC./SETボタンを押す



音声メモパネル

- コントローラーホイールを回しても選べます。
- 録音が始まり、録音時間が表示されます。カメラのマイクに向かって音声を発してください。
- 停止するときはFUNC./SETボタンを押します。引き続き録音をするときは、もう一度FUNC./SETボタンを押します。
- 1画像につき、合計が60秒に達するまで何度でも録音を追加できます。
- 録音中にメモリーカードの容量がいっぱいになると、電子音が鳴り、録音を終了します。

音声メモの再生

● [▶] を選びます。音声メモの付いた画像には [♪] マークが表示されています。
停止するときはFUNC./SETボタンを押します。引き続き再生するときは、もう一度FUNC./SETボタンを押します。▲/▼ で音量を調節できます。

音声メモの消去

● [♪] マークが表示されていることを確認し、◀/▶ で [消去アイコン] を選び、FUNC./SETボタンを押します。
◀/▶ で[消去]を選び、FUNC./SETボタンを押します。

● ◀/▶ の代わりに、コントローラーホイールを回しても選べます。

音声メモ設定の終了

● [マイク] ボタンを押します。

● 動画には音声メモを付けられません。
● メモリーカードの容量がいっぱいになると、「カードがいっぱいです」のメッセージが表示され、録音できません。
● 画像に互換性のない音声ファイルが添付されている場合、録音や再生はできません。録音や再生をしようとすると「互換性のないWAVEです」のメッセージが表示されます。互換性のない音声データはこのカメラで削除できます。
● プロテクトされている画像の音声メモは消去できません(p. 107)。

◆ 設定メニューでも、音声メモの音量を調節できます(p. 32)。
◆ 設定メニューの[消音]を[入]にすると音量は0になりますが、▲/▼ での音量調節はできます。

画像を自動再生する(スライドショー)

スライドショーの画像指定はDPOF(Digital Print Order Format)に準拠しています(p. 110)。

スライドショーをはじめる

メモリーカード内の全画像または選択した画像を自動再生します。

	全画像	メモリーカード内のすべての画像が順に再生されます。
	日付	指定した日付の画像が順に再生されます。
	フォルダ	指定したフォルダ内の画像が順に再生されます。
	動画	メモリーカード内のすべての動画が順に再生されます。
	静止画	メモリーカード内のすべての静止画が順に再生されます。
〜	カスタム 1 〜 カスタム 3	スライドショーで再生したい画像だけをマークし、[カスタム 1]から[カスタム 3]に保存できます。最大 998 画像まで指定でき、指定した順番に自動再生されます。

1 **[(再生)]メニューから[スライドショー]を選び、FUNC./SETボタンを押す**

- メニューの選択と設定のしかた(基本編 p. 15)
- スライドショーメニューが表示されます。



2 **▲/▼ または◀/▶で、、、、、〜のいずれかを選ぶ**

- (カスタム1)〜(カスタム3)で再生する画像を選ぶ方法は、「再生する画像を選ぶ」(p. 103)の手順3以降をご覧ください。
- コントローラーホイールを回しても選べます。



3 (▦[日付]、▢[フォルダ]を選んだとき)FUNC./SETボタンを押し、←/→で再生したい日付あるいはフォルダを選び、MENUボタンを押す

コントローラーホイールを回しても選べます。

4 ↑/↓ で[スタート]を選び、FUNC./SETボタンを押す

スライドショーが開始されます。終了すると、スライドショーメニュー画面に戻ります。

スライドショーの一時停止 / 再開

- FUNC./SET ボタンを押すと自動再生を一時停止します(❚❚が表示されます)。もう一度FUNC./SETボタンを押すと再生を続けます。

画像送り / 戻し

- ←/→ で前または次の画像へ進めます。
- コントローラーホイールを回しても送れます。

スライドショーの中止

- 再生中に MENU ボタンを押すとスライドショーが中止され、スライドショーメニューが表示されます。

5 スライドショーが終了したら、MENUボタンを押す

メニュー画面表示に戻ります。もう一度 MENU ボタンを押すと、再生画面に戻ります。

- シングル再生中に、FUNC./SETボタンと⎙〜ボタンを同時に押すと、そこからスライドショーが始まります。ただし、一番最後に撮影した画像を表示中のときは、同じ日に撮影した先頭の画像から再生します。
- 動画は、設定した再生間隔(p. 105)にかかわらず、記録した時間で再生されます。
- スライドショーの自動再生中は、節電機能は働きません(p. 23)。

再生する画像を選ぶ

スライドショーで再生したい画像だけをマークし、★1[カスタム1] から★3[カスタム3] に保存します。

最大998画像まで指定でき、選択した順に自動再生されます。

1 スライドショーメニューを表示し、↑/↓ で[全画像]を選ぶ(p. 102)

2 ←/→ で★1(カスタム1)～★3(カスタム3)のいずれかを選び、FUNC./SETボタンを押す



- すでに画像指定されているショーには、チェックマーク(✓)が表示されます。
- 初めは★1しか表示されません。
- コントローラーホイールを回しても選べます。
- 全画像を一度に選択するときは、↑/↓ で[全画像]を選び、FUNC./SETボタンを押します。さらに ↑/↓ で[全画像指定]を選んでFUNC./SETボタンを押し、←/→ で[OK]を選んでFUNC./SETボタンを押します。また ↑/↓ で★1～★3に戻り、FUNC./SETボタンを押すと、手順3の方法で特定の画像の選択、選択解除ができます。[リセット]を行った後も同様に、特定の画像の選択、選択の解除ができます。

3 再生する画像を選ぶ

シングル再生のとき



- ←/→ で画像を選びます。FUNC./SETボタンで選択、選択の解除ができます。
- 選択した画像の上部には、選択順の番号とチェックマーク(✓)が表示されます。
- ⌂ボタンを押すとジャンプバーが表示されます(p. 93)。ジャンプしたあとMENUボタンを押してからFUNC./SETボタンで、選択、選択の解除ができます。

インデックス再生のとき



- ズームボタンを⊞側に押し、インデックス再生(9画像表示)に切り換えます。
- ↑/↓ または ←/→ で画像を選びます。FUNC./SET ボタンで選択、選択の解除ができます。

●選択した画像の下部には、選択順の番号とチェックマーク(✓)が表示されます。

4 MENUボタンを押す

画像指定が終了します。

再生間隔やリピート設定をする

再生間隔	スライドショーで 1 画像を表示する時間を指定します。3 ～ 10 秒、15 秒、30 秒を指定できます。
リピート	スライドショーが一巡したら終了するか、繰り返し再生するかを設定します。

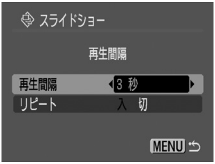
1 スライドショーメニューを表示する(p. 102)

2 ←/→ で[設定]を選び、FUNC./SETボタンを押す



3 ↑/↓ で[再生間隔]または[リピート]を選び、←/→ で設定する

コントローラーホイールを回しても設定できます。



再生間隔

●再生時間を選びます。

リピート設定

●[入]または[切]を選びます。

4 MENUボタンを押す

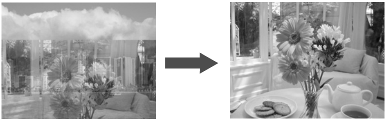
設定が終了します。

◆ 画像によっては、設定した時間と多少異なる再生間隔で再生されることがあります。

効果の設定をする

次の画像を表示するときに、画像切り換えの効果をつけて、スライドショーが楽しめます。

Off	効果をつけずに自動再生します。
	次の画像が徐々に明るくなりながら、画面の下から上方向に表示されます。
	初めに十字型に画像が表示され、徐々に全画像が表示されます。
	画像の一部が横方向に動きながら、徐々に全画像が表示されます。







1 スライドショーメニューを表示する(p. 102)

2 ▲/▼ で[効果]を選ぶ



3 ◀/▶ でOff、、、のいずれかを選ぶ

- コントローラーホイールを回しても選べます。
- 設定が終了します。

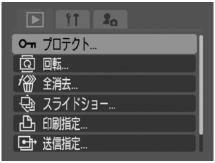


画像をプロテクト(保護)する

大切な画像を誤って消去しないように、プロテクトを設定できます。

1 [▶(再生)]メニューから[プロテクト]を選び、FUNC./SETボタンを押す

メニューの選択と設定のしかた(基本編 p. 15)



2 ←/→でプロテクトしたい画像を選び、FUNC./SETボタンを押す



- プロテクトを設定した画像には、⊶が表示されます。
- プロテクトを設定した画像でFUNC./SETボタンを押すと、プロテクトを解除します。
- ズームレバーでシングル再生とインデックス再生を切り換えて指定できます。
- インデックス再生のとき、ズームレバーを ▦ 側に押すと、9 画面ずつジャンプできます。画像の選択、選択の解除は、ズームレバーを🔍側に押し、ジャンプバーを消して(p. 92)から行います。
- コントローラーホイールを回しても画像を選べます。

メモリーカードを初期化（p. 25）すると、プロテクトした画像も消去されます。メモリーカードを初期化するときは、メモリーカード上の記録内容を十分に確認してから行ってください。

全画像を消去する

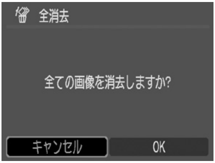
消去した画像は復元できません。十分に確認してから消去してください。

1 [▶(再生)]メニューから[全消去]を選び、FUNC./SETボタンを押す



メニューの選択と設定のしかた(基本編 p. 15)

2 十字ボタンの ←/→ で[OK]を選び、FUNC./SETボタンを押す



- 消去を取り消すときは[キャンセル]を選びます。
- コントローラーホイールを回しても選べます。

- ◆ 画像データだけでなく、メモリーカードの記録内容をすべて消去したいときは、メモリーカードを初期化してください(p. 25)。
- ◆ プロテクトされている画像は消去できません(p. 107)。

印刷について

このカメラで撮影した画像は、次の方法で印刷できます。

- カメラとカメラダイレクト対応プリンター[*1]をケーブルで直接つなぎ、カメラの ボタンを押すだけで簡単に印刷できます。
- 印刷する画像や枚数などを、あらかじめカメラで設定(DPOF[*2]印刷指定)しておけば、メモリーカードをプリント取り扱い店にお持ちいただくだけで、指定どおりに印刷できます。

＊1　このカメラは標準規格「PictBridge(ピクトブリッジ)」に対応していますので、キヤノン製のコンパクトフォトプリンター(SELPHY CP シリーズ)やPIXUSシリーズ、SELPHY DSシリーズのほか、キヤノン製以外のPictBridge対応プリンターでも印刷できます。

＊2　Digital Print Order Formatの略

本書ではDPOFの印刷指定を説明しています。印刷方法は、別冊のカメラユーザーガイド(基本編)、ダイレクトプリントユーザーガイドをご覧ください。また、お使いのプリンターの使用説明書もご覧ください。

■このカメラで使えるプリンターについて

- カメラダイレクト対応コンパクトフォトプリンター(SELPHY CPシリーズ)
  ➔システムマップ
- カメラダイレクト対応PIXUSシリーズ/SELPHY DSシリーズのプリンター
  ➔裏表紙に記載されているホームページ
  インクジェットプリンタ総合カタログ
  キヤノン販売お客様相談センター

DPOFの印刷指定

メモリーカードに記録されている画像の中から、印刷する画像や枚数をあらかじめカメラで指定できます。カメラダイレクト対応プリンターで一括して印刷するときや、プリント取り扱い店に注文するときに大変便利です。
プリンターから印刷する方法は、ダイレクトプリントユーザーガイドをご覧ください。

- DPOF対応の他のカメラで印刷指定されたメモリーカードの場合、⚠が表示されます。このカメラでそれらの印刷指定を変更すると、設定済みの印刷指定は、すべて書き換えられます。
- プリンターまたはプリント取り扱い店によっては、指定内容が反映されないことがあります。
- 動画は印刷指定できません。

印刷する画像を選ぶ

画像の指定には、次の2つの方法があります。

- 1画像ずつ指定する
- メモリーカード内のすべての画像を指定する

1 [▶(再生)]メニューから[印刷指定]を選び、FUNC./SETボタンを押す

メニューの選択と設定のしかた(基本編 p. 15)



2 ↑/↓ または ←/→ で[画像指定]を選び、FUNC./SETボタンを押す

- コントローラーホイールを回しても選べます。
- [リセット]を選ぶと、印刷指定された画像をすべて解除します。



3 印刷する画像を選ぶ

1 画像ずつ指定するとき

印刷タイプ(p. 113)によって手順が異なります。

- [スタンダード] / [両方]
  ◆/◆ で画像を選びます。
  FUNC./SETボタンを押し、◆/◆ で印刷枚数を指定したあと、FUNC./SETボタンを押します。(最大99枚まで)。枚数はコントローラーホイールを回しても選べます。
- [インデックス]
  ◆/◆ で画像を選び、FUNC./SET ボタンを押して、指定、指定解除を行います。

印刷枚数

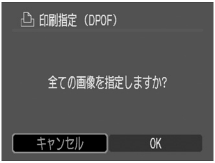




- ボタンを押すと、検索に便利なジャンプバーが表示されます(p. 93)。指定、指定の解除は、MENU ボタンを押し、ジャンプバーを消してから、FUNC./SETボタンを押して行います。
- ズームレバーを 側に押してインデックス再生(9画像表示)に切り換えても、同じ方法で指定できます(もう一度ズームレバーを 側に押すと、9画面ずつジャンプできます。ズームレバーを に押してジャンプバーを消してから、指定、指定解除を行います)。

メモリーカード内のすべての画像を指定するとき

- 手順2で[全画像]を選び、FUNC./SETボタンを押します。◆/◆ で[OK]を選んでFUNC./SETボタンを押します。



4 MENUボタンを押す

印刷指定が終了し、印刷指定メニューに戻ります。

- 撮影日時の古い画像から順に印刷されます。
- 最大998画像まで指定できます。
- [印刷タイプ]が[両方]の場合、印刷枚数は指定できますが、[インデックス]の場合は指定できません。[インデックス]では1枚のみ印刷されます。

印刷スタイルを設定する

次の内容を指定できます。

印刷タイプ	スタンダード	用紙 1 枚に 1 画像を印刷します。
	インデックス	画像を縮小してインデックス形式で印刷します。
	両方	スタンダードとインデックスの両方を印刷します。
日付		日付を入れて印刷します。
画像番号		画像番号を入れて印刷します。

1 [(再生)]メニューから[印刷指定]を選び、FUNC./SETボタンを押す

メニューの選択と設定のしかた(基本編 p. 15)

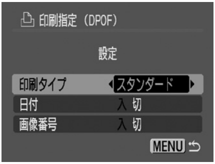


2 ↑/↓ または←/→で[設定]を選び、FUNC./SETボタンを押す

- [リセット]を選ぶと、画像の印刷指定をすべて解除します。
- コントローラーホイールを回しても選べます。



3 ▲/▼ で[印刷タイプ]、[日付]、[画像番号]のいずれかを選び、◀/▶ で設定する



印刷タイプ

- [スタンダード]、[インデックス]、[両方]のいずれかを選びます。

日付

- [入]または[切]を選びます。

画像番号

- [入]または[切]を選びます。

4 MENUボタンを押す

設定が終了し、印刷指定メニューに戻ります。

- [印刷タイプ]が[インデックス]の場合、[日付]と[画像番号]を同時に[入]に設定することはできません。
- [印刷タイプ]を[スタンダード]または[両方]に設定している場合、[日付]と[画像番号]を同時に[入]に設定できます。ただし、お使いのプリンターによって、印刷できる情報が異なることがあります。

日付は、[日付 / 時刻]で設定した日付スタイルで印刷されます(p. 33)。

画像の送信指定（DPOF送信指定）

パソコンに取り込む画像をあらかじめカメラ側で指定できます。パソコンへの送信方法は、ソフトウェアクイックガイドをご覧ください。

なお、この指定は、DPOF（Digital Print Order Format）に準拠しています。

> DPOF対応の他のカメラで送信指定されたメモリーカードの場合、⚠が表示されることがあります。このカメラでそれらの送信指定を変更すると、設定済みの送信指定は、すべて書き換えられます。

送信する画像を選ぶ

画像の指定には、次の2つの方法があります。

- 1画像ずつ指定する
- メモリーカード内のすべての画像を指定する

1 [▶（再生）]メニューから[送信指定]を選び、FUNC./SETボタンを押す



メニューの選択と設定のしかた（基本編 p. 15）

2 ←/→で[画像指定]を選び、FUNC./SETボタンを押す



- [リセット]を選ぶと、画像の送信指定をすべて解除します。
- コントローラーホイールを回しても選べます。

3 送信する画像を選ぶ

1 画像ずつ指定するとき



- ←/→ で画像を選び、FUNC./SET ボタンで指定または指定解除を設定します。指定されるとチェックマーク(✓)が付きます。
- ボタンを押すと、検索に便利なジャンプバーが表示されます(p. 93)。指定、指定の解除は、MENUボタンを押し、ジャンプバーを消してから、FUNC./SETボタンを押して行います。
- ズームレバーを 側に押してインデックス再生(9画像表示)に切り換えても、同じ方法で指定できます(もう一度ズームレバーを 側に押すと、9画像ずつジャンプできます。ズームレバーを に押してジャンプバーを消してから、指定、指定解除を行います)。

メモリーカード内のすべての画像を指定するとき



- 手順2で[全画像]を選び、FUNC./SETボタンを押します。←/→ で[OK]を選んでFUNC./SETボタンを押すと、すべての画像を指定します。
- [リセット]を選ぶと、すべての指定を解除します。

4 MENUボタンを押す

送信指定が終了し、送信指定メニューに戻ります。

- ◆ 撮影日時の古い画像から順に送信されます。
- ◆ 最大998画像まで指定できます。

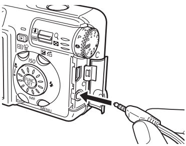
テレビを使って撮影／再生する

付属の AV ケーブル AVC-DC300 をお使いいただくと、テレビに画像を表示して撮影や再生ができます。ビデオ出力形式は、日本国内で採用している NTSC 方式が初期設定になっています。

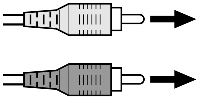
1 カメラとテレビの電源を切る

2 カメラのA/V OUT端子にケーブルを接続する

端子カバーを◀マークの方向にスライドさせて手前に開き、AV ケーブルを奥まで押し込みます。



3 テレビの映像入力端子と音声入力端子にAVケーブルを接続する



4 テレビの電源を入れ、入力切り換えをビデオ入力にする

5 撮影モードまたは再生モードでカメラの電源を入れる

- テレビに画像が表示されます。通常の撮影や再生ができます。
- 撮影時、テレビに画像が表示されていないときは、**DISP.**ボタンを押します。

- テレビ表示中は、液晶モニターに画像が表示されません。
- AVケーブルをステレオ対応のテレビに接続する場合は、音声入力端子の左右どちらかに接続してください。詳しくは、お使いのテレビの取扱説明書でご確認ください。
- ビデオ出力形式の設定方法(p. 34)
- 海外で使うとき(p. 143)
- （スティッチアシスト）では使用できません。

カメラを自分好みにする(マイカメラ機能)

カメラの起動画面や起動音、操作音、セルフタイマー音、シャッター音を「マイカメラコンテンツ」と呼びます。このカメラでは起動画面や音をそれぞれ3種類から選べます。

マイカメラコンテンツを変更する

1 MENUボタンを押し、➡を2回押す

[(マイカメラ)] メニューが表示されます。



2 ⬆/⬇ でメニュー項目を選び、⬅/➡ で設定したいコンテンツを選ぶ

- すべて同じコンテンツに設定したいときは、一番上の[セット]を選びます。
  - :切(表示や音が出なくなります)
  - :一般
  - :SF関連
  - :動物関連
- に登録されているコンテンツは変更できます(p. 119)。
- コントローラーホイールを回しても選べます。

3 MENUボタンを押す

メニューが終了し、設定が有効になります。

マイカメラメニューでコンテンツを選択していても、[(設定)]メニューの[消音]が[入]になっているときは、警告音以外の音は鳴りません。起動画面は表示されます(p. 32)。

マイカメラコンテンツを新規登録する

には、新しいコンテンツを登録できます。

メモリーカードに記録してある画像や新たに録音した音声を、マイカメラコンテンツとしてその場ですぐに登録できます。付属のソフトウェアを使うと、パソコンにある画像や音声、オンラインサービス（CANON iMAGE GATEWAY）（p. 153）からダウンロードしたコンテンツをカメラに登録することもできます。
コンテンツを登録できる項目は、次のとおりです。

・起動画面　・起動音　・操作音
・セルフタイマー音　・シャッター音

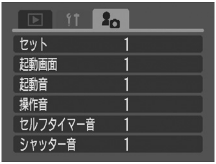
メモリーカード内の画像は、以下の手順で登録できます。

1 （再生）ボタンを押す

撮影モードでは登録できません。

2 MENUボタンを押し、➡を2回押す

[（マイカメラ）] メニューが表示されます。



3 ⬆/⬇で登録したいメニュー項目を選び、⬅/➡でまたはを選ぶ

DISP. が表示されます。

4 DISP.ボタンを押す

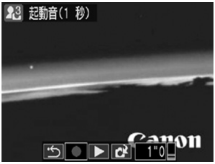
起動画面または音声を登録する画面が表示されます。



［起動画面］を登録するとき

⬅/➡で登録したい画面を選び、FUNC./SETボタンを押します。

[起動音] [操作音] [セルフタイマー音] [シャッター音] を登録するとき



←/→ で ● (録音)を選び、FUNC./SET ボタンを押します。

- コントローラーホイールを回しても選べます。
- 録音が開始され、録音時間が経過すると自動的に録音が終了します。各コンテンツの録音時間は、次のとおりです。

起動音:1 秒	操作音:0.3 秒
セルフタイマー音:2 秒	シャッター音:0.3 秒

- ←/→ で (登録)を選び、FUNC./SET ボタンを押します。

5 ←/→ で [OK] を選び、FUNC./SET ボタンを押す

- コントローラーホイールを回しても選べます。

●動画や音声メモ機能(p. 100)で記録した音声は、マイカメラコンテンツに登録できません。
●新しいマイカメラコンテンツを登録すると、以前に登録されていたコンテンツは消去されます。

マイカメラコンテンツを初期設定に戻すには、パソコンが必要です。付属のソフトウェア(ZoomBrowser EX/ImageBrowser)を使い、初期設定のコンテンツをカメラに登録してください。

マイカメラコンテンツに登録できるデータ

マイカメラコンテンツは、以下のタイプにしたがっていることが必要です。ただし、このカメラで撮影したメモリーカード内の画像は、下記タイプに関係なく登録できます。

- **起動画面**
  - 圧縮方法　JPEG(ベースライン JPEG)
  - サンプリングレート　4:2:0 または 4:2:2
  - 画像サイズ　320 × 240 画素
- **起動音、操作音、セルフタイマー音、シャッター音**
  - 圧縮方法　WAVE(モノラル)

- 量子化ビット　　　　8bit
- サンプリング周波数　11.025kHzまたは8.000kHz
- 記録時間

	11.025kHz	8.000kHz
起動音	1.0 秒以下	1.3 秒以下
操作音	0.3 秒以下	0.4 秒以下
セルフタイマー音	2.0 秒以下	2.0 秒以下
シャッター音	0.3 秒以下	0.4 秒以下

上記タイプ以外は、カメラに登録できません。

たとえば[セルフタイマー音]に「はい、チーズ！」などの掛け声を登録すると、シャッターが切れる2秒前にカメラが発声し、また他にもさまざまな音をお楽しみいただけます。陽気なリズムの音楽を登録すれば、目元もほころび、自然な笑顔を撮影できるかもしれません。演奏に合わせてポーズを決めるのも、マイカメラならではの撮影方法です。

マイカメラコンテンツの登録、作成についての詳細は、付属のソフトウェアクイックガイドをご覧ください。

こんなときには

カメラが動作しない

電源が入っていません。	● 電源を入れてください。 →「電源を入れる / 切る」(基本編 p. 3)
メモリーカードスロット / バッテリーカバーが開いています。	● メモリーカードスロット / バッテリーカバーがしっかり閉じていることを確認してください。
バッテリーの電圧が足りません。	● バッテリーを十分に充電してカメラに入れてください。 ● コンパクトパワーアダプター(別売)を使用してください。
カメラとバッテリーの接触不良です。	● バッテリーの電極を乾いたきれいな布で拭いてください。

撮影ができない

再生モード、またはパソコン接続 / プリンター接続モードになっています。	● 撮影モードに切り換えてください。 ● パソコン接続 / プリンター接続モード時は、インターフェースケーブルを抜いてから撮影モードに切り換えてください。
ストロボが充電中です。(液晶モニターの ⚡ が点滅表示)	● 充電が完了すると、液晶モニターの ⚡ の点滅が点灯に変わります。その後、シャッターボタンを押してください。
メモリーカードの空き容量がありません。	● 初期化した新しいメモリーカードを入れてください。 ● 必要であれば、メモリーカードに記録されている画像をパソコンに取り込んでから画像を消去し、空き容量を増やしてください。
メモリーカードが正しく初期化されていません。	● メモリーカードを初期化してください。 →「メモリーカードを初期化する」(p. 25) ● メモリーカードの論理フォーマットが壊れている可能性があります。最寄りのキヤノンサービスセンターにお問い合わせください。

SD メモリーカードがライトプロテクト（書き込み禁止）されています。	● SD メモリーカードのライトプロテクトスイッチを上にスライドしてください。 →「メモリーカードの取り扱い」（p. 134）
再生ができない	
他のカメラで撮影した画像やパソコンで編集した画像を再生しようとしました。	● 付属の ZoomBrowser EX や ImageBrowser を使って、再生できない画像をパソコンからカメラに追加すると、再生できることがあります。詳細は ZoomBrowser EX / ImageBrowser のソフトウェアガイド（PDF）をご覧ください。
ファイル名をパソコンで変更したり、ファイルの場所を変更しました。	● ファイル名およびフォルダ番号は、DCF の規格に従ったファイル名にしてください。 →「画像番号およびフォルダ番号について」（p. 88）
レンズが出たままで収納されない	
電源を入れたまま、メモリーカードスロット / バッテリーカバーを開けました。	● メモリーカードスロット / バッテリーカバーを閉じた後、電源を切ってください。
撮影モードから再生モードに切り換えました。	● この場合はレンズが収納されません。レンズを収納するときは、レンズカバーを閉じてください。
バッテリーの消耗が早い	
周囲の温度が低いためにバッテリーの容量が低下しています。	● 温度が比較的低い場所で撮影する場合には、ポケットなどにバッテリーを入れて、温めてからお使いください。
バッテリーの電極が汚れています。	● 電極を乾いたきれいな布などで拭いてからお使いください。

フル充電の状態で長期間(1 年くらい)放置したために、バッテリーの容量が低下しています。	● 新しいバッテリーと交換してください。
常温(23 ℃)で使用しているときに消耗が早い場合は、バッテリーの寿命です。	● 新しいバッテリーと交換してください。

バッテリーが充電できない

バッテリーとバッテリーチャージャーの接触不良です。	● バッテリーをバッテリーチャージャーにしっかりとセットしてください。
バッテリーの電極が汚れています。	● 電極を乾いたきれいな布などで拭いてから充電してください。
バッテリーの寿命です。	● 新しいバッテリーと交換してください。

カメラ内部で音がする

カメラの縦・横の向きが変わりました。	● カメラの向きを検出する機構が働いています。カメラの故障ではありません。

画像がぼやけている / ピントがあまい

カメラが動いています。	● シャッターボタンを押すときに、カメラを動かさないように注意してください。 ● シャッタースピードが遅く (手ぶれ警告)が点滅したときは、三脚をお使いください。
AF 補助光投光部が何かで覆われているため、AF が機能していません。	● AF 補助光投光部に指などがかからないように注意してください。
AF 補助光の設定が[切]になっています。	● AF 補助光の設定を[入]にしてください(p. 30)。

被写体がピントの合う範囲からはずれています。	● 通常撮影時は被写体から 44cm 以上離してください。 ● マクロモード時はレンズ先端から 4 ～ 44cm(ワイド端)/30 ～ 44cm(テレ端)の距離で被写体を撮影してください。
ピントが合いにくい被写体です。	● フォーカスロック、AF ロック、またはマニュアルフォーカスで撮影してください。 →「ピントが合いにくい被写体を撮る」(p. 66)
撮影した画像の被写体が暗すぎる	
撮影時の光量が不足しています。	● ストロボを常時発光にしてください。
被写体が周辺部に比べて暗すぎます。	● 露出補正値をプラス側に設定してください。 ● AE ロックまたはスポット測光機能をお使いください。 →「露出を固定して撮る(AE ロック)」(p. 70) →「測光方式を切り換える」(p. 72)
被写体が遠すぎてストロボ光が届いていません。	● ストロボをお使いになるときは、内蔵ストロボ撮影範囲内に被写体を収めて撮影してください。 ISO オート時:55cm ～ 4.2m(ワイド端)/ 55cm ～ 2.0m(テレ端) ● ISO 感度を上げて撮影してください。 →「ISO 感度を変更する」(p. 78)
撮影した画像の被写体が明るすぎる	
被写体が近すぎてストロボ光が強すぎます。	● ストロボをお使いになるときは、内蔵ストロボ撮影範囲内に被写体を収めて撮影してください。 ● ストロボをお使いになるときは、ストロボ調光補正、またはストロボ発光量を調節(p. 81)してください。

被写体が周辺部に比べて明るすぎます。	● 露出補正値をマイナス側に設定してください。 ● AE ロックまたはスポット測光機能をお使いください。 →「露出を固定して撮る(AE ロック)」(p. 70) →「測光方式を切り換える」(p. 72)
照明が直接、もしくは被写体の表面で反射してカメラに入っています。	● 被写体に対するカメラのアングルを変えてください。
ストロボが常時発光になっています。	● ストロボをオートまたは発光禁止にしてください。

液晶モニターに赤紫などの帯が縦に表示される

被写体が極端に明るすぎます。	● CCD 特有の現象で、カメラの故障ではありません(動画にはこの帯が記録されますが、静止画には記録されません)。

液晶モニターにノイズが表示される / 液晶モニターに表示される被写体の動きがぎこちない

暗い場所で撮影をする場合、液晶モニターを見やすくするために、カメラが自動的に液晶モニターに映し出される画像を明るくしました。	● 記録される画像に影響はありません。 →「ナイトビュー機能について」(p. 18)

画像に白い点などが写る

ストロボ撮影時に空気中のちりやほこり、虫などにストロボ光が反射しました。特に以下の条件で目立ちやすくなります。 ● ワイド側で撮影した場合 ● 絞り優先 AE で絞り数値を大きくして撮影した場合	● デジタルカメラ特有の現象で、カメラの故障ではありません。

ストロボが発光しない

ストロボが発光禁止になっています。	● ストロボを常時発光してください。 →「ストロボを使って撮る」(基本編 p. 12)

テレビに正しく出力できない

お使いの地域のビデオ出力形式に合っていません。	● 正しいビデオ出力形式(NTSC または PAL)に合わせてください。 ● 日本国内の出力形式は「NTSC」です。 →「設定メニュー」(p. 34)
(スティッチアシスト)で撮影しています。	● ではテレビに出力できません。他の撮影モードで撮影してください。

ズームの操作ができない

動画撮影中にズームボタンを操作しました。	● 動画を撮影する前にズーム操作をしてください(基本編 p. 11)。 ただし、デジタルズームは撮影中もお使いになれます。(スタンダードのみ)(p. 42)

メモリーカードからの画像の読み出しが遅い / メモリーカードへの画像の記録時間が長い	
違う機器で初期化したメモリーカードが入っています。	● このカメラで初期化したメモリーカードをお使いください。 →「メモリーカードを初期化する」(p. 25)

日付 / 時刻の画面が表示された	
内蔵のリチウム電池の容量がなくなっています。	● ただちに充電してください。(基本編 p. 5)

メッセージ一覧

撮影または再生中に液晶モニターに表示されるメッセージには以下のものがあります。
プリンターを接続しているときに表示されるメッセージについては、ダイレクトプリントユーザーガイドをご覧ください。

処理中...

撮影した画像をメモリーカードに記録しています。
再生モードを起動中です。
カメラやメニューの設定を初期設定に戻しています。

カードがありません

メモリーカードがカメラに入っていないときに、撮影または再生しようとしました。

ライトプロテクト

SD メモリーカードがライトプロテクト(書き込み禁止)されています。(p. 107)

記録できません

メモリーカードがカメラに入っていないのに撮影しようとしました。

カードが異常です

メモリーカードに異常があります。

カードがいっぱいです

メモリーカードの容量いっぱいに画像や音声が記録されていて、これ以上記録や保存ができません。または、これ以上画像指定(スライドショーやプリントなど)や音声メモはできません。

ファイル名が作成できません

カメラが作成しようとするディレクトリと同じ名前のファイルが存在する、もしくは、すでに画像番号が最大値になってしまったために、ファイル名を作成できません。設定メニューで[画像番号]を[オートリセット]に設定してください。必要な画像、あるいは音声をパソコンに取り込んだ後、メモリーカードを初期化してください(p. 25)。なお、初期化するとメモリーカード内の画像およびデータはすべて消去されます。

バッテリーを交換してください

バッテリーの残量が少なく、カメラが動作不能です。ただちに充電されたバッテリーに交換するか、バッテリーを充電してください。

画像がありません

メモリーカードに画像が記録されていません。

画像が大きすぎます

4992 × 3328 画素より大きな記録画素数の画像、またはファイルサイズの大きな画像を再生しようとしました。

互換性のない JPEG です

互換性のない JPEG 圧縮の画像を再生しようとしました。

データが壊れています

データの破壊されている画像を再生しようとしました。

RAW

RAW タイプで記録された画像を再生しようとしました。

認識できない画像です

特殊なタイプ（他社カメラ特有の記録タイプなど）で撮影した画像、または別のカメラで撮影した動画を再生しようとしました。

拡大できない画像です

別のカメラもしくは異なるタイプで撮影した画像、いったんパソコンに取り込んで加工した画像、または動画を拡大しようとしました。

回転できない画像です

別のカメラもしくは異なるタイプで撮影した画像、いったんパソコンに取り込んで加工した画像、または動画を回転しようとしました。

互換性のない WAVE です

録音済みの音声メモのタイプが正しくないので、この画像に追加録音できません。

登録できない画像です

このカメラ以外で撮影した画像、または動画を起動画面に登録しようとしました。

プロテクトされています

プロテクトされている画像、動画、音声メモを、消去または編集しようとしました。

指定が多すぎます

プリント指定、送信指定、またはスライドショーの画像指定が多すぎます。これ以上指定できません。

指定完了できませんでした

プリント指定、送信指定、またはスライドショーの画像指定を保存できませんでした。

指定できない画像です

JPEG 以外の画像をプリント指定しようとしました。

編集できません

スライドショー指定ファイルが壊れています。

Exx

カメラに異常が発生しました。いったん電源を入れ直して、再び撮影または再生してください。頻繁に、このエラーコードが表示されるときは、故障ですので「xx」の数値を控えてサービスセンターへお持ちください。また、撮影直後にこのエラーコードが表示されたときは、撮影されていない場合がありますので、再生モードに切り換えてご確認ください。

バッテリーの取り扱い

バッテリー残量の確認

バッテリーの残量が低下すると、液晶モニターに以下のようなアイコンやメッセージが表示されます。

（バッテリーアイコン）	バッテリー残量が低下しています。長時間お使いになる場合は早めに充電してください。
バッテリーを交換してください	バッテリーの残量が少なく、動作不能です。直ちにバッテリーを交換してください。

バッテリー性能について（p. 148）

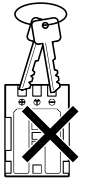
取り扱い上の注意

- このバッテリーは、リチウムイオン充電池のため、充電する前に使い切ったり、放電する必要はありません。いつでも充電できます。
- 完全に放電した状態から、フル充電になるまでの時間は、約90分です（当社測定基準による）。5～40℃の範囲で充電することをおすすめします。充電時間は、周囲の温度や充電状態によって異なります。
- 海外で使うとき→ p. 143
- 長時間お使いになるときは、ACアダプターキット ACK-DC20（別売）をお使いになることをおすすめします（p. 136）。

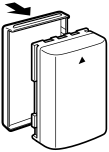
- バッテリー、カメラの⊕Ⓣ⊖の端子は、常にきれいにしておいてください。
  汚れていると、接触不良の原因となります。充電や使用する前に、先の細いやわらかい綿棒などで乾拭きしてください。
- バッテリーチャージャーに、バッテリーを装着した状態で、急激に逆さにしたり、強く振ったりしないでください。バッテリーが飛び出して危険です。
- バッテリーは、0～40℃の範囲で使用できますが、性能を十分に発揮させるためには、10～30℃で使用することをおすすめします。低温下では、バッテリーの性能が一時的に低下し、使用時間が短くなる（バッテリーアイコンが早めに表示される）ことがあります。このようなときは、使用直前までポケットなどに入れて温めてから使用すると、バッテリーの性能が回復することがあります。ただし、このとき、ポケットにキーホ

ルダーなどの金属類は入れないでください。バッテリーがショートするおそれがあります。
- テーブルクロス、じゅうたん、布団、クッションなどをかけたまま充電しないでください。内部に熱がこもり火災の原因となることがあります。
- バッテリーパック NB-2LH / NB-2L（別売）以外のバッテリーは充電しないでください。
- バッテリーをカメラやバッテリーチャージャーに取り付けたままにしておくと、お使いにならなくても微小の電流が流れて過放電になり、寿命短縮の原因になります。カメラを使用しないときは、バッテリーを取り出しておいてください。
- キーホルダーなどの金属でバッテリーの「⊕」と「⊖」の端子を接触させると（図 A）、バッテリーパックの破損の原因になることがあります。バッテリーを持ち運ぶときや、お使いにならないときは、必ず端子カバーを取り付けてください（図 B）。NB-2LH をお使いの場合、端子カバーの取り付けかたによって、バッテリーの充電状態を確認することができます（図 C、D）。もう一度お使いになるときには、必ずフル充電してからお使いください。

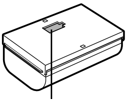
図A



図B

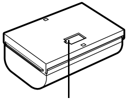


図C
充電済
バッテリー



青地が窓から
見えるように
取り付けます。

図D
使い切った
バッテリー



図Cの逆に取
り付けます。

- 充電しておいたバッテリーも、少しずつ自然に放電しています。使用する当日または前日にフル充電することをおすすめします。
- フル充電の状態で長期間（1 年くらい）保管すると、バッテリーの寿命を縮めたり、性能の劣化の原因となることがありますので、湿度の低い、室温（0 ～ 30 ℃）で保管してください。また長期間使用しないときは、1 年に 1 回程度フル充電し、カメラで使い切ってから保管してください。
- 電源を入れていると、機能を使わなくてもバッテリーは消耗します。こまめに電源を切ることが、使用時間を長くさせるコツです。
- 規定の充電をしたにもかかわらず、著しく使用できる時間が低下するときは、寿命と考えられます。新しいバッテリーと交換してください。

Li-ion

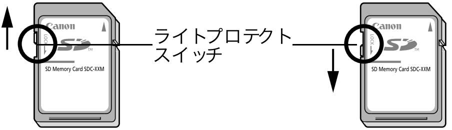
- この製品には、充電式のリチウムイオン電池を使用しています。
- リチウムイオン電池はリサイクル可能な貴重な資源です。
- 充電式のリチウムイオン電池の回収、リサイクルについては、下記の「キヤノン / キヤノン販売」のホームページで確認できます。
- 交換後不要になった電池は、ショートによる発煙、発火の恐れがありますので、端子を絶縁するためにテープを貼るか、個別にポリ袋に入れてリサイクル協力店にある充電式電池回収 BOX に入れてください。
- リサイクル協力店へのお問い合わせは、以下へお願いします。
  - 製品、リチウムイオン電池をご購入いただいた販売店
  - 「有限責任中間法人 JBRC」および「キヤノン / キヤノン販売」
    有限責任中間法人 JBRC ホームページ
    http://www.jbrc.net/hp/contents/index.html
    キヤノン / キヤノン販売ホームページ
    http://cweb.canon.jp/ecology/recycle5.html

リサイクル時のご注意
- バッテリーを分解しないでください。

メモリーカードの取り扱い

ライトプロテクト（書き込み禁止）スイッチについて

SDメモリーカードには、ライトプロテクト（書き込み禁止）スイッチが付いています。このスイッチを下にスライドさせると、カードへのデータ書き込みが禁止され、カード内の画像などを保護できます。書き込み、消去や初期化をする際には、スイッチを上にスライドさせてください。



メモリーカードは、必ず正しい向きでカメラに入れてください。誤って逆に入れた場合、本体の故障の原因となることがあります。

メモリーカードの取り扱いについて

- メモリーカードは精密電子機器です。曲げたり、強い力を加えたり、衝撃や振動を与えないでください。
- メモリーカードを分解したり、改造しないでください。
- メモリーカード裏の端子部にゴミや水、異物などを付着させたり、手や金属で触れたりしないでください。
- 貼られているラベルをはがしたり、別のラベルやシールを貼ったりしないでください。
- メモリーカードに文字を書くときは、油性ペンをお使いください。鉛筆やボールペンを使用するとカード本体に損傷を与えたり、記録されているデータが壊れたりすることがあります。
- 電気ノイズ、静電気、カメラやメモリーカードの故障などによりカード内のデータが壊れたり、消失することがありますので、大切なデータはバックアップを取ることをおすすめします。
- 温度差の大きな場所へ急に移動すると、メモリーカードに水滴が付き(結露)、故障の原因になることがあります。結露を防ぐには、移動の前にビニール袋に入れて密閉しておき、周囲の温度に十分慣らしてから出してお使いください。
- 結露したときは、水滴が自然に消えるまで常温で放置してください。
- メモリーカードは、下記の場所で使用したり、保管しないでください。
  - ほこりや砂ぼこりの立つ場所
  - 高温多湿の場所

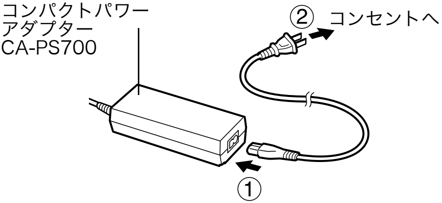
ACアダプターキット（別売）を使う

カメラを連続して長時間お使いになるときや、パソコンやプリンターと接続するときは、AC アダプターキット ACK-DC20（別売）*の利用をおすすめします。

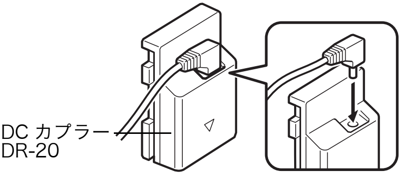
＊コンパクトパワーアダプター CA-PS700 と DC カプラー DR-20、DC カプラー DR-700（PowerShot S80 では使用しません）、電源ケーブルが入っています。

1 **コンパクトパワーアダプターに電源コードを接続し（①）、電源プラグをコンセントに差し込む（②）**

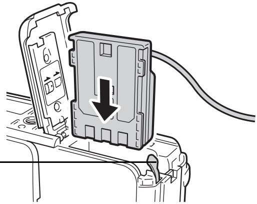
電源コードは奥までしっかり差し込んでください。



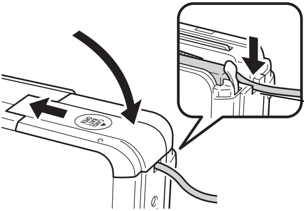
2 **DCカプラー DR-20の端子にコンパクトパワーアダプターのケーブルを接続する**



3 メモリーカードスロット/バッテリーカバーを開き、DCカプラーを、ロックされるまで押し込む



4 ケーブルでDCカプラーケーブル用カバーを押しながら、メモリーカードスロット/バッテリーカバーを閉じる



- 使用後はコンパクトパワーアダプターを取り外してください。

- コンパクトパワーアダプターの取り付けや取り外しは、必ずカメラの電源を切ってから行ってください。
- ACアダプターキット ACK-DC20以外をお使いになると、カメラやコンパクトパワーアダプターの故障の原因となることがあります。
- AC アダプターキット ACK-DC20 を他の機器に使用しないでください。発煙発火やACアダプターキットの故障の原因となることがあります。

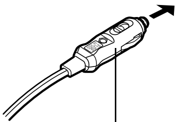
海外で使うとき(p. 143)

カーバッテリーチャージャー（別売）を使う

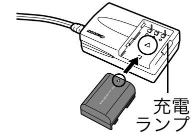
カーバッテリーチャージャー CBC-NB2（別売）をお使いになると、自動車のシガーライターソケットから電源を取って、バッテリーを充電できます。

カーバッテリーチャージャーをお使いになるときは、必ず自動車のエンジンをかけた状態にしてください。エンジンをかけないで使用すると、車種によっては、電力を消耗することがあり、バッテリーあがりの原因となります。また、取り外すときも、必ず自動車のエンジンをかけたまま行ってください。

1 自動車のエンジンをかけた状態で、シガープラグを自動車のシガーライターソケットに接続する



2 バッテリーを図のように、バッテリーチャージャーの奥までしっかり押し込む



- バッテリーは、バッテリーの矢印とカーバッテリーチャージャーの矢印を合わせて正しく入れてください。
- 充電中は充電ランプが赤色に点灯し、充電が完了すると緑色に点灯します。
- 充電終了後、バッテリーを取り出してから、カーバッテリーチャージャーをシガーライターソケットから抜きます。

- エンジンを止めるときは充電を中止し、シガープラグをシガーライターソケットから抜いてください。
- 充電を再開するときは、エンジンをかけてからシガープラグをシガーライターソケットに差し込んでください。
- このカーバッテリーチャージャーはマイナス接地車専用です。プラス接地車ではお使いになれません。

レンズ（別売）を使う

別売のワイドコンバーターWC-DC10、テレコンバーターTC-DC10を取り付けるときは、別売のコンバージョンレンズアダプター LA-DC20が必要です。

⚠ 警告

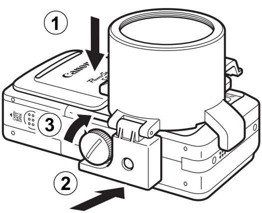
- ワイドコンバーター/テレコンバーターを取り付けるときは確実にねじ込んでください。緩んで脱落して割れると、ガラスの破片でけがをすることがあります。
- ワイドコンバーター/テレコンバーターは絶対に太陽や強烈なライトに向けないでください。

- 画像周辺部の一部が暗くなるので、ストロボはお使いになれません。
- テレコンバーターは、テレ端付近でお使いください。それ以外のズーム位置でお使いになると、画像が欠け（ケラレ）ることがあります。
- ワイドコンバーター / テレコンバーターにフィルターやレンズフードは取り付けられません。
- ファインダーはお使いになれません。

レンズを取り付ける

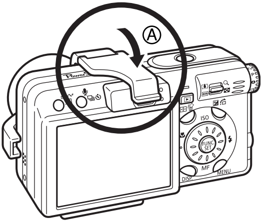
1 レンズカバーを開き、電源を入れる

2 コンバージョンレンズアダプターをカメラの前面にぴったりと合わせた後、コンバージョンレンズアダプターを三脚ねじ穴に取り付ける

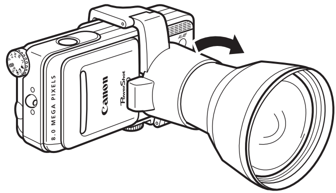


3 Ⓐを矢印の方向にカチッと音がするまで倒してファインダー接眼部に取り付ける

- コンバージョンレンズアダプターを取り外すときは、逆の手順で取り外してください。

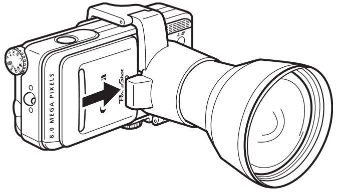


4 レンズを矢印の方向に回して取り付ける



- カメラにコンバージョンレンズアダプター、ワイドコンバーター、テレコンバーターを取り付けているときは、レンズ部分を持って持ち運ばないでください。カメラが脱落し、破損することがあります。
- レンズの保護のため、コンバージョンレンズアダプターを片手で固定しながら着脱してください。
- レンズを取り付けて□（スティッチアシスト）で撮影した場合、付属のソフトウェア「PhotoStitch」を使ったパソコンでの合成が正しく行えません。
- ご使用前にはレンズ面のゴミをブロワーブラシなどで完全に取り除いてください。ゴミにピントが合ってしまいます。
- レンズには指紋がつきやすいのでご注意ください。

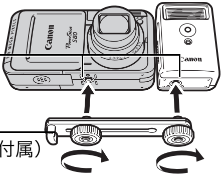
撮影の合間など短時間電源を切るときは、レンズを付けたままレンズカバーを軽く押し込み、電源を切ってください。長時間使わないときはレンズを取り外し、レンズカバーを閉じてください。



補助ストロボ（別売）の使いかた

ハイパワーフラッシュ HF-DC1

被写体が遠すぎて内蔵ストロボが届かないときに使用する外付け用補助ストロボです。次のようにカメラとハイパワーフラッシュをブラケットで固定して撮影してください。
ハイパワーフラッシュに付属の取扱説明書もあわせてご覧ください。



- 撮影モードが**M**のとき、ハイパワーフラッシュは発光しません。
- 電池が消耗するとハイパワーフラッシュの充電時間が長くなりますので、ご使用後はハイパワーフラッシュの電源 / 発光モードスイッチを必ずお切りください。
- 撮影中は、発光部や受光部を指でふさがないようにご注意ください。
- 日中の野外では、ハイパワーフラッシュがこのカメラの内蔵ストロボ光を感知できずに発光しないことがあります。
- 撮影場所の周囲で他のカメラがストロボを使用していると、ハイパワーフラッシュが発光することがあります。
- 反射物がないときはハイパワーフラッシュが発光しないことがあります。
- 連続して撮影するときは、1 画像目の撮影時は発光しますが、2画像目以降は発光しません。
- 電池の使用可能時間が著しく短いときは、電池の電極を乾いた布なのでよく拭いてからお使いください。電極が皮脂などで汚れていることがあります。
- 寒冷地（0℃以下）でお使いになるときは、予備として市販のリチウム電池（CR123AまたはDL123）を用意して、使用直前までポケットなどに入れて温めてから交互にお使いになることをおすすめします。
- 電池をハイパワーフラッシュに入れたままにしておくと、液漏れが原因で故障することがあります。お使いにならないときは、ハイパワーフラッシュから取り出して乾燥した冷暗所に保管してください。
- ブラケットの取り付けねじは、しっかり締め付けてください。カメラとハイパワーフラッシュが落下して故障の原因となります。

- ◆ハイパワーフラッシュをブラケットに固定する前に、リチウム電池(CR123AまたはDL123)が入れてあるか確認してください。
- ◆被写体に正しくストロボが当たるように、カメラとハイパワーフラッシュの前面は平行に、側面はぴったり合うように固定してください。
- ◆ハイパワーフラッシュを取り付けた状態でも三脚はお使いになれます。

海外で使うとき

このデジタルカメラは、海外でもお使いになれますが、次のことにご注意ください。

テレビでの再生

ビデオ出力方式は、初期設定では日本国内で採用しているNTSC方式に設定されていますが、海外の別方式(PAL方式:主にヨーロッパ、オセアニア、アジア(一部地域を除く))に切り換えることができます。海外に旅行したときなどは、切り換えてお使いください(p. 34)。

電源について

コンパクトパワーアダプターやバッテリーチャージャーは、AC100～240V 50/60Hzまでの電源に接続できます。ただし、電源コンセントの形状が異なる国では、変換プラグアダプターが必要になります(1つの国の中でも地域によってコンセントの形状が異なる場合があります)。変換アダプターについては、旅行代理店などで確認の上、あらかじめご用意ください。

- ●コンパクトパワーアダプターやバッテリーチャージャーを海外旅行用の電子変圧器などに接続すると、故障の恐れがありますので使用しないでください。
- ●このカメラの保証書は、国内に限り有効です。万一、海外旅行先で故障、不具合が生じた場合は、持ち帰ったあと国内の「お客様相談センター」にご相談ください。

カメラのお手入れ

カメラ本体やレンズ、ファインダー、液晶モニターなどが汚れたときは、次の方法でクリーニングしてください。

絶対にシンナーやベンジン、中性洗剤や水などを使ってクリーニングしないでください。部品の変形や故障の原因となることがあります。

カメラ本体	：やわらかい布やメガネ拭きなどで汚れを拭き取ってください。
レンズ	：市販のブロワーブラシでほこりやゴミを吹き払った後、やわらかい布で軽く拭き取ってください。

カメラ本体やレンズは、絶対に有機溶剤を含むクリーナーなどで拭かないでください。どうしても汚れが落ちないときは、最寄りのキヤノンサービスセンター（別紙でご確認ください）にご相談ください。

ファインダー、液晶モニター	：市販のブロワーブラシでほこりやゴミを吹き払ってください。汚れがひどいときは、やわらかい布やメガネ拭きなどで軽くこすって汚れを落としてください。

絶対に液晶モニターの表面を強くこすったり押したりしないでください。液晶モニターの故障やトラブルの原因となります。

主な仕様

すべてのデータは、当社測定条件によります。都合により、記載内容を予告なしに変更することがあります。

PowerShot S80

カメラ部有効画素数	:	約800万画素
撮像素子	:	1/1.8型 CCD（総画素数 約830万画素）
レンズ	:	5.8（W）- 20.7（T）mm (35mm フィルム換算28 - 100mm) F2.8（W）- F5.3（T）
デジタルズーム	:	約4.0倍（光学ズームと合わせて最大約14倍のデジタルズームが可能）
光学ファインダー	:	実像式ズームファインダー、視野率約80%
液晶モニター	:	2.5型低温ポリシリコン TFT液晶カラーモニター、約11.5万画素、視野率100%
AF方式	:	TTLオートフォーカス AFロックおよびマニュアルフォーカス可能 9点（AiAF）/1点（AF） （1点時の測距枠：中央固定 / アクティブフレームコントロールの選択可能）
撮影距離 （レンズ先端より）	:	通常撮影：44cm～∞（W/T） マクロ撮影：4～44cm（W）/30～44cm（T） マニュアルフォーカス撮影：4cm～∞（W）/30cm～∞（T）
シャッター	:	メカニカルシャッター＋電子シャッター
シャッタースピード	:	15～1/2000秒 ● 撮影モードによって異なる ● 1.3秒以上のスローシャッター時はノイズリダクション処理あり
測光方式	:	評価 / 中央部重点平均 / スポット＊ （測光枠：中央固定＊ / AF枠連動）
露出補正	:	±2段（1/3段ステップ）、AEB撮影可能、セーフティシフト可能
ISO感度	:	オート＊、ISO 50 / 100 / 200 / 400相当 ＊カメラが最適値に自動設定
ホワイトバランス	:	TTLオート / プリセット（太陽光 / くもり / 電球 / 蛍光灯 / 蛍光灯H / ストロボ/水中） / マニュアル
内蔵ストロボ	:	オート＊/ 常時発光＊/ 発光禁止 ＊赤目緩和設定可能 FEロック/スローシンクロ/後幕シンクロ可能

（W）：ワイド端 （T）：テレ端

内蔵ストロボ撮影範囲	:	55cm～4.2m(W)/ 55cm～2.0m(T)(ISOオート時)
ストロボ調光補正	:	±2段(1/3段ステップ)
撮影モード	:	オート クリエイティブゾーン:プログラム / シャッタースピード優先 / 絞り優先/マニュアル/カスタム イメージゾーン:スペシャルシーン *1/ マイカラー/スティッチアシスト / 動画*2 *1 ポートレート、風景、夜景、ナイトスナップ、キッズ&ペット、パーティ /室内、新緑/紅葉、スノー、ビーチ、打上げ花火、水中、デジタルマクロ *2 スタンダード、ラージ、ライト、マイカラー
連続撮影	:	約1.8画像/秒(ラージ/ファインモード、液晶モニター非表示のとき)
インターバル撮影	:	撮影間隔:約1～60分(1分単位) 撮影枚数:2 ～ 100 画像(最大画像数は、メモリーカードの容量による)
セルフタイマー	:	約10秒後 / 約2秒後 / カスタム
パソコン接続撮影	:	USB 接続時、付属のソフトウェアを利用して撮影可能
記録媒体	:	SDメモリーカード、マルチメディアカード
ファイルフォーマット	:	DCF準拠*1、DPOF対応
データタイプ	:	静止画:Exif 2.2(JPEG)*2 動画:AVI(画像データ:Motion JPEG/ 音声:WAVE(モノラル))
圧縮率	:	スーパーファイン / ファイン / ノーマル
記録画素数(静止画)	:	ラージ: 3264×2448画素 ミドル1: 2592×1944画素 ミドル2: 2048×1536画素 ミドル3: 1600×1200画素 スモール: 640× 480画素
記録画素数 / フレームレート(動画)	:	1024×768画素、15フレーム/秒 640×480画素、30フレーム/秒 640×480画素、15フレーム/秒 320×240画素、30フレーム/秒 320×240画素、15フレーム/秒 160×120画素、15フレーム/秒 メモリーカードの容量がいっぱいになるまで撮影可能(ただし160×240画素、15フレーム/秒は最長3分) (1回の最長撮影容量:1GB)

(W):ワイド端 (T):テレ端

再生モード	：	シングル再生（ヒストグラム表示可能、効果付加可能）/インデックス再生（サムネイル9画像）/スクロール再生/拡大再生（液晶モニター上で約10倍に拡大可能、拡大した状態で画像送りが可能）/ジャンプ（10枚ごと、100枚ごと、各撮影日の先頭画像、動画、フォルダごとのジャンプが可能。インデックス再生時は、9画像ごとに再生） スライドショー（効果の付加が可能） 音声メモ（最長60秒まで記録/再生が可能） 動画再生（スロー再生可能）
ダイレクトプリント	：	PictBridge / CPダイレクト / Bubble Jet ダイレクトに対応
表示言語	：	日本語 / 英語 / ドイツ語 / フランス語 / オランダ語 / デンマーク語 / フィンランド語 / イタリア語 / ノルウェー語 / スウェーデン語 / スペイン語 / 中国語（簡体字）/ ロシア語 / ポルトガル語 / ギリシャ語 / ポーランド語 / チェコ語 / ハンガリー語 / トルコ語 / 中国語（繁体字）/ 韓国語 / タイ語
マイカメラ（カスタマイズ）機能	：	起動画面 / 起動音 / 操作音 / セルフタイマー音 / シャッター音が、以下の方法で設定可能 1.このカメラで記録 2.付属のソフトウェアやオンラインフォトサービス「CANON iMAGE GATEWAY」からダウンロード
CANON iMAGE GATEWAY対応機能	：	付属のソフトウェアを使って、CANON iMAGE GATEWAY の会員登録、画像のアップロード、オンラインアルバムサービス、携帯電話アルバム通知・閲覧サービス、カメラへのマイカメラコンテンツのダウンロード、オンラインプリントサービス、オリジナル写真集作成サービス、ホームプリンティングサービスなどが利用可能
インターフェース	：	USB 2.0 Hi-Speed（mini-B）、PTP [Picture Transfer Protocol] 映像/音声出力端子（NTSCまたはPAL切換可能）
電源	：	1.リチウムイオン充電池 NB-2LH（付属）/NB-2L（別売） 2.ACアダプターキット ACK-DC20（別売） 3.カーバッテリーチャージャー CBC-NB2（別売）
動作温度	：	0～40℃
湿度	：	10～90%
大きさ	：	104.0 × 57.0 × 38.8 mm（突起部を除く）
質量	：	約225 g（本体のみ）

＊1　DCFは（社）電子情報技術産業協会（JEITA）で主として、DSC等の画像ファイル等を、関連機器間で簡便に利用しあえる環境を整えることを目的に標準化された規格「Design rule for Camera File system」の略称です。
＊2　このデジタルカメラは、Exif 2.2（愛称「Exif Print」）に対応しています。Exif Printは、デジタルカメラとプリンターの連携を強化した規格です。Exif Print対応のプリンターと連携することで、撮影時のカメラ情報を活かし、それを最適化して、よりきれいな印刷結果を得ることができます。

バッテリー性能について

	撮影画像数		再生時間
	液晶モニター表示時（CIPA 測定法準拠）	液晶モニター非表示時	
バッテリーパック NB-2LH（フル充電）	約 200 画像	約 700 画像	約 5 時間

- 撮影画像数は、撮影状況、撮影モードなどにより異なります。
- 動画データは除きます。
- 使用環境温度が下がると、バッテリーの性能が低下したり、バッテリーアイコンが早めに表示されることがあります。このような場合は、使用直前までポケットなどに入れて温めてから使用すると、バッテリーの性能が回復することがあります。

＜測定条件＞

撮影：　常温（23±2℃）・常湿（50±20%）で、2回に1回ストロボを発光させながら、30秒間隔でワイド端とテレ端で交互に撮影し、10画像撮影後に電源切。十分な時間＊が経過したあと、再び電源を入れて同様の方法で撮影を繰り返す。
●付属のメモリーカードを使用
＊電池の温度が常温に戻るまでの時間

再生：　常温（23±2℃）・常湿（50±20%）の環境において、1画像あたり3秒間隔で連続再生。

バッテリーの取り扱い（p. 132）

メモリーカードの種類と記録可能画像数の目安

■静止画

□:付属のカード

		SDC-32M	SDC-128M	SDC-512MSH
L 3264 × 2448 画素		8	35	139 *
		13	59	231
		29	123	479
M1 2592 × 1944 画素		11	49	190
		20	87	339
		40	173	671
M2 2048 × 1536 画素		17 *	76	295
		32	136	529
		63	269	1041
M3 1600 × 1200 画素		28	121	471
		51	217	839
		97	411	1590
S 640 × 480 画素		109	460	1777
		168	711	2747
		265	1118	4317

欄はスムーズ連写できます。(p. 43)
＊物理フォーマットをしたときのみスムーズ連写できます。

■動画

□:付属のカード

			SDC-32M	SDC-128M	SDC-512MSH
1024 × 768 画素	15 フレーム / 秒	1024 15	14 秒	1 分 4 秒	4 分 9 秒
640 × 480 画素	30 フレーム / 秒	640 30	14 秒	1 分 4 秒	4 分 9 秒
640 × 480 画素	15 フレーム / 秒	640 15	30 秒	2 分 7 秒	8 分 14 秒
320 × 240 画素	30 フレーム / 秒	320 30	42 秒	3 分 1 秒	11 分 42 秒
320 × 240 画素	15 フレーム / 秒	320 15	1 分 24 秒	5 分 55 秒	22 分 53 秒
160 × 120 画素	15 フレーム / 秒	160 15	3 分 26 秒	14 分 29 秒	55 分 57 秒

- この数値は当社で設定した標準撮影条件によるもので、被写体、撮影状況、撮影モードなどにより変わります。

- **L**、**M1**、**M2**、**M3**、**S** は記録画素数を表します。
- (スーパーファイン)、(ファイン)、(ノーマル)は圧縮率を表します。

1画像の容量(目安)

■静止画

記録画素数		圧縮率		
		S	ファイン	ノーマル
L	3264 × 2448 画素	3436 KB	2060 KB	980 KB
M1	2592 × 1944 画素	2503 KB	139 5KB	695 KB
M2	2048 × 1536 画素	1602 KB	893 KB	445 KB
M3	1600 × 1200 画素	1002 KB	558 KB	278 KB
S	640 × 480 画素	249 KB	150 KB	84 KB

■動画

記録画素数	フレームレート	
	30 フレーム / 秒	15 フレーム / 秒
1024 × 768 画素	ー	1980 KB/ 秒
640 × 480 画素	1980 KB/ 秒	990 KB/ 秒
320 × 240 画素	660 KB/ 秒	330 KB/ 秒
160 × 120 画素	ー	120 KB/ 秒

SDメモリーカード

インターフェース	:SD メモリーカード規格準拠インターフェース
大きさ	:32.0 × 24.0 × 2.1mm
質量	:約 2g

バッテリーパック NB-2LH

形式	:充電式リチウムイオン電池
公称電圧	:DC 7.4V

公称容量	:720mAh
充放電	:約 300 回
動作温度	:0 〜 40 ℃
大きさ	:33.3 × 45.2 × 16.2mm
質量	:約 43g

バッテリーチャージャー CB-2LW

定格入力	:AC 100V 〜 240V(50/60Hz) 12VA(100V)〜 15VA(240V)
定格出力	:DC 8.4V / 0.55A
充電時間	:約 90 分
動作温度	:0 〜 40 ℃
大きさ	:91.0 × 22.5 × 56.0mm
質量	:約 68g

コンパクトパワーアダプターCA-PS700

(別売のACアダプターキット ACK-DC20に付属)

定格入力	:AC100 〜 240V(50 / 60 Hz) 30VA(100V)〜 40VA(240V)
定格出力	:DC 7.4V / 2.0A
動作温度	:0 〜 40 ℃
大きさ	:112 × 29 × 45mm(本体のみ)
質量	:約 186g(電源ケーブルを除く)

カーバッテリーチャージャー CBC-NB2(別売)

入力電圧	:DC 12V または DC 24V
出力	:DC 8.4V、0.55A
動作温度	:0 〜 40 ℃
大きさ	:91.0 × 56.0 × 29.5mm
質量	:約 145g

ワイドコンバーター WC-DC10（別売）

倍率	：約 0.8 倍
焦点距離	：22.4mm（35mmフィルム換算）
レンズ構成	：2 群 2 枚
撮影距離 （レンズ先端より）	：27cm ～∞
ねじ径	：37mm 標準フィルターネジ （PowerShot S80 に装着時は、コンバージョンレンズアダプターLA-DC20 が必要）
大きさ	：直径 63.5mm　長さ 24.5mm
質量	：約 95g

テレコンバーター TC-DC10（別売）

倍率	：約 2.0
焦点距離 （テレ端）	：200mm（35mmフィルム換算）
レンズ構成	：3 群 4 枚
撮影距離 （レンズ先端より）	：1.2m ～∞
ねじ径	：37mm 標準フィルターネジ （PowerShot S80 に装着時は、コンバージョンレンズアダプターLA-DC20 が必要）
大きさ	：直径 63.5mm　長さ 54.5mm
質量	：約 145g

コンバージョンレンズアダプター LA-DC20

ねじ径	：37mm 標準フィルターネジ
大きさ	：使用時　62.2 × 70.6 × 73.9mm 収納時　62.2 × 76.4 × 44.6mm
質量	：約 28g

CANON iMAGE GATEWAYを利用する

CANON iMAGE GATEWAY は、キヤノンのデジタルカメラを購入された方がお使いになれるオンラインフォトサービスです。オンラインで会員登録(無料)されると、いろいろなサービスがご利用いただけます。

- バージョンアップなど、サポート情報の電子メール配信サービス
- オンラインアルバムサービス
- 携帯電話アルバム通知・閲覧サービス
- ホームプリンティングサービス
- プリント注文サービス(有料)
- オリジナル写真集(フォトブック)作成サービス(有料)
- マイカメラコンテンツのダウンロード

http://www.imagegateway.net/

- 最新のサービス内容は、上記のサイトでご確認いただけます。
- 会員登録方法は、上記のサイト、またはソフトウェアクイックガイドでご確認いただけます。

＊インターネットに接続できる環境(プロバイダとの契約やブラウザソフトのインストール、各種回線接続が完了済み)が必要です。
＊プロバイダとの接続料金、およびプロバイダのアクセスポイントへの通信料金は、別途かかります。

ワンポイントアドバイス

AFについて(p. 64)

AiAF＊は、広い測距範囲を持ち、ピント合わせを的確に判断します。ピントを合わせたい被写体が中央部から多少ずれている場合でも、目的の被写体にピントを合わせます。

＊Ai＝Artificial intelligence：人工知能
　AF＝オートフォーカス

マクロ機能の一歩進んだ使いかた(基本編 p. 13)

マクロ機能は、レンズのズーム機能と合わせて使うと、より特徴のある画面作りが可能になります。例えば花を撮るとき、ズームを広角側にすると花の背景までピントのあった画像が撮影できますし、望遠側にすると花の背景を効果的にぼかすことができます。


広角側でマクロ撮影


望遠側でマクロ撮影

セルフタイマーの活用法(p. 39)

シャッターボタンを押した瞬間に、カメラが動いてしまう可能性があります。このときセルフタイマーを[2秒セルフタイマーアイコン]に設定すると、2秒後に撮影されるのでカメラのブレを防ぐことができます。
また、カメラを固定した台の上に置いたり、三脚を使用すると、よりきれいな画像を撮影できます。

露出補正のしかた（p. 73）

このカメラは、適切な明るさで撮影できるよう、自動で露出を補正しています。しかし、撮影状況によっては、実際よりも明るく写ったり、暗く写ってしまうことがあります。このようなときは、手動で露出を補正してください。

●露出不足（アンダー）



全体が黒っぽく写ります。そのため、白いものはグレーのように写ります。白っぽい被写体や逆光で撮影すると、露出アンダーになることがあります。＋側に補正してください。

●適切な露出



●露光過多（オーバー）



全体が白っぽく写ります。そのため、黒いものはグレーのように写ります。黒っぽい被写体や暗い場所で撮影すると、露出オーバーになることがあります。－側に補正してください。

ISO感度（p. 78）

ISO感度とは、光を感じる能力を数値化したものです。数値が高いほど感度が高くなります。ISO感度が高いと、暗い室内や屋外でストロボを使わずに撮影でき、また手ぶれしにくくなります。例えば、ストロボ撮影禁止の場所で撮影するときに便利です。その場の光を生かした雰囲気のある仕上がりになります。



ISO50相当



ISO400相当

タ行

ナ行

ハ行

マ行

ラ行

ワ行

補修用性能部品について
保守サービスの為に必要な補修用性能部品の最低保有期間は、製品の製造打切り後7年間です。（補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。）

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。カメラユーザーガイド（本書）に従って正しい取り扱いをしてください。

11
付録

各撮影モードで設定できる機能一覧

各撮影モードで設定できる機能は、以下のとおりです。
C のときは、登録時に設定した内容で撮影ができます。（p. 85）

			AUTO	SCN				P	Tv	Av	M
記録画素数（静止画） p. 36	ラージ	L	○*	○*	○*	△*	–	○*	○*	○*	○*
	ミドル 1	M1	○	○	○	△	–	○	○	○	○
	ミドル 2	M2	○	○	○	△	–	○	○	○	○
	ミドル 3	M3	○	○	○	△	–	○	○	○	○
	スモール	S	○	○	○	△	–	○	○	○	○
圧縮率 p. 36	スーパーファイン		○	○	○	△	–	○	○	○	○
	ファイン		○*	○*	○*	△*	–	○*	○*	○*	○*
	ノーマル		○	○	○	△	–	○	○	○	○
記録画素数 / フレームレート（動画） p. 36	1024 × 768 画素 15 フレーム / 秒		–	–	–	–	○	–	–	–	–
	640 × 480 画素 30 フレーム / 秒		–	–	–	–	○*	–	–	–	–
	640 × 480 画素 15 フレーム / 秒		–	–	–	–	○	–	–	–	–
	320 × 240 画素 30 フレーム / 秒		–	–	–	–	○	–	–	–	–
	320 × 240画素 15フレーム/秒		–	–	–	–	○	–	–	–	–
	160 × 120画素 15フレーム/秒		–	–	–	–	○	–	–	–	–
ストロボ 基本編 p. 12	オート		○*	○*(1)(2)	○*(3)	–	–	○	–	–	–
	常時発光		–	○(1)(2)	○	△	–	○	○	○	○
	発光禁止		○	○(4)	○	△*	–	○*	○*	○*	○*
赤目緩和 p. 37			○	○(1)(2)	○	△	–	○	○	○	○
スローシンクロ p. 38		入	–	○(5)	○	△	–	○	–	○	–
		切	○	○	○*	△*	–	○*	○	○*	○
ストロボ自動調光 p. 81		入	○	○(2)	○	△	–	○	○*	○*	–
		切	–	–	–	–	–	–	○	○	○
ストロボ発光 p. 83	先幕		○	○(2)	○*	○	–	○*	○*	○*	○*
	後幕		–	–	○	–	–	○	○	○	○
ドライブモード p. 43, 39	シングル撮影		○*	○*	○*	○*	○*	○*	○*	○*	○*
	連続撮影 p. 43		–	○	–	–	–	○	○	○	○
	10 秒セルフタイマー p. 39		○*	○*	○*	△*	○*	○*	○*	○*	○*
	2 秒セルフタイマー		○	○	○	△	○	○	○	○	○
	カスタムセルフ		○	○	–	–	–	○	○	○	○
インターバル撮影 p. 83			–	–	–	–	–	○	○	○	○
AF 枠の選択 p. 64	AiAF		○*	○*(6)	○*	○	○	○	○	○	○
	一点		○	○	○	–	–	○*	○*	○*	○*
	マニュアル選択		–	–	–	–	–	○	○	○	○
マニュアルフォーカス p. 68		MF	–	○(1)	○	○	○	○	○	○	○
MF 拡大表示 p. 68			–	○(1)	○	–	–	○	○	○	○

			AUTO	SCN				P	Tv	Av	M
AF 補助光 p. 30			○	○(1)	○	△	○	○	○	○	○
マクロ			○	○(7)	○	△	○	○	○	○	○
デジタルズーム p. 42		入	○	○	−	−	○*(8)	○	○	○	○
		切	○*	○*(2)	○	△	○	○*	○*	○*	○*
セーフティシフト p. 56			−	−	−	−	−	−	○	○	−
露出補正 p. 73			−	○	○	△	−	○	○	○	−
露出シフト p. 48			−	−	−	−	○(9)	−	−	−	−
測光方式 p. 72	評価測光		○	○	○*	○	○	○*	○*	○*	○*
	中央部重点平均測光		−	−	○	−	−	○	○	○	○
	スポット測光		−	−	○	−	−	○	○	○	○
	中央固定		−	−	○	−	−	○*	○*	○*	○*
	AF 枠連動		−	−	−	−	−	○	○	○	○
AE ロック / FE ロック撮影 p. 70, 71			−	−	○	−	○(10)	○	○	○	−
ブラケット撮影	AEB p. 79		−	−	−	−	−	○	○	○	−
	フォーカスブラケット p. 80		−	−	−	−	−	○(11)	○(11)	○(11)	○(11)
ホワイトバランス(12) p. 74		WB	−(13)	−(13)	○	△	○(14)	○	○	○	○
色効果 p. 76			−	−	−	△	○(15)	○	○	○	○
	コントラスト / シャープネス / 色の濃さ		−	−	−	−	−	○	○	○	○
ISO 感度 p. 78		ISO	−(16)	−(16)	−(16)	−(16)	−(16)	○	○	○	○(17)
オリジナル保存 p. 59			−	−	○	−	−	−	−	−	−
グリッドライン p. 30			○	○	○	−	○	○	○	○	○
ヒストグラム p. 22			−	−	−	−	−	○	○	○	○
縦横自動回転 p. 86		入	○*	○*	○*	△*	−	○*	○*	○*	○*
		切	○	○	○	△	○	○	○	○	○

＊初期設定　○：設定可　△：最初の1画像で設定可　ー：設定不可

- ：電源を切っても、解除されません。
- [日付/時刻]、[言語]、[ビデオ出力方式]、[エリア設定]以外のメニュー設定と、ボタン操作によるカメラの設定を、一度にすべて初期設定に戻すことができます（p. 35）。

(1) 花火は設定できません。
(2) デジタルマクロは設定できません。
(3) ワンポイントカラー、スイッチカラーでは発光禁止が初期設定になります。
(4) 風景、新緑/紅葉、花火、デジタルマクロは初期設定になります。
(5) 風景、夜景、ナイトスナップのみ［入］設定になります（[切］設定はできません）。
(6) 花火、キッズ&ペットでは設定できません。
(7) 風景、花火、キッズ&ペット、デジタルマクロでは設定できません。
(8) スタンダードのみ設定できます。
(9) AEロックした後、露出シフトができます。
(10) AEロックのみ設定できます。
(11) マニュアルフォーカス時のみ設定できます。
(12) 色効果が[セピア]、[白黒]の場合は設定できません。
(13) ホワイトバランスは［オート］に設定されます。
(14) ホワイトバランス［ストロボ］は設定できません。
(15) マイカラーは設定できません。
(16) カメラが自動的に設定します。
(17) ISO［オート］は設定できません。

11
付録